澱江

'89

大阪経済大学同窓会

雲に向かい
風に対(むか)って
翔べ、歩め
ときに想え
母校の灯(ひ)を
若者よ

学校法人　大阪経済大学　理事長　鈴木　亨

1989 No.25

グラビア
翔べ若者よ……1

特集
座談会
心のふるさと、我が母校
―関西のOBは、今―……3

キャンパスだより
経大女子学生1日シリーズ……17
女子学生100人に聞きました……20

同窓会本部だより……25

特集レポート・変貌する大阪……29
卒業生直撃インタビュー　南澤正広・林　武さん……32

学園の近況……38

ゼミ短信・先生の近況……51

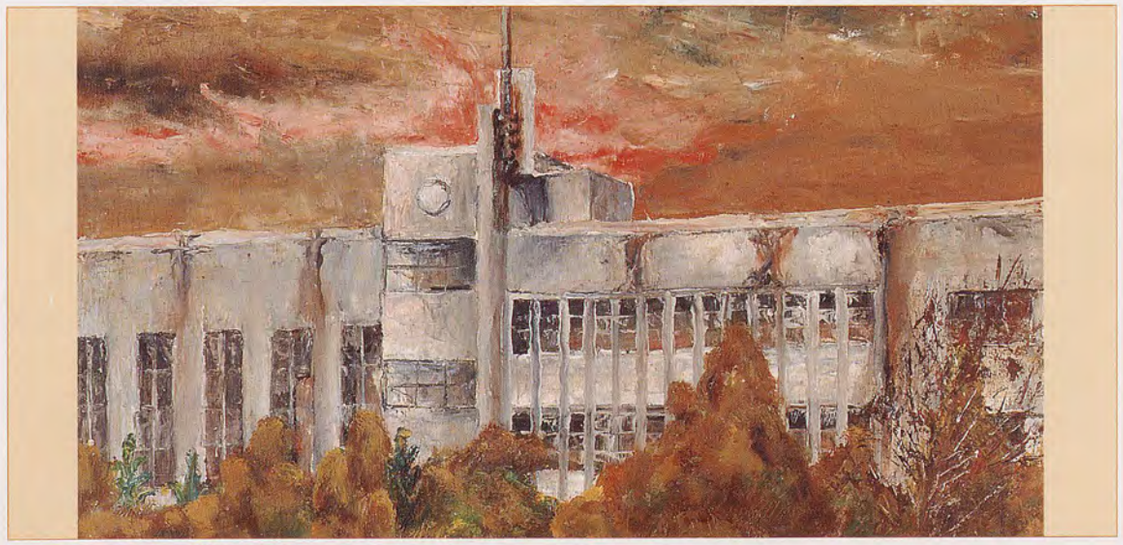
同窓会支部役員……60

同期生クラブOB会……61
監督紹介・ハンドボール部　上野洋一氏……74
卒業生直撃インタビュー
ハンドボール全日本監督　津川　昭さん……75
話題の同窓生　増永五郎兵衛氏……67

北から南から……76
卒業生直撃インタビュー
島根県温泉津町長　宮原史郎さん……83

事務局だより……85

編集部だより……86



絵に寄せて

表紙の油絵は、昭和36年(1961年)秋の大樟祭、学園内の樹木に立て掛けられていた美術部展示の１点。同部に在籍していた、松田　巧（昭和37年卒、１期寮生）君に依頼して譲ってもらった作品である。作者については大学事務局の努力にもかかわらず不詳。

前方に描かれている小川は、２～３年前まで子供がフナを追い回していたというその面影を偲ぶよすがもなくなっていたが、まだ、浅い流水がせせらいでいて、ときに稚魚のうごめく陰が水草のかいまに見かけられたものである。

アカシア並木のある土手の上は砂利道であった。今日、きれいに舗装された遊歩道となっている。やや広いその歩道が突き当たりで急に狭くなっているあたりに、あまり立派とはいえない橋があった。授業に遅刻しそうになった昭和高商生が、この橋と土手を走りながら登校した姿は、当時近辺の快い語り草となっていた。

今と想い較ぶれば、学舎・学生ともども「今昔物語」の栄枯ひとしおの感がある。

（寄贈者　井手口茂美記）

特集
座談会

心のふるさと、我が母校
——関西のOBは、今——

平成元年７月８日(土)　大阪東急ホテルにて

柴田秀一（8）　日機装置株式会社代表取締役会長（元日立造船・関西ラグビー協会監事）
重里　實（11）　ツバメタオル株式会社代表取締役社長（泉佐野商工会議所会頭）
鮫島　圭（18）　高砂熱学工業株式会社常務取締役名古屋支店長（ハンドボール部ＯＢ会長）
野尻忠正（19）　奈良交通株式会社代表取締役副社長（同窓会奈良支部長）
滝　重一（23）　大阪日産自動車株式会社取締役営業推進本部副本部長（硬式野球部ＯＢ会長）
津秋靖博（29）　広報部副部長（司会）
大門由秀（46）　広報部員（記録）
他　広報部員

平成元年度　同窓会総会

▲総会風景(記念館4階大会議室)

▲感謝状贈呈(総会場にて)

◀受付(1階ロビー)

▲▼パーティ風景

▲吹奏楽総部の演奏(受付前にて)

(鏡開き)

司会　本日はお忙しいところご足労いただきまして、ありがとうございました。

『澱江』での特集座談会は、今回で5回目になるわけです。昨年磯野会長から、「広報部も少し外へ出て動き回る広報部になったらどうだ」という提案がございまして、昨年は東京でテーマは同じく「心のふるさと、我が母校」、「東京のOBは、今」ということでやらせていただきました。

今年もこのシリーズでやっていきましょうということで、今回「関西のOBは、今」というテーマでお話しいただきたいと思います。

なぜここで関西か。来年は花の万博も開かれますし、関西新国際空港がいよいよ動き始めた。また、円が乱高下し、貿易摩擦からジヤパンパッシング等、大変な国際経済の揺れ動いているという中で、いままでは関西経済の地盤沈下ということもいわれておりましたが、ここにきて、「そうじゃないんだ、関西も動き始めたよ」というエポックの年であろうと思います。そういう意味で、まず最初に、お集まりいただきました諸先輩から、ただいま携わっていらっしゃいますお仕事のこととかを簡単にご紹介いただきまして、自己紹介をお願いしたいと思います。まず一番に、柴田先輩から口火をきっていただきたいと思います。

「下水関係は、発展途上国なみ」

柴田　私は、現在日立造船の子会社の日機装置という会社の会長をしております。仕事は日立造船が受注したシールド機械を現地に投入して、それの運転指導とか、アフターサービス、メンテナンスを主体とした会社です。シールドというのは、地下鉄工事とか、下水道工事とかですけれども、日本は、ほかの工業は世界一なのに、下水関係は発展途上国なみなんです。例えば河川の汚れ、身近には仁徳御陵のお堀がヘドロでいっぱいです。これを先進国なみにしようと思ったら20年ぐらいかかると思います。

柴田　秀一

仕事のほかに現在、大阪府ラグビーフットボール協会の理事長を3年ほどやりました後、関西協会の会計幹事を5年間やっております。経大ラグビーがAリーグに昇格するまで昭和25年から約10年間監督をしておりまして、徐々に実力が向上し、ラグビー界でも認められるようになったときに、大阪経大から非常に保守的なラグビー協会の中へ入れていただいて、今日までお仕事をさせてもらっており、大変光栄にも思いますし、名誉だなと感じるわけです。

現在そういうことで、母校のラグビー部OB会長も、25年からやっております。おそらくOBの混乱もなく意志統一してる部は、ラグビー以外にまずなかろうかと自負してるわけです。

司会　今、ラグビー部のOBは何人ぐらいらっしゃるんですか。

柴田　300人ぐらいおりますか。しかし、300人おっても、通信で返事がくるのが半分です。OB会費が集まるのもまずそのぐらいですね。

「ガンバリズムの効果」

重里　私の在学中は戦争の一番激しくなってきた時代でして、昭和19年の夏、繰り上げで卒業した一人です(注)。当時、17、18年と2年間は、立派に学業のほうも努めましたが、19年に入り、3年生になってからは、半分は学徒動員で勤労奉仕に狩り出されておりました。勉強が半分もできなかったが、その時のほうが思い出はかえって残っているといえるんじゃないかと思います。

非常に厳しい労働作業の中でも、私たちは2年間、昭和高商のいわゆる黒正イズムに鍛えられていましたので、それが役に立ったといいますか、勤労奉仕のきつい労働もこたえずに、なつかしい思い出のほうが今では残っております。卒業と同時に特別幹部候補生として、久留米の予備士官学校へ入隊したわけですが、10カ月厳しい訓練が続いてもへこたれませんでした。泉南支部の同窓生の久礼君が、同じく昭和高商を出て久留米の予備士官

学校に入りましたが、私どもにとっては楽しい思い出のみがのこる軍隊生活でした。

しかし、士官学校を出て原隊へ復帰してからは戦争末期でして、食事にあるいは環境の変化に悩まされました。終戦後は、私たちは繰り上げ卒業(注)しておりましたから、母校に行くこともなしに過ごしたわけです。その後、おやじの会社に入って、本業のタオル製造に精一杯努めて参りました。現在、泉佐野市の商工会議所の会頭を引き受けてやっております。

(注)　正規の3月卒業を半年早め昭和19年9月に、文部省の「修業年限の短縮」通達による。

「空港によるインパクト」

泉佐野市は大阪市と和歌山市の中間にありまして、人口は約9万5千人ほどですが、いまから15年前、昭和49年に「関西国際空港は泉州沖が適地である」という、航空審議会の答申が出ました。それから十余年、昭和61年には関西国際空港の泉州沖設置は決まりました。

その空港によるインパクトを、泉佐野市あるいは泉州一円の住民・企業家が受けたいということで、広く情報収集をし、また、皆さんからのいろんな要望を受けて、府あるいは空港会社へ、その意見を反映するというのが、私どもの会議所のいまの立場でございます。

空港も、小さな地方空港ではありません。日本で初めての24時間運行の空港です。年間に約16万回の発着をするというような、日本で一番大きな空港になる予定で、平成5年3月にオープンすることになっております。

人も、年間約2千500万の出入りがあると言われておりますし、そこに勤めておる人も家族を含めて約10万人に達すると聞いておりますそれと同時に、いま成田で扱っている貨物の、約2倍の貨物を扱うことになります。

この日本一の国際空港によるインパクトというのは、何といいましても、松下電器基地になり、その情報をフルに活用できるという大きな利点であります。

今一つは、福祉の面で高度医療の誘致をしています。またこの空港だけではなしに、日本のあるいは東南アジアあたりまでを含めて、広い範囲にいつでも出動できるような、医療部隊の基地を設置するといったことも具体化しつつあります。

また、経済・文化の面では、いろんな研究施設の張りつき。具体的にいうと、松下電器の通信事業部が大きく進出して来てくれるか、あるいは各大学の研究部門を、内陸部の丘陵地帯に誘致するとか、そんなことも順次具体化されつつあります。

そういう具合に、空港をインパクトとしての将来の町の活性化と、また、空港の発展とに大きく期待しているところであります。しかしながら反面、不安の面もあるわけでして、その第一番は、空港が発展するにつれて、それにまつわるアクセス道路についての、騒音公害が起こってくるんじゃなかろうかと心配しているわけであります。

加えて、交通網が発達すれば環境汚染が激しくなるんじゃないか。あるいは2兆円、3兆円といわれる大きなプロジェクトの建設工事で、いろいろな人の出入りによる治安が乱れるんじゃないかといった心配もあります。新関西空港の建設には大きな期待と不安が交錯しているというのが、正直、私たちの気持じゃなかろうかと思います。

さて、本業のタオルについてですが、全国のタオルの約半分は泉佐野市で製造されています。そして現況からいいますと、日本のタオルはいまや世界でダントツのトップになっております。特に、日本人は、ネクタイと一緒でタオルまでファッションが最近やかましく言われておりまして、年に2回ぐらいは、柄、色を変えて市場に進出しております。

タオルも、アジアNIESからの追い上げが厳しいんですが、ただ、貸しおしぼり屋の小さいタオルとか、あるいは旅館で使ってる薄いタオルとかは、確かにほとんど中国、パキスタンあたりのタオルですが、デパートで並んでおりますファッションタオルは、ほとんど私どもがつくっておるタオルです。今まで、タオルは年5%ぐらいの成長で、過去20~30年間きておりますが、これからは用途がタオル本来の浴用とか、フェイスタオルとか以外の分野に活躍して、いわゆる敷物からカーテンまでタオルが進出していくということで、今後の発展を大いに期待しております。

「グラウンドと食堂だけが皆勤」

鮫島　鮫島という姓はもともと鹿児島で、私も生まれは鹿児島です。もちろん幼稚園の前から大阪へ来ておりまして、育ちましたのは大阪ですから、大阪人であることを誇りに思ってるわけです。戦争に負ける1年前に予科練に入りまして、1年間みっちりしごかれてまいりました。

それまで私は非常に体が弱く、小学校もずいぶん休んでという状態だったんですけれども、その1年間で体質改善させられたという感じがしております。他のことはいまでもできますけれども、予科練のことだけはいまやろうと思ってもできない経験であったと思っております。

大阪経済専門学校には22年に入ったんですが、たまたま文芸部におりましたら、文芸部が主催する演劇をやるということで、その中にハンドボールの人たちが何人か入っていたということで、私もその演劇の中に引っ張り出されまして、そういう縁で、ハンドボール部に無理やり引きずりこまれたということです。入学したとき私はボクシングをやりたくて、ボクシング部にも何回か練習に行ったこともあるんですけれども、いつの間にかそのようになりました。幸いなるかな、学制改革の時に、関西リーグの1部にうまくもぐり込めまして、それ以後1、2回2部へ落ちたりしましたが、おかげさまでここ20年ぐらいは1部に定着しております。

鮫島　圭

特に去年の秋と今年の春は、関西リーグで連続優勝し、明日母校のリールで祝賀会をやるんです。結局専門学校と大学で5年間おったんですけれども、グラウンドと食堂だけが皆勤で(笑)、あまり教室へ行った記憶がありません。そんなことで何となしに卒業、たまたま経大の先輩のご推薦がありまして、高砂熱学という会社に入りましたけれども、いったいこの40年間何をやっとったんだろうな、という感じがします。

高砂熱学という会社は、空調工事、ビルの冷暖房とか、最近はやりのクリーンルームの工事とかを主体にやっております。社員の70%が技術屋です。その中に数少ない事務屋として27年に入りました。当時は人も少なく組織は関係なしに、昼は事務所で仕事して、夜は現場へ行くというようにいろんなことをやらしていただきました。

いま名古屋におりまして、支店長をやっているんですけれども、入社以来苦手な経理の仕事をずっとやらされてきまして、やっと3年前に支店長になり、経理から開放されてバンザイ。ところが、よく考えてみますと、経理の責任は全部支店長にかかってきまして、いつまでたってもお金とは離れられないという感じがしております。

技術屋の会社ですから、いままで支店長もほとんどが技術屋で、私が経理の出身では初めての支店長になったわけで、これは試されてるんじゃないかと若干気持が悪いんですけれども、むしろ名古屋へ単身赴任しながら、いきなり5キロも太りまして(笑)、少しやつれて東京へ行かないと、だれも同情してくれないものですから、まるっきり反対の結果で、具合が悪いんです。

入社して15年間は、ハンドボールと野球と両方やらしていただいて、また、合間にヨットに乗ってるということで、いつ仕事したのかなというふうな生活を送って参りました。

話が前後しますけれども、43年に大阪支店から東京へ転勤しまして、53、54年頃から61年に名古屋へ転勤するまで、同窓会の東京支部長をやらせて頂きました。いま井阪君が頑張ってやってくれているんですけれども、たとえば総会の案内を出しましても、卒業後ずいぶん年月がたっておりますから、ほとんどが知らない人で、その知らない人を結んでくれるのが運動部のOBで、サッカーでは西山君とか、バスケットの平石君とか、軟式野球では牧田君とかおりまして、運動部へ声をかけて人を集めるというのが一番集まりやすいですし、そういう形で同窓会の東京支部は運営できたんじゃないかと思います。

いまでも私は、スポーツが大好きで、年寄

りの冷水と言われてるんですけれども、名古屋支店でジョギング大会をやっておりまして、去年も8キロ走れましたし、ソフトボール大会をやりましても、3試合ぐらい出てピッチャー2試合やったとかいうことで、大変嫌がられております(笑)。

特にハンドボールのことでこちらへ来まして、ときどき集まるんですけれども、OB、現役交歓戦で、サッサと私がユニホームに着替えますと、40、50代のOBが非常に嫌な顔しまして、もちろん走れないんですけれども、真似ごとだけでも車イスに乗るまで走ってやろうと思ってます。

もう一つ、名古屋という所は非常に人付き合いの難しい所だとさんざん脅かされて赴任したんですが、どっこいそんなことはありませんで、どこへ行っても地方性というのはありますから、そういうことをあまり気にしなければ、どこへ行って住んでも同じだなというのが、今の感想です。

最近大阪も非常に水がまずいですね。ところが、名古屋はまだ比較的水がおいしいです。木曽川はじめ大きい川が流れていますから。水がうまいと水割りがうまいものですから、単身ですし、夜な夜な楽しんでおります。私がいまおる所と盛り場とは、車で10分、歩いても30分で帰れるものですから、帰りの時間を決めてやっておりますと、遊ぶ時間は非常に長くなっております。ちょうど60歳になったものですから、何か違うことをやらないかんなと思いながら、余り進歩がありません。

司会　名古屋の栄あたりに行きますと、先輩のうわさが出るかもしれませんね。

鮫島　請求書つきつけられるかもしれません(笑)。

「させられる仕事から、する仕事へ」

野尻　忠正

野尻　私の生まれは、奈良県の一番南の端の十津川村という所で、紀伊山脈のど真中、むしろ和歌山県のほうが近いのじゃないかという所です。中学3年で名古屋の挙母の豊田自動車へ学徒動員で行きまして、終戦の8月まで働いておりました。帰ってきても、中学で授業らしい授業は受けられませんでした。

あまりブラブラしとってもいかんということになって、天理語学専門学校へ行きましたが、卒業したら就職が全然ない。何か勉強せないかんと思って編入学をさせてくれる大学を探しておったら、大阪経済大学がありまして、天理の外語の単位をたくさん大阪経大が認めてくれまして、3年生のときにほとんど単位を取ってまして、やったことのない簿記とかが残っている程度で、藤原先生のゼミに入ったんですが、これがまた左のバリバリの授業で、本来私の村は保守的な村なんで水をぶっかけられて、びしょ濡れで帰ったこともありました。

途中から入りましたので、クラブへは入れませんでした。ただ、西島先生の労働法だけは、しっかり勉強しとかないかんなというのは頭にありまして、それは一所懸命やりました。それが実は卒業すると同時にいまの会社へ入ったんですが、当時は労働争議が非常に荒れておりまして、しかも、労務管理をやらないかんポストへついたものですから、判例なんかを勉強して、どんどんいろんなことをやらせてもらいました。

ところが、どうしても労使関係を正常化するためには、組合活動へ飛び込まんとどうも話にならん。それで営業所へ出まして、運転手の諸君なんかと一緒に寝ながら、一体どういうことを考えていけばいいのか、いろんな話をしまして、しかも、組合選挙のトップ当選を第1・2回目としまして、「これは何か自分にやれという皆の声に違いないから、おれは書記長をする」と宣言しまして、まず1回目の大会で、「我々は県民の足を守る労働者である。だからストライキをしない。これから話し合いで労使ともいくんだ。これに絶対おれは自信をもっている」ということで、2年間書記長をやりました。当時阪急電鉄から出向しておられた、私鉄関西地連の上原さんという書記長が、「野尻君、君は関西地連の外堀埋めるつもりか」と、私に食ってかかったんですが、「奈良交通の労働組合がかわいくない

のか、そうでなかったらおれは君たちと行動を異にする」というところまで宣言して、脱退はしなかったんです。そういう行き方で、2年間やりました。そのように軌道修正をいたしまして、奈良交通は昭和34年以降は一度もストライキをやっていないんです。

そんな大見得を切った手前、働く人たちがどうやったら幸せになれるか、ひたむきに考えておりまして、定年後も幸せでないといかんのので、定年後幸せになるためには、企業で働いているうちに何をなすべきなのかということも、きちんと整理をしまして、20代で何をしてほしい、30代で何をしてほしい。その中で、住宅を皆に建てることを薦めまして、いま奈良交通社員の住宅保有率は79％です。

また、「働かないと人間は幸せになれない。働くことを絶対忘れちゃいかん」そのことを考えておりまして、目下やっておるのは「させられる仕事から、する仕事へどう転換するのか」で、よく猿沢池の鯉の例を出して言うんですが、「猿沢池の鯉はいつも餌をお客さんからもらう。餌は上からもらうものとおもってる。池の底にもっといい餌があるのに」と。

奈良交通は、資本金12億、従業員が2千250、子会社が12社ありまして、これが1千700、ざっと4千人、この4千人の社員と家族をどういうようにめんどうみるかということを考えております。

バス会社で1県1社というのは、宮崎交通と奈良交通だけなんです。独占ゆえに、県民のためにどのように役割を果たすかということで、ご存じのように奈良県は5分の4は山です。この山の所は過疎地でお客さんがいない。しかし、峠を越えて行くバスが、一人でも、二人でも乗っておれば、それで結構みんなに勇気と希望を与えることにつながるから、何とかしてこのバスを守りたい。ひたむきにそんなことを考えてきて、いろんな子会社ができ上がったわけです。

ただ、こういう時代ですから、これからただ働け、働けということだけではいかんだろう。また何かの目標づくりをせないかんなと思って、いま頭がいっぱいです。

「野球の取り持つ縁」

滝　重一

滝　私は、現在硬式野球部のOB会長をしておりまして、野球の優勝しましたとき、また東京に行きましたとき等々含めまして、皆様に大変お世話になり、お礼申し上げます。

関西六大学野球連盟のいま代表理事も仰せつかっておるということで、野球関係のことで、母校に少しばかり支援といいますか、協力させていただいておるというのが、いま現在母校とつながってる実情でございます。

いま野尻先輩が、28年ご卒業ということでしたが、私はその年に入りまして、昭和32年3月に卒業し、その4月に大阪日産に入ったということです。

生まれは彦根で、高校でも野球をやっておりまして、27年の秋ごろに東洋レーヨンの瀬田工場に内定してたんですけれども、高校の土・日の練習の指導に来ていただいてた岡本さんという昭和高商出の方がおられまして、野球に対する情熱もありましたし、多少向学心もありましたので、親の許しが得られるなら、経大へ来ないかという話をうけまして、当時は大阪というと遠いといいますか、いかにも京都を飛び越えてという感じでしたけれども、逆に憧れたという部分もありまして、急遽、一所懸命勉強して、入学させてもらったというのが、母校に入った経緯です。

私は体格はそこそこいいほうなんですけれども、ピッチャーとしては、骨格が細いんです。プロで一流選手になってるというのは、手首が足首ぐらいの骨格をしてるんです。

そういうことで、我々の野球の世界では肩を抜くといいますけれども、肩やひじを痛めまして、3年の初めまでピッチャーしてたんですけれども、結局だめになりました。自分は途中で投げ出すのが嫌なものですから、マネージャーとして最後までおらしてもらって、貢献といいますか、お手伝いさせてもらいました。

マネージャーしておって、予算のことだとか、いろいろ大学内の折衝事やいろいろあり

まして、当時高室事務局長に非常にかわいがっていただきました。卒業するときに、長男だから帰ってこいということになってたんですけれども、全く帰る気がしませんで、そしたら高室局長が「大阪日産に世良先輩という偉いのがいてるから、これから滝君自動車やで、繊維はあかんで」というお話でした。周囲なり親は反対したんですけれども、高室事務局長のご紹介を受けて、世良先輩を訪ね、30年に大阪日産に入りました。したがいまして、人間不思議なもので、高校のときもいったん東洋レーヨンに内定していたのが、先輩のご縁で経大に入り、また野球の取り持つ縁で事務局長にかわいがっていただいて、それが縁で大阪日産に入ったという次第です。

そういうことで、何かと節目、節目では野球というのが取り持つ縁になっています。先だって二宮先輩（3回卒の会長）がお年でおやめになったものですから、そのあと会長を引き受けて、現在後輩にご支援申し上げてる、こんな状況です。

会社へ入りましてからは、いま総務本部に、それまではずっと営業一本でございまして、ついこの間の株主総会で担当がえになりました。自動車のセールスに後輩がなかなか来てくれないという寂しさはありますけれども、私は営業が好きですから、ずっと営業一本でやっておりました。

おもに営業の中でも特販部というところに長くおりました。その後カーリースということで、1台、1台を我々の世界では坪売りと言ってますけれども、そうでなくて、大阪府下に法人タクシーが約1万5千台、個人タクシーが5千台です。そちらとか、自動車学校とか、官庁とか、日産グループのお取引先の大手企業とか、そういうルート的な営業を長年やっておりました。

現在大阪日産は、売上でいきますと、1年決算ですが、約490億ほど売り上げて、従業員1千500人おります。

かつて60人近く母校の卒業生がおったんですけれども、現在20人ぐらいです。そういう意味では寂しいんですけれども、さりとて野球に関係していますから、野球部の諸君をこちらに来てもらおうと思うんですが、なかなか売れっ子で、今年卒業しますキャプテンも三菱銀行に、昨年は太陽神戸に入って、我々の時代では考えられなかった、そういうところへ、向こうからご指名で入っております。

「同窓のよしみは素晴らしい」

司会　皆様方からそれぞれ、お仕事並びに自己紹介を頂きましてありがとうございました。縁あっていまの母校のあの学舎で、年代はそれぞれ違いますけれども、同じ釜の飯を食ったという同窓生として、現在各界でご活躍していらっしゃいますが、経大のときにこういうことがあった。たとえばスポーツをやって、途中で投げ出さなかったというお話もありましたが、そういう精神が非常に役に立ったとか、あるいは友達ができて、その友達の励ましが役に立ったとか、現在までの道程の中でのエピソードを、ご紹介いただけましたら…。

野尻　4年のときは3科目ぐらいしか残ってなかったように思います。あまり友達はできなかったんですが、いまでも非常に仲よく付き合っている友達がおりますし、おもしろい先生がたくさんおられたですね。民法をやっておられた風間先生とかゼミの藤原先生とは、卒業の日に本当にしみじみと、有馬でお別れ会をやったんですが、他の人は酔っぱらってしまって藤原先生だけが一人ポツンと残っておられて、二人で夜明けまで色いろな話をしたんですが、2年間ゼミで一緒に過ごしたのに、先生の本当のお人柄をもっと早く知っていたら、もっとおもしろいいろんな話ができたのになと思いました。

さっき申し上げた労働法は、私を助けていただいたということでいまでも感謝しております。通学途中、他の生徒と天五で一緒になるんですけれども、天六に行くと半分ぐらいになってるんです。彼らは何しとるかなと思ったら、あの辺で遊んでおったんじゃないかと思うんです。編入学ですから真面目に行ったのも、かえってよかったんではないかなと思います。

柴田　私もさっき鮫島さんがお話しておられたように、学生時代は「食堂とグラウンドばかり」で（笑）、

しかし、学生時代のラグビーで運動神経とか反射神経、あるいは判断能力とか、こういうのは、ラグビーだけじゃなしに、スポーツ

では自然に身につくものですね。社会に出ての仕事においての判断能力とか、何も意識せずに、身についたということが、ラグビーを通じての私の体験というたら何ですが、いまになって痛切に感じますね。

また、野尻さんが支部長しておられる奈良県の同窓会にも必ず顔を出しますが、ことに奈良支部の場合は、家庭的で、ゴルフのコンペを毎年やってますが、渡辺名誉会長も、この同窓会はおもしろいと言われ毎回出席して頂いております。野尻さん、渡辺さん、私と一緒に回ったら、後ろから、あの年寄り何食うとるんだろうとか(笑)、渡辺さんも、あのお年やけど元気なんです。後ろから後輩があの先輩どんな人達やと冷やかす。冗談も飛び出して、それをまた受け答えするといった様子で、本当に家庭的な雰囲気。

また、私が飛行学校時代の戦友、あるいはラグビーを通じての友達、会社の友達とか、非常にたくさん友達を持てたことを、自分の一つの財産だと思って、誇りに思ってるわけです。

司会　この間も、今日の座談会の司会をやれと言われまして、同窓生でなかったら、とてもじゃないけど、ここで声震えてしまうのですが、やっぱり同じ学校で学んだというところで、先輩方に対する、ホッとしたところがあって、仰せつかったんですけれども、そういう意味では、柴田先輩のお話は素晴らしいと思います。

「3年生の時に、大阪女子経済専門学校」

重里　私が在学中にはグライダー部というのがありまして、3年間、放課後はずいぶんと淀川の河川敷でグライダーを引っ張ったり、乗せてもらったりしたものですが、兵隊に入るとおまえはグライダーに乗ったことあるんかという話じゃなしに、馬に乗ったことないんかという話になりました(笑)。

大学時代の親しい友達とは、クラブを別にしておりましたが、いまだに数人の人が絶えず電話で、文通でお付き合いしておりまして、特に同じように同窓会の理事をしております桑津君とは、昭和45年から熊本で共同出資の縫製工場をつくって共にやっております。また、和歌山におります、これはサッカー部のマネージャーをやっておりました坂田君、これらは毎週1回、必ず私とこへ出てきて、いろんな和歌山の情勢を教えてくれたり、また、同窓会の情報を提供してくれます。

また、私ら在学当時には、久野先生というのがいらっしゃいまして、「マルクスの経済論」なんかもひもといていただいたり、あるいは哲学の道もひもといていただき、非常に戦争に直面した若者としての心構えをご教示下さいました。そういった面で久野先生は思い出の先生です。

また、3年生のときに、大阪女子経済専門学校ができ、女子の新入生が入ってきました。気風の学校だったと思うんですが、そこへ女子学生が入ってきたので、急に、これは大変だ。変なかっこうしとったら笑われるということで、いっぺんに校風が変わったんやないかと思われるほど、学生が自覚して、腰にぶら下げていたタオルもはずして、スマートな学生と思われたい気持でいっぱいでした。戦争でやむなく女子学生を入学させたことが、在校生の男子学生にとっては大いに刺激になったことでした。

前田　女子経専のお話伺っておりまして、今日の座談会ではそういう話は出てこないだろうと思っていたんですが、今、久野先生のお名前が出てきたり、ちょうどご卒業の前に私たちが入ってるわけです。よもやと思うようなお話が出てきまして、顔が赤くなるような、うれしいような(笑)。

司会　いまは女子学生が200人を越えてるんです。だからいまの学生はもうひとつドキドキしながら、刺激を受けてやっているんじゃないですか。

前田　お互いの刺激ですね、いい意味の。そういうのを学風の中に入れることが大事なんです。

重里　私らには刺激があり過ぎて、戦争と学問、そして学業ほって学徒動員でしょう。そのあとにきたのが女子学生ばっかりでしょう。これは目まぐるしいほどの転換と刺激でした。

司会　200人を越える女子学生の話は、いずれ懇親会の席上で。理事長先生、特に学長先生が非常に熱心でございますので(笑)。

柴田　前田さんのときには、久野先生の授業

があったの？

前田　終戦後から授業が始まりました。

重里　あの方も私らの時分では授業がなかったわけですが、いい先生でした。

柴田　私達もなかったけど、個人的に大変親しくさせて頂きました。

鮫島　私は、三つありまして、一つは、先生方、特に風間先生のゼミに属していたんですけれども、あの先生の軽妙洒脱な会話に接して、びっくりしました。ハンドボールの顧問の梅田先生に、中国語をマージャンしながら教えていただきました(笑)。

亡くなった石川先生、昼間会うと、いつも苦虫かみつぶした顔しておられるんですけれども、お酒が入るとガラリと変わる。大変楽しい方で、そういう先生方の思い出がありますね。

二つ目はハンドボールですね、16歳のときに戦争で負けて目標がなくなったわけですが、ハンドボールでくたくたになって、つまらんこと考えずに頑張ったのがよかったと思います。

今ハンドボールのOBは400人ぐらいです。その中で本当に出てくるのはごく限られたものですけれども、それでもいま現役が地方へ合宿に行くということになると、そういう人が世話をしてくれるわけです。非常にそういうつながりといいますか、友達というか、息子が多いような感じもしますし、私のところは娘ばかり二人なんですが、そういう点ではカバーされてますね。

三つ目は同窓会ですね。私、東京支部長をやらしていただいた関係もあるんですが、いまでも4人組で毎年旅行とかしてるんです。バスケットの平石君と、軟式野球の牧田君、同じハンドボールの吉田君、みんな東京におるんです。吉田君は非常に真面目なんですけれども、あとの者はろくなことやってません(笑)。いま罪滅ぼしで年2回ぐらい4家族で旅行したり、そのメンバーで海外もずいぶん行きました。

最近は奥さん方がゴルフをやりますので、ゴルフを交えて、前の晩はカラオケ大会ということで、そういう同窓会というものがあって、ハンドは縦ですけれども、横の広がりが、

支部と支部活動を通じて仲間が増えていくということも、非常にうれしいですね。

司会　家族同士の付き合いというのは素晴らしいですね。

柴田　素晴らしいね。

「親元離れて下宿」

滝　さっきちょっとお話したんですが、親元離れて下宿をするといいますか、私は上新庄の駅前近くの石丸さんという所でお世話になったんです。実は川島という同じ高校の先輩が大阪経済大学に2年先輩で野球部におったものですから、一緒に下宿してたんです。

18歳で親元離れて下宿するといいますか、石丸さんは徳島出身の人ですけれども、非常に厳しいおばあちゃんでして、もう亡くなったんですけれども、私田舎の人間ですから、米なんかをおくってもらってたんです。けれどおばあちゃんは麦飯でして、夜腹が減るものですから、あくる日の分のご飯を夜中に食べてしまって怒られたり、いろいろありました。

非常に下宿の思い出というのは、他人の家といいますか、これも一つの学校とは違う勉強ですね。いま寮だとか、いろいろあるんでしょうけれども、お世話になったおばあちゃんの薫陶や指導といったものは、非常に影響力がありますね。

下宿でのもう一つの思い出は、川島先輩が卒業されて、僕もそこを出ようかなと思って

た頃、高室局長からご相談受けまして、岡山の学校時代の教え子、砂村さんという女の方が、局長を頼って経大に入ってきたんです。いま津秋さんの話では、現在200人とお聞きしましたが、当時は女子はまれでしたね。男は下宿させるけれども女子学生の下宿は厳がられまして、どこも入れない。行く所がないというので、「すまんけど滝君とこへ入れてくれないか」といわれまして、その口やかましいおばあちゃんに頼んだら、絶対あかんというんです。「あんたの親に対して責任がもてん」といって。しかし、結局いくところがなくて、一緒に下宿して、障子一枚向こうの部屋に一緒に、後半2年間近くおったのですが、何もなしですけれども（笑）。

鮫島　残念でしたね（笑）。

滝　その後どうなさっているか、連絡取れてませんけれども、やっぱり親元離れて下宿したのと、クラブ活動、これは野球部です。ゼミナールは喜田先生の会計ゼミを取ったんですけれども、結局下宿とクラブ活動の間では、私はやんちゃな、ちゃらんぽらんな人間ですけれども、何となく親にお金を出してもらっているという責任感から、夜2部の勉強に行ったんです。ですからほとんど単位は3年で取ったんです。したがって、いまの後輩諸君が単位が取れんで卒業できんという話を聞くと、腹が立って、なんということやいうて叱るんです。

鮫島　私の後輩にもたくさんおります。

滝　案外本人はケロッとしてるんです。いまは昔と違って、アルバイトかでお金を稼ぐんですから、親に全額負担ということじゃないかもわかりませんが、ちょっと理解できんですね。いっぺん新入生の歓迎会のときに言ったんです。皆さん昼間野球して、一所懸命勉強されてる人と同じレベルでついていくのは大変だ。だけど2部へ行って、こそっと入らせてもらって、後ろのほうで講義聞いていたという経験もある。それを披露して、単位が取れんとか、卒業できんとか、一流の会社に本になるから、とても自分では苦手だけど、逆に苦手だからおしりからでもついていこうと思って、喜田先生のゼミを選んだわけです。そういうふうにチャレンジといいますか、不得手な部分を避けるんじゃなくて、挑戦していくということを、ときどき下の者にいうんですけれども、ビジネス・ゴルフ・遊びもひっくるめて、クラブ活動をさせてもらったということは、在学当時も、卒業してからも、これはありがたいことですね。そこばかり強調するわけにいきませんけれども、本当によかったとおもいます。

司会　さて最後に母校への提言・要望に入っていきたいと思います。一番最初の自己紹介のところで、ずいぶんお話が出たと思います。たとえば柴田先輩からは、下水道の話、関西新国際空港のお話は重里先輩からございました。鮫島先輩からは、キタ界隈のビルの空調関係に携わっておられる。野尻先輩からは、山間部の過疎村にも交通機関がなかったらいかんというお話をいただきまして、滝先輩からは、移動手段としての車のお話もございました。

ところで、『澱江』という機関誌は、北海道から沖縄まで、同窓生全員に送られるわけです。そんな中で、新聞の活字等々では、空港ができる、学研都市ができるとか、関西はどうなるんだろうと非常に注目されています。関西はどうなっていくんだ、もっと広げますと、国際空港ができますと、四国にも影響がありましょうし、名古屋、中部圏までも影響してくる。ずいぶん関西も変わってくると思うんです。

そういうスタンスで、関西はこうなるんじゃなかろうかというような展望とお考えを織り混ぜながら、その中で母校はこうあって欲しいという提言をお願いします。それでは、重里先輩からお願いいたします。

「泉州の地に、情報関連の分校を」

重里　関西国際空港と地域経済という問題について、いま一所懸命に取り組んでいます。この大きなインパクトをいかにして受け止め、また、皆さんに情報を流していくかというのが、今私どもの会議所のもっている使命でしてて、これを120％活用できるように努力していきたいと思っております。泉佐野市は、西日本の中核的な国際情報都市になることは間違いないと思います。

重里　實

そういった中で、私どもの母校が、新しく経営情報学科を設置申請されるやに承っております。もしそういった分校ができるんであれば、私らも全力を上げて応援もいたしますし、また泉州の地にそういった情報の学校を分校として設置されたらどうだろうか、このように提案申し上げたいとおもいます。

私どもはもう45年も前に卒業した母校ですが、昭和高商時代の黒正先生の、あのバイタリティあふれた、黒正イズムというのをいまもなお身に受け、また、強く染まっておる感じがいたします。私はまた、40年も前から茶道を稽古しておりますが、その精神は、和敬清寂、一期一会で要約されると思うんです。お互いに相手の身になって、相手を敬い、仲間を大事にして、仲間を増やしていこうと思ってるわけです。ですから私どもの母校も、絶えずそういった意味での仲間意識を広げて、お互いに同窓生でよかったと言えるような、同窓会になってほしいと思います。

将来にわたって、母校が、また同窓会が、ますます国際化し発展していくことを期待しているのが、私の願いでございます。

「PRには、運動部が一番手近か」

柴田　母校への展望、要望ということで、二つ三つお話したいと思います。

企業は人なりということで、最近テレビで見たんですが、別に企業が悪くなって倒産するのじゃなしに、人手不足で倒産したというのがあるわけですね。

学校におきかえたら、学生の入学と全く一緒だと思うんです。そういう意味では、学校側も企業と同じような対策を考えんと、じっと口あけて棚からぼたもちという感覚では、人手不足で倒産ということにつながると思います。

もう一つは、学校のPRに力を入れて欲しいですね。その意味では、まず運動部が一番手近やないかと感じるわけです。極論を言いますと、全日本級の選手、あるいは候補の選手を、無条件で、授業料免除。裕福なところは別として、それぐらいのことをやらんことにはだめだと思いますよ。いまどこの大学でも、推薦入学をやっております。

ラグビーでたとえて言いますと、経大にきている選手は確かに高校の一流学校からきた選手ですが、実際の選手は二軍クラス、リーグ戦に入ると、それだけの格差がはっきり出てくるわけです。マスコミは、ハンドボールが優勝したとか、野球が関六で優勝したとか、必ず予想から、結果まで全部書いてくれます。ぜひ学校側に要望したいのはグラウンドのことです。一つしかないグラウンドで四つも、五つもの部活動をやってるわけです。私らの時代でも、野球部が打ったら、怖いから、走っていてもすぐとまりましたね。野球部なんかは一つの専用グラウンドぐらいこしらえて欲しいですね。

また、学校の方へ行く機会はないんですけれども、グラウンドへはしょっちゅう顔を出してますので、女の子がようけいるのを見かけます。彼女達に直接聞いた話ですが、更衣室もないと言ってました。いまラグビー部には一人もおりませんが、野球部など女子マネージャーがたくさんおられると聞いていますけれども、各部の更衣室とか、合宿所とか、そういうものも充実してやりたいなという希望があるわけです。ですから設備の充実ですね。そういったことも、入学希望者に対するかなりのPRになろうかと思います。

あのグラウンド一つでは、選手諸君に気の毒やと思いますね。

司会　鮫島先輩はいま名古屋という、少し距離的に離れたところから、国際情報都市の中核になる大阪という話と関連して、母校へのご要望、PR事項なり、ございましたら。

鮫島　これだけ情報機関が発達しましたが、はっきり言って、名古屋では大阪経済大学の名前はほとんど出てきませんね。名古屋でもそうですから、東北とか、九州なんかではも

う一つわかりませんよ。というのは、活動が地味すぎますね。柴田先輩がおっしゃったこと、まったく私も賛成であります。具体的にいうと、もう少し運動部の推薦入試の点数を甘くしてもらいたい。そうしないとはいれないですね。知名度をあげなくっちゃ。特に最近まぎらわしい名前の大学もあることですし。

私もしばしば新幹線に乗ってくるんですが、母校の校舎が見えますね。あれ相当スローダウンしてる所ですけれども、夜はほとんどわからないですね。グラウンドのほうは全くわからない。もうちょっと工夫が欲しいですね。また、運動部にいい選手を入れて、運動部で名前を上げて、それが自然のPRになると、キチッとした学生の安定供給ということにつながるんじゃないでしょうか。

私たちの子会社に日本ピーマックがあるんですけれども、そこは最近、経大を初め各大学の運動部卒業生ばかり採用しております。そこの社長も、東大で陸上競技をやってた人なんです。ですから、成績のよしあしよりも、体の丈夫な、くじけないやつをとろうということで、各大学の運動部出身者ばかりとってるんです。そうすると非常に活力のある会社になりますね。そういう身近な例もありますので、そのためには、大学自体が積極的に運動部の選手を育てることが望まれますね。これだけPRの世の中ですから、もうちょっとPRしてもいいですね。

重里　同感です。

柴田　頭悪いことないのよ。勉強しよらんだけの話で（笑）。

ただ、運動部の者やったらどの運動部でもそうやけど、判断能力はものすごいと思うね。試合のために猛練習するわけでしょう。社会に出ても、また、チームプレーというのは意識せずに備わっているし、鮫島君もいわれたように、根性もあるし。そればかりとは申しませんけれども、ラグビーでも、この5月に一流企業に内定してるのがようけおるわけです。ラグビーやめても、通用するわけです。

司会　それでは野尻先輩、奈良というのは、大阪と隣接してまして、関西新空港ができますと、交通面にしろ、物流面にしろ、文化面にしろ、非常に密接だと思います。その上に学研都市構想もありという状況の中で、母校はどうあるべきだとか、関西はどうあるべきだとかいうご意見をお持ちだと思います。お聞かせいただけますか。

「感性で訴える部門を大学に併設」

野尻　私は、奈良において、空港の問題なり、学研の問題を見させてもらっておるんですが、いろいろ世界の空港を見て、日本の経済規模が、5％ずつぐらい、今後10年ぐらい成長するとしたら、日本の物流、情報というのは、すごい勢いで伸びていくと思うんです。そのときに、実際にいまの関西新空港の規模で、本当に関西が活性化するか疑問に思ってるんです。

確かに、24時間営業はしてくれますけれど

も、成田の空港へ行って、扱ってる荷物の量を見たら凄い量です。それで、滑走路1本で大丈夫だろうかというのが一つ。

もう一つは、空港が仮に滑走路が3本できて、それなりのシステムができたとしても、それにかかわっていく道路、鉄道とか、もろもろの交通機関がこれでいいのかという問題です。そんなことをいろいろ考えますと、これで本当に活性化するだろうかと、非常に心配しております。

もう一つ、母校に関しては、いま柴田先輩や、皆さんがおっしゃいましたように、母校をどうやって特徴のある大学にするかと言うのがあると思うんです。特徴のないというのが特徴なのかもわかりませんけれども、やんちゃな部分も男子学生にあってもいいし、特にこれから女性の活躍舞台というのは非常に起こってくるわけですから、女性をたくさん入れて、特徴をつくり上げていくとか、経済とファッションという観点から女性の活躍するような、感性に訴えるような部分も大学に併設していくとか、逆に男は少々のことにへこたれないような人間作りをやるというのもいいかと思います。

これは大学だけでなしに、小中高から一貫してやってこないとできあがらんとも思いますが、しかし、きょう皆さんがおっしゃった、こういういい先生がいらしたというお話を聞きましたら、そういう先生というのを目標に学生が動いている部分も相当ありますから、そういう凄い先生がいるということも、一つの特徴ですし、また何も世間が流れていくから、そちらのほうへスイスイと上手に泳いでいくよりも、もっと本音の話ができる、そういう雰囲気がいるんではないかとも思います。

この間も高校の校長先生の研修会に、1時間半ほど話をしたんですが、結局我々企業人は、今日の数字が、場合によっては今日の1時間の数字がどうなったかということを議論せななら ん。しかしながら、学校の先生は、いわば10年先、20年先にどういう人間をつくるかという議論ができる。あなた方は、明日のことに責められることはない。長期にわたって立派な人間をつくるということをひたすら考えればいいんだと。そのときのために、教育は、どうあるべきかということを、しっかり考えてほしいという提案をしといたんです。

「経営学部の入試に数学を」

滝　一部重なるかもわかりませんけれども、気のついたことを申し上げたいと思います。

大阪日産というのは、商売の範囲が大阪や関西ですから、そういう意味において関西の位置づけだとか大阪云々ということは、自分の業務というか、仕事に直接じゃないですから、言えませんけれども。ただ、東京と対比しての大阪とか、日本の中での大阪とかいう見方・発想が間違いじゃないかと思うんです。

人口に端を発して、統計的な数字で、特に東京と対比して、大阪、関西は地盤沈下だ。その範囲でものを考えている間は、大阪もいかんのじゃないかと思うんです。いま国際化の時代ですから、目のつけどころを違う方向に向ける。つまりありえて比較するなら、いろんな数値も、世界のレベルの中でとらえれば、大阪のもっている数値もレベルの高いところにありますね。大阪というのは、アジアに近いわけですから、それと関連した中で進められていくことが、これからのケースになるだろうと思います。そういう中でどうしていくか、そこに母校があるというつなぎ方をしていかないと、東京や、あちこちと比較して考えると、情けなくなりますね。そんなふうに感じます。

母校に期待することとしては、私学には、どこにも建学精神があると思いますが、母校でも、昭和高商をご卒業なさった方と、我々とでは随分吹き込まれたイズムが違うように感じてるんです。特に昭和高商の方は、非常に誇りをもっておられる。今日のお話の中でも、いろいろ昭和高商の黒正イズムだとか、また、それがその後の生活といいますか、企業人、社会人になってからのバックボーンになってると見受けますと、うらやましく感じます。昨今卒業したものが、そういうものを背負って卒業しているかということになりますと、我々の時代にも薄れていたように感じます。

ですから、企業にも企業理念があるように、学校には建学精神というのがあって、そういう精神的なバックボーンというものを吹き込んだ卒業生を世に出すことが必要だと思います。

私は経営学部の入試に数学を取り入れたら

いいんじゃないかと思うんです。今日の経営の中では、数学を駆使したものが絶対的に必要ですからね。質は量をつくるといいますか、基本は質ですね。だから先ほどのイズムだとか、もう少し高度な部分について、特徴を出していく。つけ加えると私も関西六大学における中で、量的な拡大もしてほしいと思うんです。たとえばR大は滋賀県に理工学部をつくりましたし、O大だって日経技術に定期的に宣伝して、いまの学校のレベルとは違ったようなところで、向上心を目指してますし、K大なんか我々の世界でも有名校です。

もう一つは、スポーツのことです。私も野球を通じて、各先生方にもお願いしたり、お話もしたりしてるんですけれども、文武両道といいますか、スポーツということに対して、もう少し角度を変えて見てほしいという気がいたします。自治活動の一環だから、生徒諸君に任しておくというんじゃなくて、もう少し大学が立ち入ってほしいと思うんです。スポーツ支援をOBと親とで運営しているという姿は、ある面では異常だと思います。母校の名を背負って、新聞に出たり、他府県にいったり、他校と試合してるわけですから、ご指導いただきたいと思います。スポーツと勉強と、両方相まって、質的な向上をしてほしいですね。

結論的に言いますと、大学のパンフレット、要覧を見ますと、「建学精神にのっとってきめ細かな、良心的な指導とゼミナールを中心に」という、いわゆる母校のセールスポイントが掲載されてますけれども、高商時代の、これだけのお言葉が出るようなことは、いまの学生からは出てこないと思います。建学精神を吹き込むと同時に、イズム的なもので一つの精神的なバックボーンをもった卒業生を送り出すことが必要だと思います。

内輪の話ですが、日産も苦しくなりまして、理念というのを、「顧客の満足」を第一義にしたんです。お客さんとは車を買ってくれない人・小言を言う人・褒めてもらえない人であるということに基本を置いて、そういうお客さんをどういうふうに満足させるか、喜んでいただけるかということを企業理念にしてるんです。これも大変苦しくなった中で出てきた理念ですけれども、学校経営もこれから苦しくなってくるという中で、もしOBが支援してくれない人がおるというのなら、OBと一大事やということで、応援するかもわかりません。

スポーツの先輩は、財政的にもみな自腹切って頑張っていますし、私も正直申し上げて、現在のOB会の会長としては大変しんどいです。ですから、ちょっと角度を変えていただいて、少なくとも50年なんとした母校が、そんなことでへこたれたらいかんと思うんです。

やっぱりそういうときに、OBたちをどういうふうにこちらへ振り向かすかということを、謙虚に考えていただいたら、将来は洋々としてくるんじゃないかと思います。

司会　大変お忙しい中を、長時間座談会にお時間賜りまして、本当にありがとうございました。

津秋　靖博

（座談会後、母校の鈴木理事長、山本学長、田所事務局長、同窓会の磯野会長、陰下事務局長、前田参与、波根広報部長を囲んで懇親会が持たれました。）

CAMPUS CAMPUS CAMPUS

番外編

「今からどこいくの？」「あなたきれいになったわね！」
正門守衛室前にて

「イザ、体育の授業へ…」

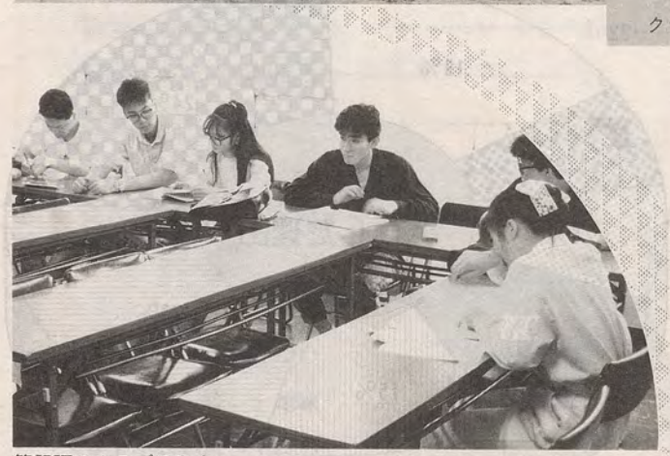
「来週の授業は…やっぱりある」

「私たちが、アメフトマネージャーです♡
美人ぞろいでしょ」
…クラブ活動の良き補佐役…

「くっさ〜い。」

クラブに賭ける青春なのだ！

めざせ会計士！



簿記研のクラブ活動中
「一見暗そうだけどみんな楽しい人ばかりです」

「ここ難しい。誰か教えて!!」「女は頭よ！」

おしゃべりが一等好き♡ 今も昔も

「なに、なに、おもしろいことある」　◆C館談話室にて

◆談話室の花

「……でさ〜」「ヤダー」「マジー」の連発。
飲む・食う・しゃべるの3拍子？

Teatimeの一言
「最近腹の立ったコトは？」
「真夜中のイタズラ電話」

「実は…私ネ〜」「しょ〜もない」（全員）

◆帰　路

「今日の授業は、終わったよーブイブイ」

レポーターから一言

なお、豊嶋さんは、アメリカンフットボール部のマネージャーであり、伊達さんは、野球部のマネージャーをし、尾崎さんは、簿記会計研究部に所属しています。
ますます各分野で活躍を期待しましょう。
もう一度女子大生にもどりたい。阿部
経大も変わったなぁ〜……藤原

女子学生100人に聞きました。

体育の授業におじゃまして、女子学生、1、2年生約100人にアンケートをしました。

――我々の予想とはかけはなれたものでしたが、皆さんはいかがですか？――

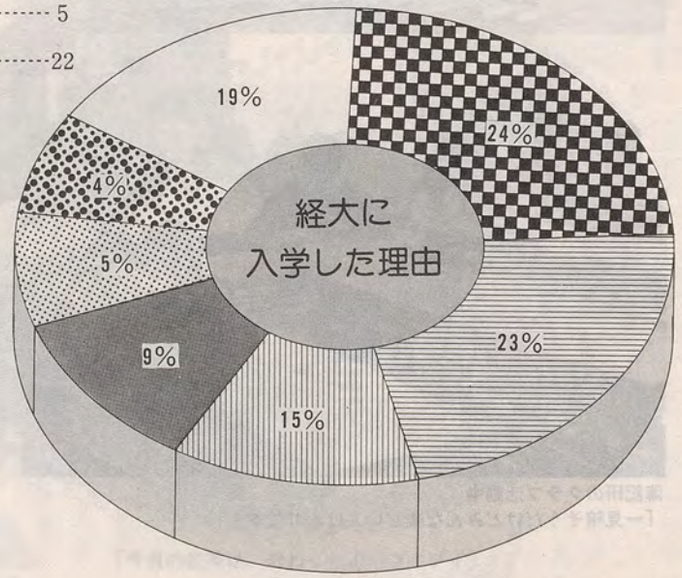
レポーター(阿部・藤原)

経大に入学した理由

	回答数
経営学・経済学を学ぶため	27
推薦入学制度があったため	26
経大しか受からなかったため	17
高校教員等に薦められたため	10
就職に有利なため	6
大阪市内にあるため	5
その他	22

――その他――

- ●コンピュータの勉強をするため
- ●教師・税理士の資格を取るため
- ●学力にあっているため
- ●就職に失敗したため
- ●大学の雰囲気がよかったため

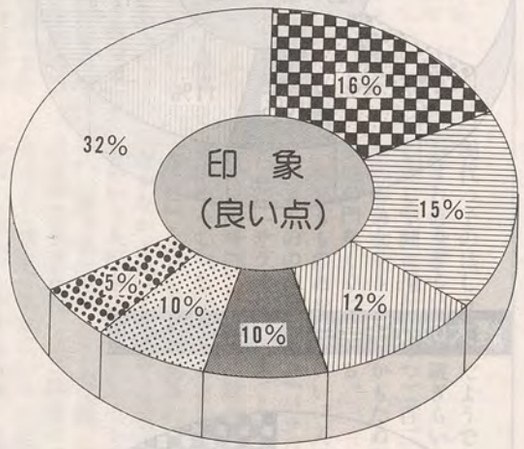


実際に入学しての印象（思った以上に良い点）

	回答数
アットホームなところ	13
良い友人が出来た	12
女子が多い点	10
設備が良く整っている点	8
女子が少なく男子がやさしい点	8
服装にお金をかけなくて良い点	4
その他	26

――その他――

- ●授業がおもしろい
- ●学費が安い
- ●クラブが楽しい
- ●男子の友人が出来る
- ●教室移動が楽
- ●女子の生活が乱れていない

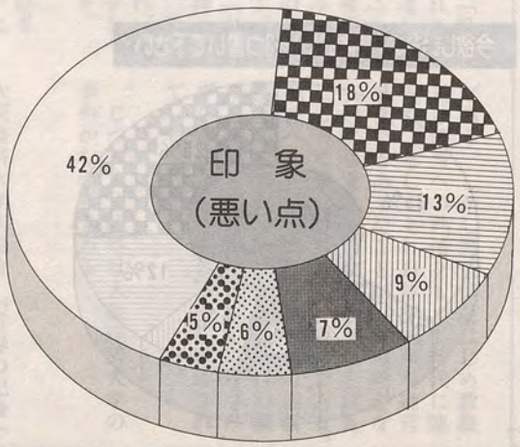


実際に入学しての印象（悪い点）

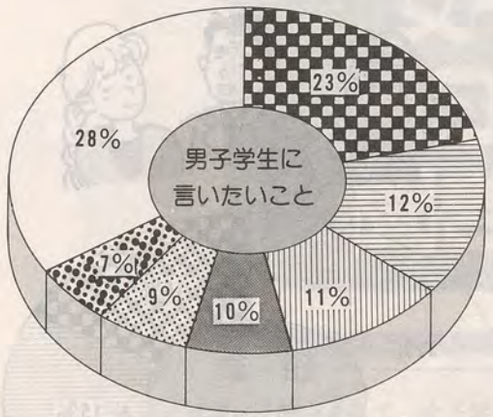
	回答数
キャンパスが狭い	22
設備が悪い	16
女子学生が少ない	11
駅から遠い	8
活気がない	7
授業の開始が早すぎる	6
その他	51

――その他――

- ●女子のクラブがない
- ●ダサイ・暗い・地味
- ●トイレが汚い・狭い
- ●学食が暗い・小さい・まずい



経大の男子学生に言いたいこと



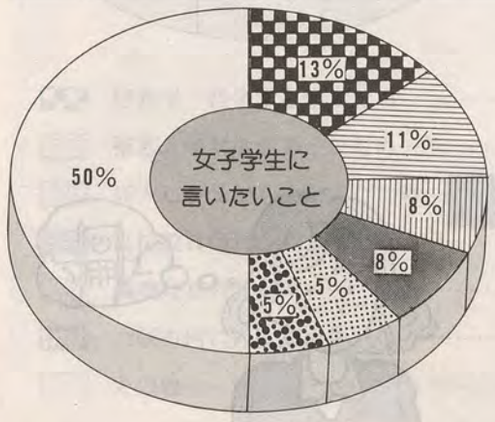
回答数

- もっと明るく……25
- 談話室（女子用）を占領しないで……13
- タバコを吸わないで……12
- オシャレになって……11
- もっと積極的に……10
- 女子をジロジロ見ないで……8
- その他……31

その他

- ダサイ
- 過去の栄光を語りすぎる
- 個性がない
- 他大学の女子ばかり有難がる
- 試験前にノートのコピーを頼みに来るな

経大の女子学生に言いたいこと



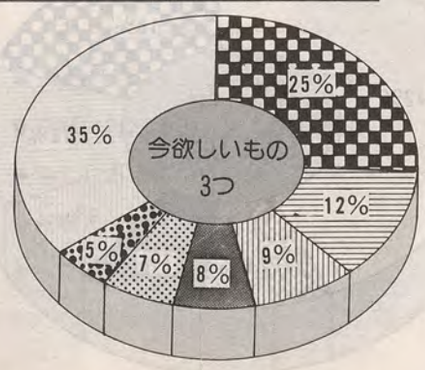
回答数

- もっと明るく……5
- みんな友だちになろう……4
- オシャレになって……3
- あまり派手にしないで……3
- 男に負けるな……2
- ツンツンしている……2
- その他……19

その他

- もっとはめをはずそう
- 下宿の人がんばってね
- 今年の１回生にはついていけない
- ２回生の女子はかわいい
- ウォーターフロントの人が怖い
- 経大のイメージを変えていこう

今欲しいもの（具体的に）を3つ書いて下さい



回答数

- MONEY……59
- 服……28
- 車……21
- TIME（時間）……18
- 免許・資格……16
- 彼……17
- その他……84

その他

- 土地・マンション
- 英語のできる頭
- 海外旅行券
- 全科目優
- かわいさ・アクセサリー

書評

『青春の記録 ひとみ会の四十年』

山本　恒人（経済学部助教授）

五十周年を機に経大の歴史がふりかえられるおりに、戦中の女子経専への転換という何か異質な記実にぶつかり、とまどった覚えがあった。とまどったというのは、「苦肉の策」といったイメージが浮かんだからであり、戦前の女学生についての誤った固定観念から「実際に存立しえたのか」という疑問にとらわれたからである。

このたび出版された『青春の記録―ひとみ会の四十年』を一読して、私のとまどいが一掃されたのはもちろんであるが、将来展開をめぐって戦後最大といってもよい試練に立たされている経大現役メンバーの一人として、女子経専が実は経大のゆるぎなき礎石であるとの感を強く持った。

まず戦争末期昭和十九年に、各地の女学校から二百二十名もの入学者を迎えたことに驚かされる。「国粋主義やおしきせの道徳に毒されぬ、自分に正直な感覚をもった多士済々」（高原）の二百二十名の中には、「徴用のがれに『お嫁さん』か『進学』か。私は迷わず進学コースを選んだ。学科に裁縫のないところ……あった。大阪女子経専」（佐野）と、今で言う現代っ子のはしりもいたようである。いずれ修身ぎらい、裁縫ぎらいの、しかし学問に憧れをもつ二百二十名が、応急女子トイレしかもたぬ旧男子校の門をくぐっている。

父兄ものわかりがいい。入学式につきものの教育勅語を「パラパラ」「三息」「サラサラ」「サッと」（西山、岩井、山崎）いなし、「人間の美しさを求める心」「しゃれっ気を失なわんように」と説く黒正巌校長のことを、「なかなかエエことを言う先生やあ」（佐々木）と感心する父親。気鋭の久野収先生を指して、「経専にはハイカラな素敵な先生がいらっしゃるのね」（永礼）と評する母親。名校長黒正に対するに遜色なき父母たちであった。

迎える教職員も、黒正校長の言葉「…男子が学徒動員と応召で戦地に出てしまった後、日本経済の将来を担うのは君達だ。将来会社の社長、部長が君達の中から出ることを期待する」（武田）、「学者志望でない人も真剣に学ばれたい」（佐々木）、そして「カラーの強い、ユニークな」教授陣という評（藤堂）にあるように、当時望みうる最良質の教育を心がけていたことがうかがえる。

「徴用のがれ」の一縷の望みも空しく、終末にいたる激しい戦火はつういに彼女らをも襲う。軍需工場動員組と学校特設防護団組とに分かれ、校舎も日立造船に貸与され、女子経専は閉鎖状態をやむなくされた。動員先も校舎の一部も等しく罹災し、大空襲のさなかに犠牲者も出た。「肌を裂く」（川滝）ようなきびしい日々にも、「…作業のつらさより、友達と泊まる事の方が楽しい…」（高塚）という連帯が培われていた。「…工場での労働の苦しさや不平不満を巧みに解消する行動力とユーモア精神のなんと旺盛であったことか」（高原）。「多士済々」ぶりが目に浮かぶ。「ヤミ肉を調達して豚汁などを振る舞ってくれる学校」（梶原）。動員先、学校、罹災した実家に学生達を訪れ、慰め、励まし、前途の希望に火をともして回る久野先生（福田、木下、座談会…）。

終戦による学園再開が、ここほどメリハリがきいて待ち望まれていた学園もなかったのではあるまいか。授業再開、学友会・各部の設立、いち早く始まった男女共学、戦後の混乱もものかは、学園再建は彼女らによって担われた。その勢いは男子学生達がときどき「男権拡張運動」（山崎）を必要とするほどであった。女子学生受け入れを始めた大学に続々と合格し、大企業にも「楽に就職」（宮沢）。この中から戦後社会の女性リーダーも生まれている。

「あの学校でこそ、日本の同じ世代のだれよりも守られただのだという誇りで胸がふくらみます」（市川、傍点も）。苛烈な時代にこのような学園がありえたこと、それがほかならぬ大隅の学園であったことに救いと誇りを感ずるのは私だけではあるまい。

女子経専の成立は、時代の流れにおいては「苦肉の策」ではあったのだろう。しかし黒正校長はじめ教職員は教育への熱情をもって時代に臨んだ。そしてそれ自体が見事な経営感覚でもあったことが、教育熱心な父母に育まれた諸個性の参集と成長によって裏づけられているのである。教育への熱情と時代を正視した経営感覚が教育要求を結集して時代の翳りを克服した姿が、彼女らのみずみずしい青春とともに本書に刻印されている。

じつに女子経専は大阪経済大学の華やかな礎石である。

大阪経済大学同窓会『青春の記録』編集委員（代表　前田悦子）編『青春の記録　ひとみ会の四十年』（平成元年三月十七日刊）

＊この書は久野収先生の喜寿を記念して編まれた。

＊＊評中に引いた執筆者名は、ここでは旧姓に統一させていただいた。

クラブ名	活動状況・戦績
空手道部	関西学生空手道選手権大会　ベスト8
日本拳法部	全国大学選抜選手権大会　ベスト16
柔道部	関西学生柔道大会　ベスト8 大阪学生柔道大会　準優勝
剣道部	大阪学生剣道選手権大会　笠井　第3位 全日本学生剣道選手権大会　窪田　笠井出場
合気道部	全日本学生合気道演武大会出場
少林寺拳法部	関西学生少林寺拳法大会　　田村・上原組　決勝進出
硬式野球部	関西六大学野球秋季リーグ戦　**優勝**
準硬式野球部	近畿六大学準硬式野球春季リーグ戦　**優勝**
硬式庭球部	関西大学対抗テニス3部リーグ戦　優勝　2部昇格
軟式庭球部	関西学生軟式庭球リーグ戦　春季第3位　秋季第5位 西日本学生対抗軟式庭球選手権大会　第5位
サッカー部	関西学生サッカーリーグ戦　春季第4位　秋季第5位
ラグビー部	大阪学生ラグビー大会Bゾーン　第3位
ハンドボール部	関西学生ハンドボールリーグ戦　春季・秋季　**優勝** 西日本学生ハンドボール選手権大会　準優勝
卓球部	西日本学生卓球選手権大会出場
バスケットボール部	大阪学生バスケットボール選手権大会　第3位　　関西学生バスケットボール2部秋季リーグ戦　優勝 西日本学生バスケットボール選手権大会　ベスト16　　1部昇格
バレーボール部	関西学生バレーボール春季リーグ戦　第5位
アメリカンフットボール部	近畿学生アメリカンフットボール選手権大会出場　　白岩・井口・仲野　オールスター出場（西宮） 関西学生アメリカンフットボールリーグ戦　第2位
ボクシング部	近畿学生ボクシングリーグ戦　第2位
陸上競技部	関西学生対抗陸上競技選手権大会　第6位 全国大学駅伝　第12位　　関西学生駅伝　第2位
バドミントン部	関西学生バドミントンリーグ戦　春季・秋季　第3位 西日本バドミントン選手権大会　団体第3位　森山・藤原組　第4位
自転車部	関西学生サイクルサッカーリーグ戦　2部優勝　1部昇格 関西学生サイクルサッカー新人戦　久保・越智組　優勝
山岳部	穂高岳沢合宿
アイススケート部	関西学生氷上競技選手権大会　第2位
ゴルフ部	関西学生ゴルフ秋季リーグ戦　第4位　　関西学生ゴルフ選手権大会　西堂路　第9位
競技スキー部	全日本学生スキー選手権大会出場
カヌー部	瀬田川カヌーレガッタ　高松・岩井組　第2位 関西学生カヌー選手権大会　第3位
自動車部	全日本ジムカーナ選手権大会出場 全関西ラリー選手権大会　団体7位
ヨット部	関西学生ヨット個人戦出場
洋弓部	関西学生アーチェリーリーグ戦　第2位
重量挙部	西日本学生ウェイトリフティング選手権大会　第2位　1部昇格 西日本学生ウェイトリフティング新人戦　90kg級　西川　優勝

同窓会 本部だより

本学の真価を生涯教育に発揮する

同窓会会長　磯野　斉

ベトナム難民とともに中国経済難民と呼ばれる人達が小型木造船にすし詰めの状態でやってきます。5月29日以降沖縄及び五島列島に漂着した数は22隻、2、800人と報じられました。世は正に情報化時代とは言え、情報過剰とも感じる中からこの人達がキャッチした我が国の情報は、東洋の宝島と言うことになっているのでしょうか。

なるほど我が国は、内需拡大策、低金利政策、製品輸入促進策、金融資本市場の自由化等々抜本的施策を相次いで実施し、国を挙げて国民生活の大転換が始まり、開闢以来の大レジャーブームになっていますが、企業活動はグローバルになり、人手不足は凡ゆる分野に浸透しています。このような状況でも難民問題解決の糸口を見付けることは、そう簡単ではないようです。

しかしながら逐年、経済力に弾みをつけるＮＩＥＳ三域に加えて、タイ、マレーシア、シンガポールの発展ぶりは目覚ましく、これら諸地域との経済交流に加えて、今後インドシナ半島の安定と成長に協力することは、アジア経済圏を代表する日本人にとって、米国との貿易摩擦を解消する諸施策とともに、ますますその重要さを加えるものと思います。

このような時期に、わが大阪経済大学は新しく多くの人材を世に送り、大阪府共催による大学公開講座も大阪府民待望の中に9月初旬第7回を開講しました。本講座は回を重ねるにつれ府民の高い評価を受けておりますが、今回大阪市からも市民文化講座開講に当たり、本学の協力を求められたようであります。先生方には一層のご苦労をおかけしたわけですが、長寿社会における重要課題である生涯教育のためにも、ますます本学の真価を発揮して頂きたいものです。

最近における同窓会は、5万人を超える会員を擁し、国内外にあってその活躍ぶりは各分野にわたっています。あと3年で大学創立60周年を迎えますが、全国35の支部総会は極めて活況を呈し、本年は熊本県在住同窓生の熱望が叶えられ、宮田南九州支部長激励のもとに36番目の支部が熊本に呱々の声を挙げます。各支部総会に加えて職域支部総会も盛んに開催され同窓会活動は年をおって充実発展を続けております。

さて、昭和63年度決算並びに平成元年度予算については、例年の如く6月24日全国各地から支部長、理事、監事、１００名のご参集を頂き、終始熱心なご審議の結果、議案総て承認可決されました。大学から鈴木理事長、山本学長初め諸先生のご臨席のもとに開かれた支部長会も、終始和やかな雰囲気の中に貴重な意見交換が行われ極めて有意義でありました。

おわりにのぞみ、『同窓会のしおり』『澱江』等編集にご尽力頂いた方々に心からお礼を申し上げますと共に、国内外各地でご活躍の同窓生各位のご健勝を心からお祈りいたします。

平成元年9月

平成元年度理事会活況を呈す

◇平成元年6月24日(土)午後6時
◇新阪急ビル12階、レストラン・パレス会議室
◇議　案
第一号議案
昭和63年度決算について
第二号議案
平成元年度予算（案）について
第三号議案
その他
◇定刻6時　司会者開会挨拶
◇磯野会長挨拶につづき、司会者（陰下事務局長）が、議案審議のため議長の選出方法について議場に諮ったところ、「司会者一任」の提案があり、磯野会長を議長に選任した。
◇第一号議案
森財務部副部長（33）から、昭和63年度収支決算の各項目について詳細に説明が行われ、続いて山上監事(2)から監査報告が行われた。
本案件について、議長がその賛否を問うたところ、全員拍手を以て賛意を表し、本案件は原案通り承認可決された。
◇第二号議案
西本総務部長（23）から、平成元年度予算案についてその内容を詳細に説明し、特に前年度から新しく計上した「スポーツ・学術振興積立金」については重ねてその趣旨を説明し、全理事にその趣旨を理解されるよう留意した。
本案件について、議長がその賛否を問うたところ、全員拍手を以て賛意を表し、本案件は原案通り承認可決された。
◇第三号議案
特別の動議・提案なし。
以上を以て平成元年度理事会は終了し、議長は閉会を宣した。
◇中谷和一就職部次長・神崎均入試課長のご挨拶
中谷和一就職部次長・神崎均入試課長に自己紹介を兼ねてご挨拶いただきました。
続いて、全員懇親会場に移りました。
今年度は、ご来賓の先生方と同窓会役員が自由に懇談出来るようにとの配慮から、懇親会は立食パーティー形式で行われました。
歓談の名残はつきぬまま、来年度理事会での再会を期して散会しました。

平成元年度全国支部長会開催

◇日　時　平成元年6月24日(土)
午後1時より
◇場　所　新阪急ビル12階、レストラン・パレス会議室
◇出席者
大学より
鈴木理事長・山本学長・渡辺経営学部長・藤本教養部長・田所理事（事務局長兼総務部長）
同窓会より
磯野会長以下常任理事13名並びに東海・岐阜・富山（代理）・福井・大阪市・大阪市役所・豊中・泉南・尼崎・西宮・神戸・丹有・姫路・岡山・備後・広島・山口・香川・愛媛・徳島・高知（代理）・北九州・南九州の各支部長及び徳島支部福井顧問
◇支部長会開催までの経過
昭和63年度同窓会総会の後で開催された「全国支部長会懇談会」の際に協力を要請したアンケート調査の回答の集計結果を考慮して協議事項が決定された。
◇支部長会の協議経過
一、支部の活動状況については、最近二十数支部が毎年支部総会を開催し、会員の母校並びに同窓会に対する関心は深まっている。
一、支部総会の状況と支部の活性化対策については、年1回の総会に加えて、それぞれ趣向を凝らした催しを開催して親睦の機会を増すよう努力される支部長の苦労が察っせられた。
一、同窓会の発展策については、常任理事会と全国支部長会の連携を密にし、全国支部長会は財政的に可能であれば別の機会に開催して、より一層の連携強化を図るべきではないか等々の意見が出された。
◇大学当局との懇談会の経過
全国支部長会に続いて大学当局との懇談会が開催され、概ねつぎのような発言があった。
①　時代に適応した学部・学科の増設を希望する。
②　大学の社会的評価の向上に一層の努力をされたい。
③　卒業生の高校教職関係者との懇談会を継続して発展的に開催されたい。
④　大学院の充実・強化と卒業生に対する配慮を要望する。
以上の要望に対して、大学当局から次のような回答があった。
①昨年来、それぞれの提案について検討の上努力してきたが、今後共その推進に努力する。
②　学科の増設については、経営学部に経営情報学科を設けることを決定した。
③　茨木校地の問題については、土地問題検討委員会を設けて具体的な計画立案に取り組みを始めている。
④　就職状況は好調である。
⑤　卒業生の高校教職関係者との懇談会は継続して開催する。また大学院の充実については、現在検討中である。
以上を以って平成元年度全国支部長会は、今後に幾つかの課題を残しながらも有意義に終了した。

平成元年度同窓会総会盛大に開催される

平成元年度同窓会総会は快晴に恵まれた11月3日（文化の日）に「会いましょう!!　話しましょう!!　母校記念館で」を合い言葉に前年同様、母校50周年記念館で開催されました。
学内関係各部課のご協力により会場の設営、その他準備万端は前日に完了し、母校記念館での開催も3回目とあって混乱もなく定刻11時、波根広報部長の司会でセレモニーが開会されました。
小松総会特別委員長の開会挨拶は、女性らしい和やかなムードを醸し出しました。
磯野同窓会長からは、今年も同窓会総会で元気に再会出来たことの喜びと、当日わざわざご臨席いただいたご来賓各位への謝辞に続いて同窓会活動の盛り上がりを詳細に説明され、会員各位により一層の協力をお願いする旨の挨拶がありました。
開会時、ほぼ満席だった会場は、鈴木理事長・山本学長の両先生にご祝辞をいただく頃には後方で立ったままの姿が多く見受けられました。
理事長鈴木亨先生からは、11月1日、あらためて理事長に再選されたことを報告の後、ややもすれば東京に比べて大阪は文化水準が低いようなことを言われるが、江戸時代から幕府の官学に対して大阪には民学があり、適塾などによる少数精鋭教育が行われ、多くの偉人を輩出している歴史があり、本学もその精神と流れを酌んで今後より一層の発展を期し、更に経営学部経営情報学科の新設については色々困難な問題もあるが強力に推進する旨の力強いご挨拶がありました。
また、学長山本晴義先生からは、学長に再選されたことを報告された後、経営学部経営情報学科の新設については教学関係者も一致団結してその実現を目指し、国際文化交流の定着に努力する旨の所信を述べられ、更に今年度の公開講座、父母懇談会、経大生のためのパネルディスカッション計画等については同窓会にも協力を依頼した旨のご挨拶があり、両先生の祝辞に万雷の拍手がおくられました。
その後、母校の役員、教職員の方々をご紹介し、永年に亘り同窓会の発展に貢献された、前西宮部長八木米次氏(1)（代理・西宮副支部長金子赫氏(24)）・東海支部長加藤正秋氏(10)、常任理事前田悦子氏(13)、同平尾哲男氏(28)（代理・組織部副部長中村敏啓氏(31)）にそれぞれ感謝状並びに記念品が贈られました。
最後に全国各支部から出席された支部長の自己紹介を終えてセレモニーは無事終了しました。
午後は会場を7階のホールに移し、財務担当の白井正幸常任理事の司会で懇親パーティーが開会されました。
昨年に比べ参加者が数十人多かったため会場は立錐の余地もない状態で、鈴木理事長・山本学長・磯野同窓会長による鏡開きに続く萩原顧問の乾杯とともに会場の談笑の渦は一気に爆発しました。
初めての若い参加者も多かったためかあちこちで名刺を交換し、友人を紹介しあう姿が目立ちました。
最後に、作曲者・松川圭一氏(15)の指揮でグリークラブの学生諸君と共に全員逍遥歌を合唱し、佐々木一義広島支部長(9)の音頭で万歳三唱、来年の再会を約し記念品の水性ボールペンとタオルを片手に三々五々解散しました。

変貌する大阪

変貌する大阪プロローグ

「好きやねん、大阪」、これはときどき私たちが目や耳にする標語です。一方、東京との対比で、地盤沈下が言われて久しいのも関西です。関西は一体どうなるのでしょうか。

また、国際化・情報化と叫ばれる昨今、私たちが学び、後輩たちが学ぶ母校は一体どうなっているのでしょうか。それは、着実に充実しています。そしてその充実は、大阪、関西の発展と軸を一にしているとも言えます。

「変貌する大阪」と題した当企画は、そんな種々の思いを込めたレポートです。関西国際空港とりんくうタウン、国際花と緑の博覧会、大阪ビジネスパークをはじめとする市街地再開発、そして卒業生への直撃インタビュー。

皆さんも、思い出から未来へ、未来から思い出へと想像に花を咲かせて下さい。

（吉村レポーター）

写真提供等ご協力いただいた機関（順不同）

大阪府国際花と緑の博覧会協力局
大阪府企業局空港対策室
大阪府企業局地域整備部湾岸整備課
大阪市計画局計画部
大阪ビジネスパーク開発協議会
㈶国際花と緑の博覧会協会

平成元年中に総会を開催された支部一覧表

支部名	開催の月日	開催の場所
広島支部	2月8日(水)	八丁堀シャンテ
山口支部	2月26日(日)	ホテル石田屋
大阪市支部	3月5日(日)	大阪東急ホテル
和歌山支部	5月5日(金・祭)	和歌山ターミナルホテル
尼崎支部	5月26日(金)	尼崎総合文化センター
岡山支部	6月3日(土)	桃花苑
高知支部	7月1日(土)	高知第1ホテル
泉南支部	7月8日(土)	割烹　この木
富山支部	7月9日(日)	東急イン富山
南九州支部	7月29日(土)	宮崎ホテルフェニックス
愛媛支部	9月2日(土)	西条国際ホテル
鳥取支部	9月2日(土)	三朝温泉　花屋別館

支部名	開催の月日	開催の場所
徳島支部	9月16日(土)	ホテルサンルート徳島
備後支部	9月24日(日)	福山ニューキャッスルホテル
北海道支部	10月6日(金)	札幌第1ホテル
福井支部	10月18日(水)	スエヒロ
姫路支部	10月19日(木)	北京閣
東京支部	11月8日(水)	野村クラブ
神戸支部	11月17日(金)	神戸東急イン
豊中支部	11月18日(土)	ホテルアイボリー
奈良支部	11月19日(日)	奈良ラインハウス
東海・岐阜支部	11月25日(土)	名古屋国際ホテル
丹有支部	11月26日(日)	ささやま荘

昭和63年度収支決算書

自　昭和63年4月1日　至　平成元年3月31日

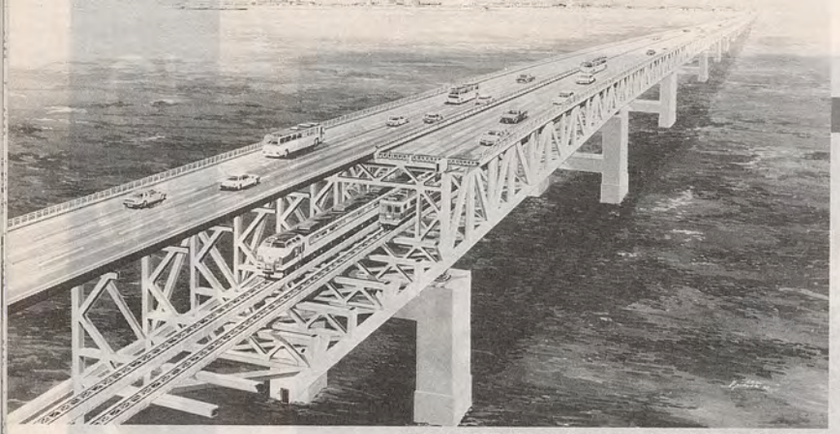
収入の部 科目	決算額	予算額	支出の部 科目	決算額	予算額
前期繰越金	11,668,484	11,668,484	総会費	4,087,652	5,000,000
会費収入	51,760,000	48,000,000	役員会費	1,473,170	1,500,000
総会収入	751,000	500,000	支部費	6,005,835	7,000,000
利息収入	437,069	700,000	事務費	359,423	700,000
澱江収入	796,450	500,000	人件費	6,571,180	7,300,000
名簿収入	620,010	500,000	旅費交通費	2,691,380	3,000,000
雑収入	568,150	0	澱江編集費	14,010,241	14,000,000
			名簿追跡調査費	1,703,975	2,000,000
			学対費	2,330,000	3,500,000
			諸会助成費	1,259,070	1,500,000
			慶弔費	95,000	300,000
			50周年対策費	384,000	0
			特別基金戻入	6,000,000	6,000,000
			名簿発行積立金	4,000,000	4,000,000
			予備費	(394,241)	6,068,484
			次期繰越金	15,630,237	0
合計	66,601,163	61,868,484	合計	66,601,163	61,868,484

平成元年度収支予算表

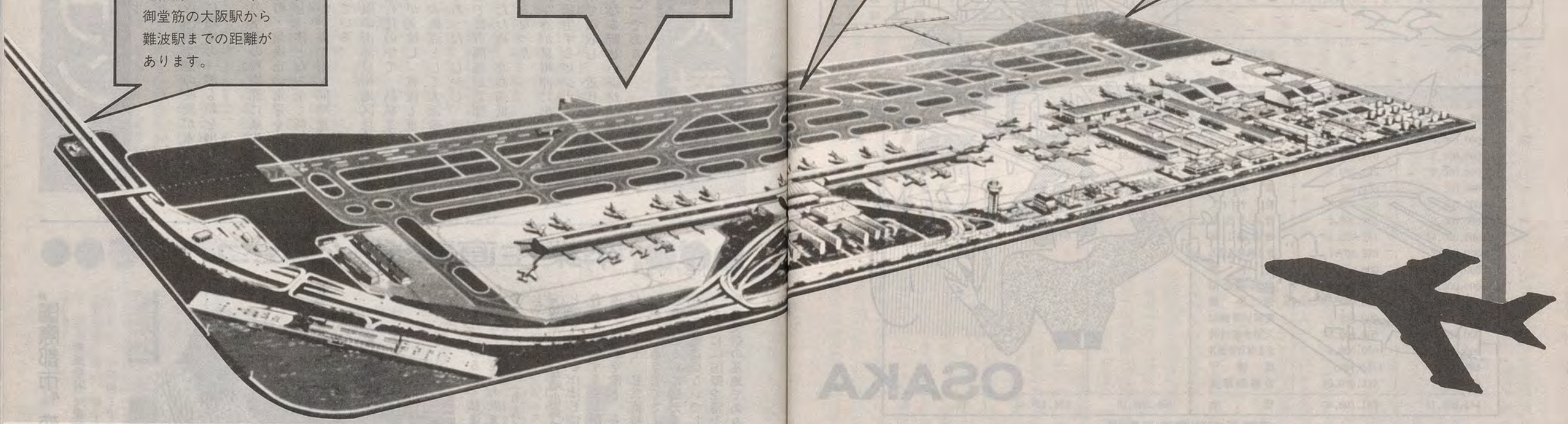
自　平成元年4月1日　至　平成2年3月31日

収入の部 科目	予算額	摘要	支出の部 科目	予算額	摘要
前期繰越金	15,630,237		総会費	5,000,000	
会費収入	40,000,000		役員会費	1,500,000	理事会・常任理事会・各部会
総会収入	500,000		支部費	7,200,000	運営費・支部総会援助
利息収入	600,000		事務費	500,000	
澱江収入	500,000		人件費	7,300,000	事務局人件費
名簿収入	500,000		旅費交通費	3,000,000	
			澱江編集費	14,000,000	
			名簿追跡調査費	2,000,000	
			学対費	3,500,000	大学祭・クラブ活動援助
			諸会助成費	1,500,000	諸会援助・同窓会の礼おり
			慶弔費	300,000	
			名簿発行積立金	4,000,000	
			スポーツ・学術振興積立金	5,000,000	
			予備費	2,930,237	
合計	57,730,237		合計	57,730,237	

関西国際空港



車道と鉄道が立体化される空港連絡橋（構想図）



いま関西で進んでいるビッグプロジェクトのうち、もっともよく知られているのは泉州沖に建設中の関西国際空港だろう。

現在の大阪国際空港は都心から30分の市街地にあり非常に便利であるが、反面、騒音問題などから夜間の運行は制限され、離発着回数もすでに限界にきている。

このため長い間新空港の建設のためさまざまの案が検討されたが、関西周辺にはもはや大規模な空港用地はなく、公害防止の点や各都市からのアクセスを考え、大阪湾の泉州沖5kmの地点に海上空港を造ることに決まった。計画では日本初の24時間発着ができる本格的な国際空港となる予定で、'93年春の開港を目指している。

空港島の面積はおよそ510ha、大阪市内でいえば南北に走る御堂筋と堺筋に囲まれ、梅田から難波までの地帯の広さに相当する。

すでに周囲の護岸は完成しており、現在埋め立てが進んでいる。付近の水深は約18m、その下には軟弱地盤が続くため、水面下に約100万本の杭を打ち込んで地盤を安定させた後に、30mくらいの厚さで土砂を上に載せていく。これは、大阪駅前のマルビル2、000本分という厖大な量になる。

'90年後半になると、埋め立てが終わった場所からいよいよ空港施設の建設が始まる。その中心になるのが旅客ターミナルビル。滑走路1本(3、500m)、年間離発着回数16万回という同空港のいわば核になる施設で、デザイン設計は国際コンペの末、フランスの建築家レンゾ・ピアノ氏に決定し、すでに基本設計の段階に入っている。

構想では、ターミナルビルは3階建の建物になる。1階は国際線の到着、2階は国内線の出発・到着、3階が国際線の出発という構造。同一建物内で移動できるので国内線と国際線を行ったり来たりする必要がない。

空港完成時に、陸上とは全長約4kmの二階建て橋でつながり、鉄道と高速道路がターミナルビルへ乗り入れる。鉄道は南海が難波まで30分、JRで新大阪まで50分を予定している。

また島の一部に設けられる海上アクセス基地からは高速船で神戸まで50分、四国、淡路島からの海上ルートを含めて、各都市へ陸海空さまざまな交通手段を選べるのもこの新空港の特徴になっている。

現空港が満杯のため、乗り入れできないオーストラリアやインドネシアの航空会社が、新空港への進出を表明しており、やがてヨーロッパ、アメリカ、アジアから大洋を越えて一番機が飛んで来る。

りんくうタウン

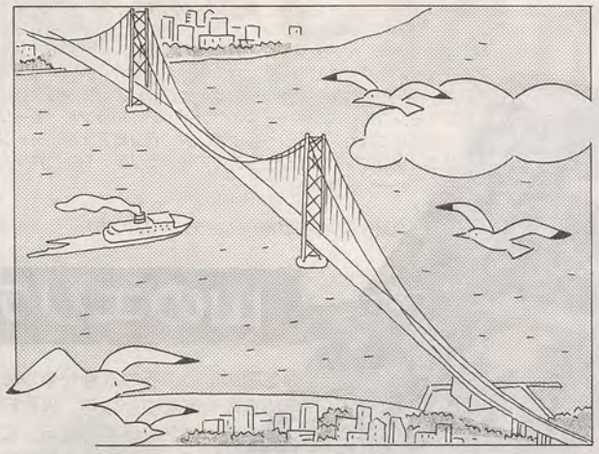
関西国際空港の建設が本格化し、すでに陸地の一部も顔を出している。

この空港の対岸部に泉佐野市・田尻町・泉南市の海岸を埋め立て、空港と一体となる全く新しい街の建設が空港工事と同時進行で進められている。

大阪の南部泉州地区は明治以来の近代化の中で、紡績業など花形産業が立地し、戦後も重化学工業の一大拠点として大阪産業の先進地であった。しかし、産業構造の変化と都市開発が北部に重点が置かれたため、北高南低といわれる結果となった。

新空港が泉州沖に出来ることにより発生するビジネスチャンスを泉州で吸収し、近代化と国際化の核となる新しい街が「りんくうタウン」である。

明石海峡大橋



四国と本州を結ぶ三本の連絡橋は、瀬戸大橋が一足先に開通し、次いで神戸と淡路島を結ぶ明石海峡大橋の工事に着工した。

昭和28年から調査が開始されたこの明石海峡大橋は、48年に石油ショック後の総需要抑制策で計画が凍結されるなど幾多の困難を乗り越え、ようやく着工にこぎつけたもので、それだけにこの事業にかける期待は大きい。

このほど下部構造の一部、主塔基礎の鋼鉄製ケーソンが沈められ、直径80m、高さ65mの巨大ケーソンが水面から5mほど顔を出している。

明石海峡大橋は昭和60年に開通した大鳴門橋とともに、本州四国連結の神戸鳴門ルート全通の時期を左右する大土木工事になる。

工期は昨年5月の着工から約10年の予定。完成すれば阪神と淡路島、四国が直結され、所要時間は約半分になり、大阪湾をめぐる広域経済圏が出現することになる。

卒業生直撃インタビュー

"国際都市"変貌に燃える男の口マン

株式会社　泉佐野コスモポリス取締役開発調整部長

南澤　正広氏（21回卒）

南澤　正広氏とAインタビュアー

8月のある日、私達は南澤さんを訪ね大成建設大阪支店にお邪魔しました。まず、「りんくうタウン」について――。

「現代版、長崎出島でしょうね」と、また「それほどにこの5㎞沖合いに実現する我が国初の24時間運用の国際空港と、その相乗効果が作用して、私共直接このことにかかわりあう者でさえきっとその想像をはるかに超えるものになることは間違いないでしょう」と。

さらに「国際空港を核にした情報発受信の基地であり、大量の人と物流の一大拠点としての役割を担い、過去の大阪が安土・桃山の世以後失ってきた主役の座を必ずや復元し、それをはるかに超えるであろう第一級の〝国際都市〟に変貌するでしょう」と、熱っぽい男のロマンをおりまぜて語ってくださいました。

スポーツについての質問には、彦根東高校では伝統のボート部で黄金時代を築かれたこと、大学時代はラグビー部で柴田秀一先輩に鍛えられたことなど語ってくださいました。そして「仕事でも究極はチームプレーに徹することですね」と感慨をこめて述懐されました。

最後に趣味は、芙蓉グループの異業種有志が相集う「温知会」を主宰、年4回の例会に世話役としてご活躍とのこと。

昭和30年3月卒、同年4月大成建設入社。広島、本社、東京、高松から大阪支店関西国際空港部長（四代目）、現在㈱泉佐野コスモポリス出向、同社取締役開発調整部長

家族構成

一男一女は独立して妻と二人ぐらし。奈良市在住。

（広報部A）

―異色の同窓生、リゾート開発に燃える―

共栄造機株式会社　社長

林　　武氏（23回卒）

林　武氏

鳴門経済クラブ（理事長　大塚製薬会長）と鳴門商工会議所有志による開発プロジェクト「㈱鳴門マリンランド」が、「地元の資本と、地元の経営により、地元のために活かそう」との発想により、ダイナミックな活動を開始している。

その提案者であり、推進役である林氏（55歳）は「鳴門大橋の開通、そしてこれからは新関西国際空港、明石大橋、徳島国体とビッグプロジェクトが目白押しです。しかも、当地は国立公園を含むリゾート地帯なんです。」と熱っぽく語りかける。

その事業目的は、漁業を観光資源とした地域のポテンシャリティーを発見し、都市化した人々との交流を促すことをメインに、双胴船「体験丸」観光など夢多き事業である。このような発想と、その具体化には林氏の存在が欠かせないものだったと思われる。

ゴルフ焼けした人懐っこい笑顔で氏は語る。「徳島県出身、昭和32年卒業、北里ゼミ、柔道と写真部に籍はあったがあまり大学には行きませんでした」「家業は旅館業でしたが、卒業後1年間船舶電気工事会社に勤め、翌年独立しました。創業と結婚が同年で30周年になります」

「現在では、技術に生きる、水産機械の総合メーカー共栄造機㈱として、フィッシュポンプ（魚吸揚げ移送機・シェア95%。日本人の食べる「さんま」10匹の中9匹までは当社のフィッシュポンプの中を少なくとも一度は通ったものであるとのこと）はじめ氷関連機械、水産加工システムの開発エンジニアリングなど、中小企業ながら海外市場を含め独自の地盤を築き、いかに良い機械・サービスを提供できるかのコンクールに挑戦していきます」とのこと。

それは、創業から現在までの特許登録件数110件、そして平成元年春の褒章（4月29日）には㈱発明協会推薦による「黄綬褒賞」を最若年者の一人として受賞されたことからも推察される。またそれには、時代のニーズを先取りした幸運もあるが、大企業を相手に開発競争に打ち勝つために、漁業の現場での漁業者の協力と当人の粘り強い努力によって成果が報われたものであり、更には漁業そのものを観光資源として開発するリゾート開発に発展したものであろう。

長女と次女は嫁ぎ孫4人、長男は会社を助け、次男は大学生、母と妻に囲まれ、趣味はゴルフ（ハンディ10）と酒・カラオケ。モットーは「人生役立ってこそ生きがいあり」その氏の好きな言葉は、

有レ人失レ地
人レ地皆有
有レ地失レ人
人レ地皆無

中国四千年の歴史は他民族との闘争の歴史であった。例え戦争に負けるとも人の命は守らねばならない。土地を死守しようとも人の命を失えば、人も地もないのと同じである。大地は（地球上は）人が主人公でなければならない。

（広報部H）

国際花と緑の博覧会

1990年4月1日（日曜）から9月30日（日曜）までの183日間にわたって、国際花と緑の博覧会が開催される。

世界の目と耳を再び大阪にあつめるこのビッグイベントは、入場者予測2000万人、事業費3400億円。千里丘陵で開催された'70年万国博から20年目で、大阪にとっては2度目の国際博になる。

会場の鶴見緑地は大阪市の北東部にあり、駐車場まで含めた広さが140haで、甲子園球場の35倍、博覧会のためにJR・京阪京橋駅から5kmの新しい地下鉄を建設する。

この新線は世界初のリニアモーター地下鉄で、すでに軽快な車輌が完成し試運転が始まっている。

博覧会のテーマが花と緑というだけあって、1200種、200万株にもおよぶ植物が世界中から集まる。会場は山・街・野原の三つのエリアからなり、各エリア間はロープウェイや水路を走る「ウォーターライド」が連絡する。

世界の環境保全に対する意識が高まっている折、ハイテクと情報の時代に自然とどのように調和してゆけば良いのか、これからの生活環境を探るテーマとして博覧会を注目したい。

街のエリア

花の万博でもっとも広い面積を占めるのが街のエリアである。

街と自然をテーマに理想的な都市空間を演出。開会式や各国のナショナルデーもここで開かれる。万博といえばまず頭に浮ぶのがパビリオン。大阪市の「咲くやこの花館」をはじめ各企業が工夫をこらしたパビリオンが建ち並ぶ。

■咲くやこの花館

延べ7,000㎡、わが国最大級の大温室です。熱帯から高山、極地に至るまでの気象条件を人工的に再現して、世界各国の植物を展示。その数は約2,600種、約15,000本の予定です。

花ずきんちゃん

EXPO'90

■いちょう館

●テーマ／自然と生きるOsaka

一人が安らぎ未来が宿るOsakaの創造自然とともに生きた歴史ある大阪の文化を手触れ動かしてみる体験的展示で学び、花と緑とに生きる未来の国際情報都市Osakaを香り、ロマシステムや振動のある大型体感映像で楽んでいただけます。

花の万博

承認番号　9公-KY-0176

（海外からの出展参加国）

ベリーズ／モナコ／タイ／セーシェル／スリランカ／オマーン／イエメン・アラブ／オーストラリア／ブータン／メキシコ／ネパール／イラン／オランダ／イスラエル／トルコ／パプアニューギニア／エクアドル／西サモア／ブラジル／エジプト／トンガ／セネガル／カメルーン／ブルガリア／ボリビア／インド／フィンランド／マダガスカル／タンザニア／モロッコ／中国／韓国／イタリア／フィリピン／ミクロネシア／マーシャル／ペルー／パラグアイ／コロンビア／ユーゴスラビア／キューバ／インドネシア／パキスタン／モンゴル／ベルギー／ウルグアイ／アイルランド／モーリシャス／オーストリア／マレーシア／ケニア／ドミニカ／フィジー／ウガンダ／ザンビア／グレートブリテンおよび北部アイルランド／ジンバブエ／ソロモン／ナイジェリア／アルジェリア／シンガポール／ソビエト／スペイン／アメリカ／カナダ／ニュージーランド

（州・市）

西ドイツ（バイエルン州、ハンブルグ市）／フランス（パリ市）

山のエリア

日本と世界各国のいろいろな庭園が楽しめるのがこの山のエリア。

会場北東部の丘陵地帯を生かして、人と自然のかかわりをテーマにした政府苑を中心に自然を満喫できる。このエリア内の移動には明治時代に北海道で活躍したSLの本物の義経号が復活し、15分のミニ旅を楽しませてくれる。

■政府苑

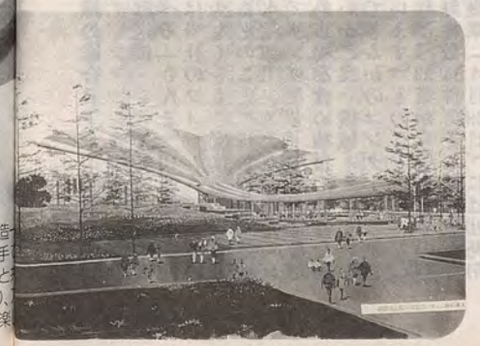
「テーマ出展」と「日本国出展」の二つの役割を担い、展示・建築・広場等からなる区域全体が出展であるという考え方のもと、人と緑の関わりあいを示す苑とします。

野原のエリア

会場の中央に広がる大きな池を中心にした一帯が「野原のエリア」。池のまわりに数10万株の花が植えられた大花壇が広がる。

周辺の広場ではパレードやコンテストなど様々な催しが繰り広げられる。

大阪府のパビリオン「いちょう館」展示会場の「国際展示館」などが建つこのエリアは、自然との調和を表現するところである。



開催の概要

●名称	国際花と緑の博覧会
●略称	花の万博、ＥＸＰＯ'90
●ねらい	花と緑と人間生活のかかわりをとらえ、21世紀へ向けて潤いのある豊かな社会の創造を目指す。
●開催期間	1990年4月1日～9月30日
●場所	大阪「鶴見緑地」大阪都心から東へ約8km
●規模	会場面積/約140ha（駐車場・関連施設等を含む） 予想入場者数/2,000万人

変貌する大阪

大阪のビッグプロジェクトは、現在のところいずれも〝只今進行中〟である。というわけで、市内でもその完成に合わせるかのように衣替えと化粧直しに忙しい。

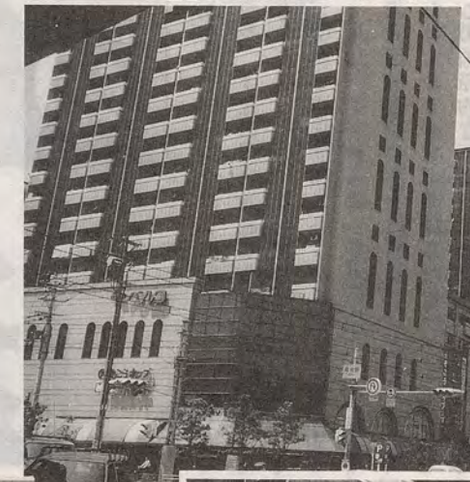
中之島を囲む遊歩道、若者の街に変身したミナミのアメリカ村、大阪城を見おろすようにそびえたつOBPの高層ビル、etc…。

赤い灯、青い灯のナニワ情緒を残しつつ、活気にあふれた街が日毎に変わっていく様子をながめているのもまた楽しい。

◀大阪市役所新庁舎

▼中之島を巡る遊歩道

▼市街地再開発で生まれたショッピング街と住居が一体となったアベノベルタ



▲水の都の観光名物になったアクアライナー

▼大正時代から大阪を見つめるなにわ橋のライオン

▲御堂筋をはさんでアメリカ村と反対側にあるヨーロッパ村

▲大阪ビジネスパーク（OBP）
21世紀に向けて開発されたまったく新しいビジネス都市、多くの超高層ビルが建っているが、現在も建設進行中

▲大阪南港　国際見本市会場インテックス大阪

◀新空港の玄関口なんば駅に建設中のホテル

学園の近況

二十一世紀に向かって果敢に前進しよう

山本　晴義　学長

学長　**山本晴義**

本学は今、大きく動きだしつつあります。

一昨年9月、理事長、学長に提出されました「企画検討委員会」の答申にたいする全学的な合意にもとづき、現在、経営学部にあらたに経営情報学科を一九九一年度を目指して開設すべく「新学科設立準備委員会」を設置し、鋭意努力をかたむけております。開設されたあかつきには、この国際的な「高度情報化社会」の要請にこたえ得る、さらにすぐれた大学へと前進するのではないかと考えております。また懸案の茨木校地につきましても全学的な「茨木校地問題検討委員会」を設け、種々検討を進めております。

約5万人を超える同窓生の皆様方のご支援を得、また好景気という背景もあって、昨年度の就職状況は質量とも開学以来最高でございました。私自身も大銀行や証券企業をまわりましたが、ありがたかったのは「御校の伝統は地味だが、信用できる」と異口同音に言われたことです。

もっとも現在の情報化社会の中で、私は今後もっとPRをあらゆる手段でやっていく必要があると考えております。すでにご承知の大阪府と共催の公開講座は第7回目にはいり、とくに今回はOBの野村投信の井阪健一氏に講師としてご協力いただき、好評のうちに実施いたしました。また本年から大阪市の依頼があり、6月から大学開放講座をはじめております。なお父母懇談会など、ますます多角的なイベントを計画するつもりでおります。

また、最近の社会情勢を反映して、女子学生が急激に増加していることは大学全体を非常に明るくしており、喜んでおります。21世紀に向かって、全学的な改革を大たんに実行し、その成果を全国的、国際的にアピールすることが私達の責務であると考えております。どうか今後とも皆様方のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

一九八九年十月

常日ごろ、ご無沙汰しております。母校のため、いろいろとご心配、ご協力いただき、この場をおかりして心から御礼申しあげます。

学園の近況

人事

◇新任―よろしくお願いします―

1989年4月から、左記の方々が着任されました。今後の活躍が期待されます。

教養部　助教授　柏木　正

（社会科教育法・教育実習）

兵庫県の湊川女子短期大学より転任してまいりました。専門は教育法学で、当面は、社会科教育法と教育実習を担当します。将来教師をめざす場合はもちろんですが、経済学・経営学などの専門分野を深める上でも、それが教育の中でどう生かされるかを考えることは大いに意味のあることです。学生諸君と共に学び、語り、成長しあえることを楽しみにしています。

柏木　正

総務部管財課　河邊　雅恵

長かった学生時代が終わり、一人の社会人として責任をもたなければならない時がやって来ました。奈良の田舎で育ったせいか、のんびりした性格の私も今は不安で胸が一杯です。全く新しい環境で、とまどう事ばかりだと思いますが、試行錯誤しながら自分なりに頑張り、少しずつ成長してゆきたいと思っています。未熟な私ですが、皆さん、どうぞよろしくお願い致します。

河邊　雅恵

図書館閲覧課　川崎　章

今年の3月に大阪経済大学を卒業し、引き続いて大阪経済大学に通うことになりました。

就職先が大阪経済大学に決まって以来、4年間見慣れていたものが、なぜかとても新鮮に見えました。それは、気持ちの切り換えがあったからだと思います。この気持ちを忘れず、学生時代の気持ちをひきずらないよう自分に対して厳しい目を持ち頑張りますので、どうぞよろしくお願い致します。

川崎　章

◇退職

永い間ご苦労さまでした。

事務局長　玉岡　浩（定年）
63・3・31付

広報部副部長　山下　博三（定年）
63・3・31付

就職部副部長　石井　敏雄（定年）
63・3・31付

なお、引き続き嘱託として活躍しておられます。

玉岡浩理事（任期3年）は渉外担当理事として2年間委嘱されました。

（1989年4月1日付）

◇海外出張

鶴田　廣巳　教授
目的　調査研究
行先　アメリカ合衆国
期間　1989・4・1～1990・3・31

役職者一覧

（1989・10・1）

理事長	鈴木　亨
学長	山本　晴義
経済学部長	松村　文武
経営学部長	渡辺　泉
教養部長	藤本　周一
大学院委員長	松村　幸一
教務部長	上島　武
入試部長	森川　滋
学生部長	高城　寛
就職部長	松原　和男
図書館長	里上　譲衛
情報処理センター長	内海　健一
体育館長	浜田　幸策
日本経済史研究所所長	山田　達夫
中小企業・経営研究所所長	竹林　祐吉
事務局長	田所　清市

教学関係

◇経営情報学科増設について

1989年5月26日㈮開催の教授会において、経営学部に新しく経営情報学科を増設することが承認されました。

これによって、待望の新学科が1990年6月申請、1991年4月開設に向け、準備をスタートすることになりました。

新学科増設計画は、本学の学園整備充実構想の一環として、1988年9月に、企画検討委員会から「大阪経済大学の将来計画に関する答申」が出されて以来、教授会ならびに理事会において検討を重ねてきました。さらに1989年3月から、学長のもとに設置された新学科増設調査委員会において、調査を進めようやく正式に教授会の承認に至ったものです。

この経営情報学科は現代社会の要請に応えるため、より充実した情報処理教育をはじめ、21世紀に向かう新しい教育研究を系統的に進め、本学にふさわしい特色のある学科増設を実現するものと期待されています。

◇『父母懇談会』の開催

本学最初の父母懇談会は、1988年11月12日㈯、近畿2府4県在住の父母を対象に行われ、320名の参加者がありました。父母からの大学に対する要望・期待は実に多く、両親が揃って参加するなど関心の高さがみられました。

89年は11月18日㈯に開催する予定です。

◇高等学校教職関係卒業生との懇談会

1988年12月3日㈯午後1時より、50周年記念館において、標記懇談会が、本学主催で開催されました。今回の開催は、1992年度以降の進学適齢者減少期を控え、今後のあり方等について、高校教職同窓生と本学学長以下関係者とが膝を交えて話しあうべきであると、磯野斉同窓会会長をはじめ、教職同窓生より熱心な要請があり、大学も今後の対策につき鋭意模索中であった折柄、まさに時宜にかなった懇談会となりました。

教職懇談会

当日の出席者は、同窓会側として、近畿2府4県の高等学校に勤務する第一線教員を中心に、その他の府県については同窓会各支部の支部長が推薦する同教員、および同窓会役員を加える計65名、後援会会長。大学側からは学長、各学部長並びに教学関係者約29名が参加して盛大に行われました。

まず、4階大会議室において、鍋島哲郎大学事務部次長の司会の下、山本晴義学長・磯野斉同窓会会長のあいさつ、内海健一教務部長の懇談会開催趣旨説明に続き、13：30～15：00では出席同窓生から、予め送付された「はがき」による質問・要望項目に大学が一つ一つ答える形で懇談会が行われました。

次いで15：30～17：00までは、自由懇談形式で田所清市総務部長の司会により双方から活発で、しかも有益な意見が交換されました。

なお、この後は陰下嘉典同窓会事務局長の司会で17：00～19：00まで会場を同館7階ホールに移し、懇親会を和やかに開催しました。第1部の懇談会とは打って変わり、一同は旧師弟の間柄に戻り、楽しい一夕を過ごしました。

この懇談会は、ここ暫く中断されたままになっていましたので、久し振りに同窓生（しかも新制大学卒の中堅教員が大半）からの母校を思う諸提言には、大学としてもこれを真剣に受け止め、効果ある対策を早急に樹立する必要があります。

◇『古稀記念論文集』献呈式

3月31日㈮11時から、特別会議室において古稀を迎えられた尾崎彦朔・森杉夫・末永隆甫・木村敏男教授に、山本晴義大阪経大学会会長より『古稀記念論文集』が献呈され、その後、理事長の祝辞と、各先生から謝辞が述べられました。

先生方には今後ますますのご活躍とご健康をお祈りいたします。

◇1989年度新入生歓迎行事

4月4日㈫の入学式終了後引続き体育館4階において午前11時から標記行事が行われました。

今年度は「今、君達に望むこと」と題して、記者一筋（元読売新聞社大阪本社編集局次長）で名コラム「窓」の筆者としても活躍され

黒田　清氏

た黒田清氏を迎え講演会が開催されました。

岡本昌夫学生部長の紹介で演壇に立たれた黒田清氏は、永い記者生活で経験された国際色豊かな幅広い話題を中心に講演され、新入生をはじめ、参加した父母、教職員ともに感動し多大の収穫を得ることができ、盛会のうちに終わりました。

◇3研究所が統合

3研究所（中小企業経営・産業経済・経営研究所）は、このほど統合整備され、1989年4月1日より中小企業・経営研究所として発足することになりました。

その趣旨は研究所の組織を統合整備し、活性化と開放化をはかることにあります。すでに、新組織の規程の骨子が出来、運営委員が選出され、新所長には竹林祐吉教授が就任されました。

◇プライトナー博士が中小研を訪問

サンクトガレン経済・社会科学大学付属スイス中小企業研究所所長プライトナー博士が、5月13日㈯中小企業・経営研究所を表敬訪問されました。

プライトナー博士を囲んで

プライトナー博士は中小企業・経営研究所所長の竹林祐吉教授、運営委員の伊藤武教授・森川滋教授と懇談の後、図書館を見学されました。午後からは関西中小企業研究会に出席されて、関中研の先生方とも親交を深められました。

1989年度入試結果

◇特技（スポーツ）推薦

1989年11月4日に実施されました標記入学選考の志願者・合格者状況は左記のとおりです。

1　志願者・合格者状況

	志願者数	合格者数
経済学部　経営学部	108（0）	78（1）
	40（0）	30（0）

※（　）女子内数

2　合格者の種目別内訳

柔　道	5	卓　球	3
剣　道	4	バドミントン	2
陸上競技	6	サッカー	9
競技スキー	1	ラグビー	11
硬式野球	9	バスケットボール	3
準硬式野球	3	バレーボール	3
硬式庭球	2	ハンドボール	5
軟式庭球	4		

◇普通科・商業科推薦

1989年12月4日㈰に実施されました標記推薦入学選考の志願者・合格者等の状況は左記のとおりです。

（普通科）

1　志願者・合格者等状況

	経済	経営	合計
志願者数	151（10）	149（23）	300（33）
受験者数	151（10）	149（23）	300（33）
合格者数	151（10）	149（23）	300（33）

2　依頼校別状況

依頼高校数　（210）

志願者のあった高校数　（161）

（商業科）

1　志願者・合格者等状況

	経済	経営	合計
志願者数	26（2）	41（19）	67（21）
受験者数	25（1）	39（17）	64（18）
合格者数	22（1）	31（15）	53（17）
入学手続者数	22（1）	31（15）	53（17）

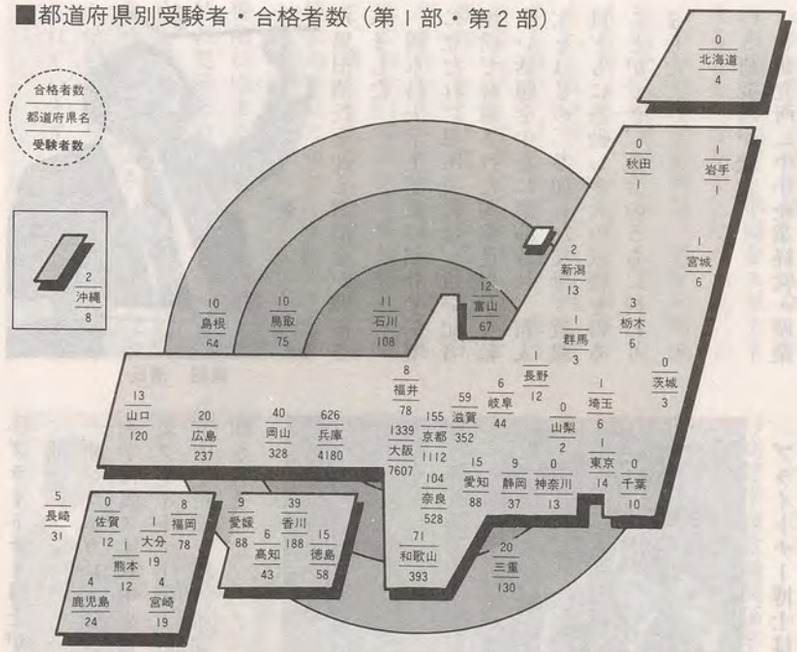
※（　）は女子内数

◇1989年度入試結果

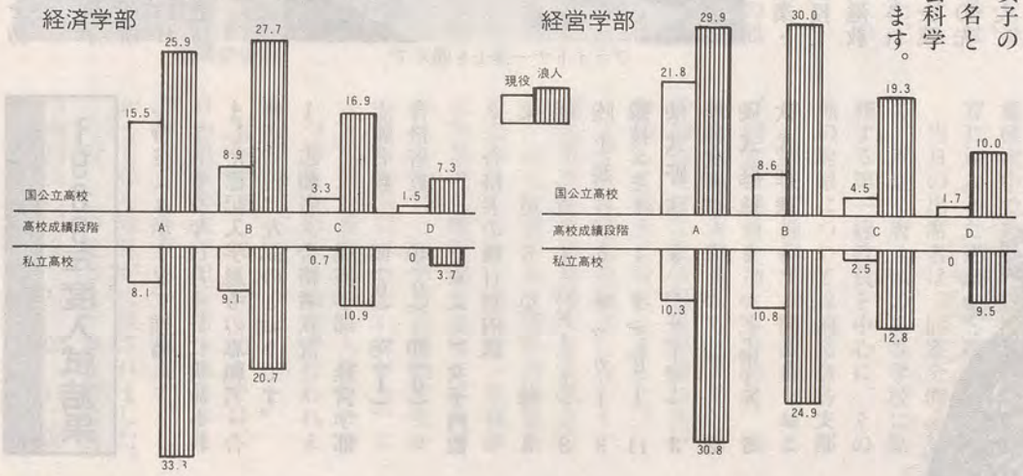
2月9日・10日の両日実施されました入学試験の志願者・合格者等の状況は次表のとおりです。

1989年度の志願者合計は16、689名で前年度に比べ、289名（10・8%）の微増でした。1・2部別でみると第1部は313名（2・2%）の減少、第2部は602名（31・4%）の増加となりました。第1部の学部別では経済学部は1、131名（169%）の増加、経営学部は1、44名（18・5%）の減少で、隔年現象となりました。また女子の志願者が211名↑362名と71・5%の増加を示し、社会科学系学部への志向が高まっています。

■都道府県別受験者・合格者数（第1部・第2部）



■高校成績段階別合格率（第1部）



1990年度 推薦入学選考日程 入試日程

◇特技（スポーツ）推薦

出願期間　1989年10月2日(月)～10月6日(金)

選考日　1989年10月20日(金)

合格発表　1989年10月28日(土)

募集学部・人員

経済学部第1部　35名

経営学部第1部　35名

推薦依頼校全国の全日制高等学校

◇普通科・商業科対象推薦

出願期間　1989年11月20日(月)～11月24日(金)

選考日　1989年12月3日(日)

合格発表　1989年12月9日(土)

（普通科）

募集学部・人員

経済学部第1部　120名

経営学部第1部　120名

推薦依頼校　本学の指定する高等学校

（商業科）

募集学部・人員

経済学部第1部　20名

経営学部第1部　30名

推薦依頼校　全国の商業高校と商業科のある高校

検定料　30、000円

◇推薦入学説明会の開催

入試部では普通科対象推薦入学説明会に、推薦依頼校（199校）を招き、次のとおり実施しました。

6月22日(木)　高松市　京王プラザホテル高松

徳島・香川・高知・愛媛各県の高校対象

6月23日(金)　岡山市　岡山ターミナルホテル

広島・岡山・山口・島根各県の高校対象

7月3日(月)　神戸市　神戸東急イン

兵庫県の高校対象

7月7日(金)　大阪市　東洋ホテル

大阪・三重・滋賀・京都・奈良・和歌山・石川・福井・大分各府県の高校対象

◇1990年度入学試験概要

1　募集学部・学科・人員

経済学部　第1部　経済学科　550名

経営学部　第1部　経営学科　550名

経済学部　第2部　経済学科　100名

経営学部　第2部　経営学科　100名

2　試験日

経済学部（1部・2部）

1990年2月9日(金)

経営学部（1部・2部）

1990年2月10日(土)

3　試験地

大阪（本学他）　金沢　名古屋

姫路　広島　高松　福岡

4　試験科目・配点・時間

教　科	科　目	配点	時間
外国語	英語Ⅰ・Ⅱ・ⅡB・ⅡC	150	70
国　語	国語Ⅰ・Ⅱ	150	70
選択科目（1科目）	政治・経済　日本史　世界史 地理　簿記会計Ⅰ・Ⅱ	150	70

5　合格発表日

1990年2月19日(月)

6　出願手続等

(1)出願期間　1990年1月6日(土)～1月18日(木)

(2)検定料　30、000円

※入学案内（要項・願書等）について

代金は700円（郵送請求の場合は送料共1、000円）。

施設関係

◇電算実習室を拡充

コンピュータ端末機増設の第2期計画がこのたび完了しました。設置機種は前回と同仕様で、設置台数は「PC9801-ux41」4セット、「2020/E」8セットです。これにより前回とあわせて、各20セットの増設となりました。また、混在であったE52ゼミ室を「2020」専用教室とし、新たに旧「情報処理研究室A」と「プログラム準備室」を改築し、「E53電算実習室」（PC専用教室）と「E54プログラム相談室」を併設しました。

なお、「E54プログラム相談室」には、情報処理教育の充実を図るために、プログラム相談員を常置し、学生のプログラム相談に応じられるよう検討をすすめています。また、情報処理センター事務室内を改造し、「情報処理研究室A」を移設、併せて「センター長室」も設けました。

◇東学舎前庭改修工事

東学舎前庭改修工事を夏季休暇に入ると同時に着工し、守衛室の移築を残し、9月13日に完了しました。

今回の前庭改修工事は、企画検討委員会答申の基本方針のなかの「大隅キャンパス整備」具体化の一環として行われたもので、本学キャンパスの表玄関である東学舎の正門周辺を整備拡張することによって、イメージ・アップを図るための第一段階として実施されたものです。

主な工事内容は、本館・図書館前広場及びC館前通路のコンクリート土間を記念館前通路と同一のインターロッキング・ブロックに敷替え、東西学舎の通路に一体感をもたせ、更に掲示板等を撤去、移設して通路の拡幅をはかりゆとりをもたせました。

また、東学舎西側のコンクリート塀をフェンスに改修し、開放感をもたせることを目的として行われたものです。

なお、引き続いて守衛室の改築も現在の位置より北側に移設し、近々着工の予定になっております。

（グラビア1頁参照）

◇故池田善雄氏のご遺族から桜の苗木寄贈

池田氏の逝去（1987・11・10）から早くも1年余が過ぎました。

ご遺族はかねてより学生・教職員からの多量の献血にお礼の気持を表したいと申し出ておられましたが、'89年1月17日、キヌ子夫人と3人のお子さんが来学され、D館前に、〝染井吉野〟を植樹されました。

植樹する池田氏家族

就職関係

◇1988年度就職状況

完全なる『売り手市場』を背景に、短期即決型の様相を呈した就職戦線のもと、別表のとおり優良企業への就職が決定しました。規模別にみると、資本金10億以上の大企業への就職者が438名（前年度比22・7%増）を数え、また上場会社への就職者が347名（前年比38・2%増）に達し、内定件数（内定辞退者を含む）にいたっては690件という好結果となりました。

なお求職者は、本人の都合で就職しなかった者を除きすべて決定しました。

【地域・規模別就職状況】

地域	大企業	中堅企業	中企業	小企業	規模不明	計
北海道・東北			1			1
関東 東京	136	77	29		4	246
関東 その他	4	1	3			8
中部	13	14	6		1	34
北陸	8	4	7		3	22
近畿 三重	2	1	1		1	5
近畿 滋賀	8	1	5		4	18
近畿 京都	5	16	15	1	3	40
近畿 大阪	189	188	77	2	52	508
近畿 兵庫	49	32	37	1	20	139
近畿 奈良	2	3	2		3	10
近畿 和歌山	9	2	5		1	17
中国	7	18	7	1	5	38
四国	5	4	12		4	25
九州	1	2	1			4
不明					3	3
合計	438	363	208	5	104	1,118

◇1988年度就職状況

完全なる『売り手市場』を背景に、短期即決型の様相を呈した就職戦線のもと、別表のとおり優良企業への就職が決定しました。規模別にみると、資本金10億以上の大企業への就職者が438名（前年度比22・7%増）を数え、また上場会社への就職者が347名（前年比38・2%増）に達し、内定件数（内定辞退者を含む）にいたっては690件という好結果となりました。

なお求職者は、本人の都合で就職しなかった者を除きすべて決定しました。

【おもな就職先】

金融	日本勧業角丸証券
池田銀行	野村證券
関西銀行	山一證券
近畿銀行	和光証券
幸福銀行	朝日火災海上保険
山陰合同銀行	第百生命保険
四国銀行	オリエントファイナンス
住友銀行	日本信販
泉州銀行	建設
大陽神戸銀行	新井組
第三銀行	大林道路
大和銀行	積水ハウス
南都銀行	大和ハウス工業
兵庫銀行	製造
福徳銀行	不二製油
北陸銀行	福助
三菱銀行	ツムラ
尼崎信用金庫	吉富製薬
大阪市信用金庫	バンドー化学
京都信用金庫	三協アルミニウム工業
京都中央信用金庫	三和シャッター工業
コスモ証券	ノーリツ
三洋証券	吉田工業
新日本証券	エヌ・デー・エヌ東洋ベアリング
第一證券	新東工業
大和證券	多田野鉄工所

岩崎電気	キャノン販売
京三製作所	小売
サンケン電気	そごう
三洋電機	イズミヤ
スタンレー電気	ジャスコ
日本エヌ・シー・アール	ダイエー
日本コロムビア	灘神戸生活協同組合
ヒロセ電機	ニチイ
ミツミ電機	上新電機
三菱重工業	ムトウ
ヤマハ発動機	運輸・倉庫
富士ゼロックス	上組
アシックス	近鉄日本鉄道
タカラスタンダード	山九
ヤマハ	トナミ運輸
ユニ・チャーム	日本通運
商社	福山通運
神栄	電力・ガス・水道
トーメン	大阪瓦斯
三井物産	四国瓦斯
グンゼ産業	サービス
ナイガイ	日本ビジネスコンサルタント
ワールド	ダスキン
三星堂	公務員
品川燃料	国家 14
山善	地方 45

◇就職説明会（第1回）

開催日　4月14日㈮

テーマ　就職活動を始めるにあたって

場所　ホテルプラザ

講演　「日本経済の現状と課題」

経済企画庁

事務次官　赤羽隆夫氏

出席者　225名

◇就職講座（第1回）

開催日　1989年5月19日㈮

テーマ　面接の心構え

講師　長尾経営研究所

所長　長尾晃氏（8回卒）

◇産業セミナーと懇親会開催

就職部では、近畿（2府4県）の優良企業の人事担当者にお集まりいただき、標記セミナーと懇親会を次のとおり開催しました。

開催日　1989年5月24日㈬

◇1989年度業界説明会開催

（第1回）6月6日㈫

◎銀行業界

協和銀行　人事部調査役

松田　昌樹氏

◎貿易業界

ニチメン　研修部長付

大谷　正樹氏

◎スーパー業界

ダイエー　総務本部主席

西村　廣夫氏

（第2回）6月7日㈬

◎証券業界

大和證券　秘書課長

小川　博司氏

◎百貨店業界

石井　康雄氏

そごう　人事課長

山崎　清氏

◎電機業界

三洋電機　採用課長

田中　勇氏

（第3回）6月8日㈭

◎化学業界

積水化学工業　人事部長

石井　康雄氏

【学部別就職決定者状況】

学部		卒業者数	求職者数	決定者数	就職率(%)
第1部	経済	532	479	478	99.8
第1部	経営	561	510	508	99.6
第1部	小計	1,093	989	986	99.7
第2部	経済	77	67	66	98.5
第2部	経営	78	67	66	98.5
第2部	小計	155	134	132	98.5
合計		1,248	1,123	1,118	99.6

【業種・規模別就職状況】

業種	会社数	大企業	中堅企業	中企業	小企業	規模不明
金融	164	134	26	3		1
建設	47	26	13	5		3
製造	287	133	92	59	1	2
卸売	250	35	122	88	2	3
小売	138	66	54	14		4
不動産	20	6	9	4		1
運輸・倉庫	23	12	8	2		1
電力・ガス・水道	2	2				
マスコミ	6		4	2		
サービス	105	18	32	31	2	22
非営利・公団	16	5	3			8
公務員	59					国家14地方45
農林・水産	1	1				
分類不能						
合計	1,118	438	363	208	5	104
		39.2%	32.5%	18.6%	0.4%	9.3%

◇1989年度就職特別講演会

就職部では、就職部特別講演会を左記のとおり開催いたしました。

記

日時　6月16日㈮

場所　記念館4階　大会議室

テーマ　「未来派企業へ参画する君達へ」

講師　大阪府中小企業家同友会

共同求人委員長

久安　有文氏

久安　有文氏

◎通信機業界

アルプス電気　採用部長

花田　正人氏

◎旅行業界

日本旅行　総務係長

森　幸一氏

国庫助成

■昭和63年度私立大学等経常費補助金について

昭和63年11月19日付で申請していました標記の件について、平成元年8月25日付で確定通知がありました。

［確定額］402、432、000円

（海外研修派遣補助金

3、013、000円を含む）

前年度比5・3%減

新刊紹介

森　杉夫著

『帝国キネマの興亡(1)』（東大阪市紀要　第12号　）東大阪市役所発行

1988・3　200ページ

西山　豊著

『くらしのアルゴリズム』

―情報処理の周辺―　ナカニシヤ出版

1989・3　163ページ

定価　1600円

本学で開催された学術講演会・学会

◇パネルディスカッションの開催

1988年11月16日㈬午後2時30分から5時まで、学館ホールにおいて『情報化社会を考える』と題した「第4回経大生のためのパネルディスカッション」が開催されました。

パネルディスカッション(学館ホール)

パネルディスカッションは大阪経大学会が学生向けに行う催しで、秋の恒例行事となってきました。

また今回は、同じテーマでの奨学論文も募集されていたので一段と盛り上がりました。

当日は学会を代表して、まず山本晴義学長よりあいさつがあり、引き続き重本直利助教授の総合司会によって活発な報告と討論が行われました。参加者は1、000名を越え、入場できなかった学生諸君もでるほどでした。

今回のゲストパネラーは、著名なジャーナリスト下田博次氏と、本学卒業生で社会人として働きながら研究を続けている山西万三氏でしたが、学生にとっては、通常講義と異なる興味深いものとなったようです。

なお、今回も図書館では『情報化社会を考える所蔵図書リスト』が作成され、同図書の特設コーナーが設けられました。また、パネルディスカッション会場では、芸術会本部と放送部のメンバーが音響、照明等で活躍してくれました。

パネラーと報告テーマ（報告順）
山西万三「カード化と消費生活」
下田博次「ネットワーク時代における労働の質を考える」
品部久志「情報化社会における人材の質を考える」

◇学術講演・懇談会の開催

大学主催の講演会が5月24日㈬午後2時から3時30分までD36教室において開催されました。

講師は就職部の産業セミナーにご講演を依頼した経済企画庁事務次官赤羽隆夫氏で、演題は「日本経済の現状と課題」

赤羽　隆夫　氏

同氏は詰め掛けた500余人の学生・教職員を前に経済予測の面白さと方法論を、愛読書のシャーロックホームズにおけるスリルに満ちた謎解きの手法と対比させながら、エコノミストとしての体験談を披露されました。その後、時間いっぱい現代日本経済の現状を単純明解に分析、これから経済学を学ぶ学生に対して、経済学を10倍面白く学ぶ方法を分かり易く話されました。

◇学術講演・研究会の開催

6月15日㈭レーゲンスブルグ大学教授フランツ・ベッカー博士の学術講演がD16教室において1時間30分にわたって行われました。

フランツ・ベッカー博士

「現代西ドイツの経営問題」と題し、OHPを使って消費者行動の個性化、多様化について500人の学生を前に英語で話されました。

通訳は田渕進経営学部教授。

なお、午後4時15分からフランツ・ベッカー博士を囲んで研究会がもたれました。

◇アジア政経学会関西部会第29回大会開催

今年度のアジア政経学会関西部会第29回大会が6月10日㈯午前10時から本学記念館視聴覚教室において開催されました。

午前中は「インドにおける消費

構造の変化1954・55～1983」宇佐見好文（大阪府立大学）「現代フィリピンにおけるコミュニケーション・システムの発展と政治統合」片山裕（岡山大学）の2報告が、午後からは「中国国内の南北問題」佐々木信彰（大阪市立大学）「毛沢東思想の一考察―精神の役割と理想社会像―」池上貞一（愛知大学）「外国人労働をどう考えるか」初瀬龍平（神戸大学）の3報告が行われました。

出席者は21大学40人で、各報告後、熱心な質疑討論がなされました。

◇その他の学会

関西中小企業研究会
1989・3・4
1989・5・13
1989・6・24
経済地理学会関西支部例会
1988・11・26
日本リスクマネジメント学会（関西部会）
1989・3・25
日本商業学会（関西部会）
1989・1・14
関西教育行政学会
1989・3・31
阪神ドイツ文学会
1989・6・25

公開講座

◇第7回公開講座（大阪府立文化情報センター共催）

谷口　明丈先生(9/8)

〔メインテーマ〕
企業・くらし・経済

〔趣旨〕

いま企業がおもしろい。ボーダーレス・エコノミー、ソフト化・サービス化、消費者ニーズの多様化のなか、企業は新しい姿を模索している。

現代企業社会は、どのような歴史的基盤を持ち、どこに行こうとしているのだろうか？　経済構造の変容は、企業間競争にどのようなインパクトを与えたのか？　NTT・JRは、民活・民営化で、公的サービス機能を維持できるのだろうか？　企業戦略のグローバル化、リストラクチャリング、M&A、ネットワーキング…　地価と株価のスパイラル現象、金融資産の肥大化、ふくらむクレジット社会…　経済社会の変化の中で、いま、私たちのくらしが問われている。うつりゆく企業とくらしのあり方を考えてみよう。そこから新しい社会のゆくえが見えてくるはずである。

日時　1989年9月8日㈮～10月20日㈮

場所　大阪府立文化情報センター

スケジュール

9・8㈮　近代・現代・ポストモダン
―企業社会の変遷―
谷口　明丈
（経営学部助教授）

9・22㈮　平成時代の企業間競争
―見える手　見えざる手？―
松岡　憲司
（経済学部助教授）

9・29㈮　現代消費社会を考える
―くらしと企業のこれから―
大谷眞理子
（兵庫県立神戸生活科学センター所長）

10・6㈮　ふくらむ金融資産と私たちのくらし
井阪　健一
（野村證券投資信託委託㈱代表取締役社長）（昭和28年卒）

10・13㈮　暮らしを変える世界の公企業
―情報通信民営化のゆくえ―
上田　慧
（経営学部助教授）

10・20㈮　社会の中に企業をみる
―ドイツの昨今と日本―
田渕　進
（経営学部教授）

井阪　健一　氏

◇大阪市　大学開放講座（大阪経済大学市民教養講座）の開催

この度、本学と大阪市との共催による標記講座が実施される運びとなり、第1回目が6月10日㈯午後2時から旧市立梅田東小学校で行われました。

大阪市開放講座

毎土曜日の午後2時～4時の開催で、テーマ・講師は次のとおりです。

6月10・17・24日（旧梅田東小学校）
「税制改革でくらしはどうなる?」
重森　暁　経済学部教授

7月1・8・15日（旧梅田東小学校）
「現代日本の政治」
加藤　普章　教養部講師

10月7・14・21日（本学情報処理センター）
「コンピュータ社会の光と影」
品部　久志　経済学部講師

マスコミ関係

◇1989年新聞紙上での本学記事（抜粋）

1／14　毎日新聞夕刊
高校ラグビーも『冬型』に一変!?
野々村博助教授

4／21　朝日新聞夕刊
動き・ひとこと
山本晴義学長

4／21　読売新聞夕刊
恩師の喜寿に〈青春の記録〉
前田悦子企画広報課長

4／22　毎日新聞
大学担当者が展望と助言
松原和男就職部長

4／27　日刊工業新聞
学問より難解
鈴木享理事長

5／10　産経新聞
全日本ハンドボールを率て再建を目指す
津川昭監督（40回卒）

7／5　朝日新聞夕刊
『くらしのアルゴリズム-情報処理の周辺』
西山豊助教授

6／24　毎日新聞
電子体温計にJIS規格
西山豊助教授

新聞記事キリヌキ

7／18　京都新聞
撮り続けた石仏写真集に

7／19　朝日新聞
石仏と対話20年

7／28　読売新聞夕刊
モノトーンが語る石仏有情

8／2　奈良新聞
全国各地を巡り撮影

8／2　熊本日日新聞
石仏との対話
竹林祐吉教授

8／15　読売新聞夕刊
「企業」テーマ公開講座PR

その他の行事

◇井高野婦人学級の講演会

江口グラウンド周辺に居住する標記婦人学級の講演会が左記のとおり開かれました。

記

日　時　1989年6月22日㈭
場　所　50周年記念館43号教室
講　演　西野　証治教授
『日常生活と心理学』
ビデオ　〝大淀の水は春ゆく〟上映
参加者　40名（東淀川区区民室教育係引率）

貴重書 プトレマイオス著『地理学案内』の紹介

図書館ではこの度、本学元理事高室一彦氏より貴重本の寄贈を受けました。

本書は、紀元2世紀のギリシャの天文学者、数学者、地理学者であるプトレマイオス(Claudius Ptolemaios)が著した『地理学案内』をイタリア・ルネッサンスの時代にJ・アンジェルスがラテン語へ翻訳し、それを底本にしてB・シルバヌスが編集した図書で、1511年3月20日ベニスで刊行された初版本です。

プトレマイオスの地理学についてここでは詳しく説明できませんが、地球の北半円部を180度の経度と21の緯線で示したヨーロッパを中心の世界図です。その内訳を世界地図1枚、ヨーロッパ10枚、アフリカ4枚、アジア12枚で表した地図帳となっています。プトレマイオスの地図は、16世紀後半にオルテリウスやメルカトールの近代的な世界地図が現れるまで一般的に流布していたギリシャ的世界観による地図でした。

15世紀以降、幾人かの編者によるプトレマイオスの『地理学案内』が刊行されています。シルバヌスの編集本もその流れのなかで刊行されたものですが、15世紀末から16世紀にかけての〈大航海時代〉の影響を受け、プトレマイオスのギリシャ的世界地図に当時の冒険家の地理学上の発見や旅行者の知識、見聞を加えて増補改訂がおこなわれています。とりわけ、イングランド、スカンジナビア半島、南アフリカ、東アジアにおける加筆が目を引きます。

なお、巻末にシルバヌスの作成したハート形の世界地図が一葉加えられています。この地図には、コロンブスの新大陸発見の影響が表れており、アメリカ大陸の東海岸線が左辺部に明示されています。更に、日本もZampagu Insとして右辺上部に描かれています。日本が世界地図に登場した初期のものですが、アジア大陸に連なっているように不明確に描かれていますから、当時のヨーロッパ人にはまだ日本が島国であるという情報が伝わっていなかったのでしょう。

印刷の歴史からみても本書は珍しく、本文と地図の地名はローマン体活字の黒、朱インクによる活版印刷であり、地図は、木版刷りです。このことは、1450年代に活版印刷を最初に行ったグーテンベルグの影響とそれ以前の初期摺籃本および木版印刷の影響を受けており、活版と木版が複合している図書です。

製本は、1900年以降に再製本されたもので、暗青色モロッコ総革装で、背金、三方金や表紙及び裏縁辺部にデンテル装飾を施した高価な装幀となっており、製作者S.Davidのサインが有ります。

図書館での展示風景

訃報

故　玉置保名誉教授

◇玉置保元学長名誉教授逝去

本学元学長玉置保名誉教授は、肺がんのため7月24日㈪午後6時17分、京都市の宇多野病院で逝去されました。享年77歳。

先生は明治45年3月28日京都でお生まれになり、昭和12年京都帝国大学法学部を卒業されると、直ちに大学院で研究活動を続けるかたわら、昭和16年同志社高等商業学校の民法担当講師を振り出しに、満洲国立大学教授、立命館大学講師等を、昭和26年京都帝国大学大学院を退学されるまで勤められました。更に、昭和31年から名城大学法商学部助教授、教授、近畿大学教授として、民法・労働法・法学を担当され、昭和44年本学経営学部教授として着任されました。昭和46年5月から昭和48年3月まで経営学部長、昭和50年1月から学長事務取扱、昭和52年12月から昭和55年12月まで学長を勤められる等、本学にとって重大な時期に、私共をご指導下さいました。定年退職された昭和58年3月以降、昭和62年3月まで、特任教授として学生の指導を頂きました。昭和62年4月名誉教授の称号を受けられました。

また、学校法人大阪経済大学の理事・評議員として、昭和46年以降お亡くなりになるまで学園経営に参画されました。

一方、先生は研究だけでなく、永く滋賀県の地方労働委員会の会長を務められ、また、労働関係、公害関係の各種行政委員会の公益委員として尽力され、学問と実践を両立された類い稀なお方です。昭和47年その功績が認められ藍綬褒賞、昭和58年には、勲三等旭日中授賞を受賞され、最近正五位に叙せられました。

平成元年7月27日㈭午前11時から、京都仏光寺において、告別式がしめやかに営まれました。喪主は奥様の利子様。

謹んで先生のご冥福をお祈りいたします。

ハプニングの顚末

大槻　裕子　先生

昨年12月はじめ頃、「阪神ドイツ文学会」より第131回研究発表会会場として本学に申し出があり、それを受けて発表会は本年6月25日本館3階第一会議室で開かれることになりました。蛇足ながら私は開催校として研究発表を引き受ける破目となりました。

ところで当日、総司会役の六浦英文氏（本学専任講師）が突然風疹に罹るといった思わぬハプニングがあり、私としては大いにあわてざるを得ない状況にたち至りました。急遽ことの大事を学会幹事会に申し出て総司会は何とか学会の方で都合をつけていただくことになりましたが、私としては事の顚末を学会で報告するやら大童の仕儀となりました。

いずれにしても多勢の学生数に比してたった2人のドイツ語専任教員という現状ではこのような場合、残る一方はいささか苦境に陥るものです。

（ドイツ語担当）

試行錯誤の連続

片山　麻美子　先生

こちらに奉職して、早や3年になりますが、授業の毎回毎回は試行錯誤の連続です。クラスの生徒一人一人の顔と勉強態度を識別できたのは、去年の11月頃でしたが、今年はもう少し早くなるでしょうか。個々の対応ができるような授業をするべく、早く一人前になりたいものです。

（英語担当）

実用英語の授業

小林　龍一　先生

数年前に方針を一大転換し、実用的な英語に重点を置いた授業に切りかえました。皆さんのなかには在学中、私に小むずかしいエッセイや小説を読まされた方も多いと思いますが、時代の変化とともに学生諸君のニーズも教養としての英語から実用的な英語へと変わってきました。したがって、学生時代に読むことを主体に教育されてきた私自身も、「学生

先生の近況

墨彩画を稽古中

岩井　茂　先生

まずもって、大学が年々隆昌を加えていく様子を見て、大慶に耐えません。併し、今大学を訪れても、旧知の方々も少なくなりました。それに引きかえ、同窓会の方は歳々会員が増え、盛大となりつつあることを欣幸に存じています。

小生も今年の8月で満91歳と相成り、眼と耳と足が多少衰えましたが、変わりなく暮らしています。目下、墨彩画の稽古をしています。果たして、モノになりますやら？

毎日が日曜日

倉辻　平治　先生

小生、平成元年3月末で経大の講義担当を辞任させて頂きました。4月以降、毎日が日曜日、自由な時間を利用して、これまで読みたかった本、読めなかった本を存分に！　と意気込んでみたものの、さてとなると思うようには進まず、あらためて日暮道遠と痛感しています。

7月8日、小生のゼミ出身者の会（倉春会）の集いをもちました。東京、埼玉、九州からの参加者も含め80名という多数

に教える人」から「学生とともに学ぶ者」へと変身せざるをえなくなり悪戦苦闘を続けています。しかし、いまの時代では「生きた英語」のわかる経大生を一人でも多く造ることが必要なのではないか、と考えています。

なお、私が本学で昭和55年から世話をしてきました「英語検定」は本年秋で満10年を迎え、志願者総数は2，000名、2級合格者は150名に達しようとしています。これからもガンバリます。

最後になりましたが、皆様のご多幸を心からお祈りいたします。

（英語担当）

清寿会文化サロン

井上ゼミOB会

昨年、井上ゼミのOB会、清寿会を母体に発足した当文化サロンはこの8月で1年を迎えましたが、会合を重ねる毎に参加者がふえ、単に井上ゼミの出身者だけでなく、幅広い同窓の賛同を得て、更に仲間の環を拡げていきたいと思っています。

この1年の行事は、63年8月、メンバーの菅脩が中国経済視察の見聞記の報告を、市大文化交流センターにて、参加者は11名。

第2回勉強会は10月「ジャンボ経済とジャンボ相場」をテーマに、コスモ証券本店にて、証券投資で著名なコスモ経済研究所所長　赤迫宏氏を迎えて、参加者20名で開く。

本年1月は新年宴会を兼ねた第3回勉強会を梅田、白菊にて開く。テーマは本学大学院講師の公認会計士松本茂郎先生（当サロンのメンバー）より「相続と改正税法」をテーマに合法的な節税対策の話を聴く。参加者は14名。

第4回勉強会は本年8月、市大文化交流センターにて開く。メンバーは50歳以上でそろそろ健康に注意をと「私達の今後の健康管理について西淀病院副院長で社会医学研究所所長田尻俊一郎先生を招いて、有益な話を聴く。参加者は14名。この間オリジナル版画展を2回、当事務局にて開くと共に、会報も3回（B5で4～6頁）を発行し、今後内容を充実させたいものです。現在13～20期の人達が中心です。本部は左記です。ご一報下さればご案内を致します。

〒541大阪市中央区高麗橋1丁目3―2
メゾン高麗橋1002　菅　脩方
清寿会文化サロン事務所
TEL　06―229―8525

第9回　北里会総会

北里ゼミOB会

9月2日（土）16時より、北里会総会が第一ホテル（阪急伊丹駅前）にて開催されました。先生ご夫妻も元気にご出席され、お客様として、泉谷教授・比企副会長も出席されました。当日は、祝電もあり、総勢19名がいつも通りのうちとけた雰囲気でなごやかに会はすすみました。

総会では、今後の北里会の親睦をはかる意味でゴルフ部会等、各部会を活発化させようということになりました。

小生の近況

平　実　先生

烏兎匆匆、一年はアッという間に過ぎ、またもや本誌上で皆様方に御挨拶する日を迎えましたが、同窓の諸兄姉方には御元気でいらっしゃいますか、御伺い申します。小生も恙無く息をしていますので、乍他事御安心下さい。

小生の近況。論文や書評を書き、エッセーを物し、短歌を詠み、俳句、川柳などをひねり、寧日無しというところです。外出でもしない限り、春夏秋冬、朝から晩まで机の前に坐して何か創作活動をしています。元来、物を書くのが好きですの諸友が相集まり、30年ぶり、20数年ぶりで再会したメンバーもあり、楽しい一夕を過ごさせてもらいました。倉春会諸友のこの上ともの御健康と御活躍を願ってやみません。

なおこの席上、小生の想い出話などを綴った小冊子を記念品として配布しました。この小文集の作成にあたりまして、経営学部の松本剛教授、同窓会の比企重副会長、同、波根伸俊広報部長の御三方、また淡路印刷の大畠さんに一方ならぬお世話になりました。この機会をお借りして重ねて厚く御礼申し上げます。

北里先生からは、「私は、今、老いて楽あり の心境です。この北里会の総会もそうですし、毎日をありがたいと思ってすごしています」としみじみとおっしゃられ、あたたかい先生のお人柄にいつもながらみな感心することしきりでした。

（お礼）

昭和63年9月より平成元年8月まで、30名もの方から運営費を頂きありがとうございました。厚くお礼申しあげます。

追伸

さて、来る平成2年は、北里会結成の十周年です。現在、運営部では、楽しい企画を色々と考えておりますので、ぜひ皆様お誘いのうえ、ご参加ください。

第13回倉春会　盛大に開催される

倉辻ゼミOB会

「七夕に会おう」を合言葉にしてきた倉春会が、諸般の事情があったとはいえ、昭和59年7月7日の第12回総会から4年間も休眠状態にあり、会員諸氏に多大のご迷惑をおかけしたことと深くおわび申しあげます。

公式に発表されているゼミOB会の中では、ひときわ長い歴史と伝統を誇っていた倉春会だけに、第12回総会のときに、ニュー・フレッシュ・キャビネットに、その運営を一任したと自認して、結果的には何もしていなかったオールド・ボーイズ・キャビネットにも責任があると反省しております。

何はともあれ、やっと、平成元年7月8日（土）、梅田のレストラン・パレスで第13回総会を開催することができました。

久し振りの総会ということもあって、約80名の会員諸氏が全国からご参加をいただき旧キャビネット一同感謝いたしております。

さて、定刻、倉春会ならではと自負しております鈴木達郎氏（29）（ダイエー・専務取締役）の司会で開会。陶山会長（19）、倉辻先生、比企同窓会副会長より、それぞれのお立場からのお話しがあり、最後に、倉辻先生より、次期のフレッシュ・キャビネット案が提示されました。それは、

森川雅晴（39）、吉村元伸（40）、大原真澄（42）の3氏です。もちろん、異議あるはずはなく、全員拍手で承認されました。オジンの集団である旧キャビネットは陰ながら、出来るかぎりの支援をさせていただきますので、新しいキャビネットを中心に倉春会のより一層の団結と発展を切望いたします。

から少しも苦にならず、毎日生き生き愉しくやっています。

前にも一寸触れましたが大河小説の件。余りに構想が大きすぎて何処から手を付けてよいか判らず困っています。そこへもって短歌や俳句、川柳といったものに深入りしたものですから、小説の方に全力投球できず、全く前途の見通しがつかないといった始末です。あまり気が多いのもどうかと思います。まあ慌てないで英国人のモットーであるSlow and Steadyで行くつもりです。その上にずっと以前から考え資料も集めてきたところの、フランス・ルイ王朝時代における多くの美女才女がからみついた「ルイ王朝宮廷陰謀史」のようなものも書きたく、何やかやで頭が一杯です。近作の拙歌一首。

仰ぎ見るエスポワールの峰高く
　紫雲たなびき瑞光まぶし

諸兄姉の御健勝を切にお祈り申し上げます。　ブライベン・ジー・ゲズント!!

同窓生の健闘を祈る

竹林庄太郎　先生

拝啓、猛暑の侯、
益々御清祥において、
社会の各方面にご活躍のほど大慶です。
「経大」には、昭和高商から、黒正先生が引きとられ、大阪経大が再発足しましたが、その引き継ぎの時からお手伝いし

さて、固苦しい雰囲気はここまでで、乾杯を契機に、4年振りの懐旧の念が一気に爆発。あちらに一組、こちらに一団と話に花が咲き、時間がたつにつれ、アルコールで潤った口元は自然にほころび、和気藹々を絵に画いたようでした。旧キャビネットがオジンの知恵を絞って準備したCDカラオケでは、税金のかかった美声をあげている友もあり、「時間よ止れ」という願いもむなしく、先生の美声を最後に、無情にも閉会の時が来てしまい、全員が肩を組み、学歌を合唱。「来年また七夕に会おう」と、先生が今日のために執筆された『想い出のなかから』という本をしっかりと抱いて、ネオンのきらめく夜の街に去ってゆき、念願の第13回倉春会はここに幕を閉じました。来年また元気で会いましょう!!

最後に、陶山知康旧会長、富山、牧田、橋本、比企氏他旧キャビネットにご協力いただいた諸氏に、また、同窓会本部のご関係諸氏に心から謝意を表します。ありがとうございました。

(陶山会長代理H記)

なお、先生が執筆された『想い出のなかから』という冊子は増刷いたしません。少し残部がございますので、2000円を現金書留で同窓会本部事務局気付倉春会宛にご送金下さい。送料は倉春会で負担いたしますが、残部に限度がございますので、その節はご認容下さいますよう、前もってお断りいたしておきます。

野風草会

徳永ゼミ「野風草会」

徳永ゼミOB会(野のようにCritical風のようにClear 草のようにCreative)の輝かしい1期生として卒業して1年半、学生時代が非常になつかしい今日この頃です。

さて、「野風草会」の近況ですが、今年1月15日、8人での初めての同窓会は、終始笑いの飛びかう楽しいひとときでした。学生時代は、服装のことなどおかまいなしだったO君がおしゃれになったこと。浮いた話などひとつもなかったのに彼女が出来てもうすぐ結婚まで進展するのではというY君。全員、社会に出て1年たてばこうも変わるものかと、お互いの変化におどろいておりました。〝今度、再会する時は全員で!〟を合言葉に梅田の楽しい一夜は終わりました。

再会できなかったメンバーもロマンを求め徳永ゼミに入り、巣立っていった個性の強いものばかり、全国各地で活躍していることでしょう。「のふうぞう」は方言で図太いとか気ままという意味だそうで、僕らの会にぴったり。よーし、のむぞー!

(飯星幸一(54))

先生の近況

教え子との愉快な語らい

和田 重司 先生

経済学史を担当していた和田重司です。東京に移ってもう19年もたちます。新幹線で大阪方面に行くときは、新大阪駅が近づくとにわかにそわそわして腰を浮かせ首を長くして大経大の現況を目に入れようと車窓を眺めやっています。やはりなかなかなつかしいものですね。

先日ゼミの卒業生が拙宅を訪ねてきてくれました。有名な会社で大きく成長して忙しそうでしたが、相好をくずしたときの笑顔や笑い声や姿格好は、学生時代とすっかり同じで、眺めていていいようもなく愉快でした。歳をとればとるほど若い日の想い出はなつかしくなるようですね。

私の家は東京都内で交通も便利なところですから、上京、出張の折りはお電話で確認のうえお立ち寄り下さい。住所を書いておきます。

松村先生を囲んで賑わう

松村幸一ゼミOB会

毎年6月に梅田「割烹・鳥よし」で同窓会を開くことを恒例にしている。

松村先生はじめ毎回10名程度が参加しており、話題としては、職場や子供の話、さらに学生時代に戻ってゼミ旅行の事などであり、楽しいひとときを過ごしている。

卒業後15年を経て、毎年同窓会ができる事を有難く思うとともに、幹事であり松村幸一ゼミ紅一点の仲さん(旧姓・森)に感謝している。

60歳以上のゼミOBで「六甲シルバー会」を結成

井上 清 先生

今年度のゼミは教養ゼミ(2年、1年間)、専門ゼミ(3年の2組)を担当しています。5月に恒例の仁川上流にある仁川ハイツで研修兼懇親会(一泊)を実施し、甲山登山、カラオケ大会を取り入れ、大変愉快でした。楽しいゼミを心がけています。

小生自身は、定年後、引き続き健康で3K生活(研究・カラオケ・海外旅行)を実行し、生活の幅を拡げ、生活を豊かにエンジョイしています。またゼミOB(60歳以上)を中心に「六甲シルバー会」を組織し、第1回の懇親会(16名)を小生いきつけの六甲保養荘で開催し(4月)、温泉、演芸、百万ドルの夜景を楽しみながら、一泊の懇親を重ね、大変好評でした。今後も命ある限り、年1回、同所で開催したいと思っています。60歳になった諸君で、参加希望者は、私宛連絡下さい。当方からは連絡、招待はいたしません。

共に歩まん吾が同士よ

森 杉夫 先生

(一)お元気で御活躍のことと思います。同窓会で、お会いしたいと願っています。

(二)研究のかたわら、相変わらず月並な俳句や和歌や漢詩を作って、独りで喜んでいます。次の作詩・作曲して、味噌が腐らないように、小さな声で歌ったりしています。ものは、皆さんと共に歩みたいという、私の願いを述べたものです。御笑覧下さい。

共に歩まん吾が同士よ

一 桜吹雪に酔うもよく
秋夕月を酌むもよし
命一つを業にこめ
共に歩まん吾が同士よ

二 流れる星を汲むもよく
降り頻く雪に飲むもよし
茨の道を切り拓き
共に歩まん吾が同士よ

三 人生山河険しくも
燃ゆる炎の熱をもて
吾等は明日を生きるもの
共に歩まん吾が同士よ

(歴史学担当)

第1期生を送り出して

伊豫田 隆俊 先生

今年4月に初めてゼミ生を社会に送り出しました。第1期生ということで感慨もひとしおです。早速何人かが新しい住所とともに近況を知らせてくれましたが、まぁ何とか元気に頑張っているようです。夏休みには在阪の人たちと一緒に飲みに行くつもりですが、一体どんな話が飛び出してくるか今から楽しみにしています。

私の方はそれほど変わったこともなく、相変わらずの生活です。この夏休みも、おそらく例年同様に、雑事と研究に追われることと思いますが、夏バテしないようにマイペースでやっていくつもりです。

卒業生諸兄も健康にはくれぐれも気をつけて頑張って下さい。またヒマな折には研究室か拙宅にでもお立ち寄り下さい。お待ちしています。

(会計監査論担当)

アフター・サービス満点ですよ！

植田　健男　先生

卒業生の皆さん、お元気ですか。

私の名前に見覚えのあるOBの方はあまりいないことと思います。私は1987年4月に経大に赴任し、教職課程で「教育行政学」と「教育実習」を担当しています。昨年からI部とII部の「教養演習」も持つようになり、やっと経大の教員らしい顔つきになってきたところです。

昨年の末あたりから教育職員免許法の改正の問題が出てきて、現在はこれへの対応にほとんどかかりきりになっています。文部省との折衝など、これまでに手掛けたことのない作業に没頭しているのですが、その間にも可愛いゼミの学生達との〝夏期強化合宿〟や組合旅行、教員採用試験対策学習会、研究会での報告、原稿書き等々、例年のこととは言え、またまた息つく暇もない多忙な毎日を送っています。

最後の講義でいつも申し上げることですが、自分の講義内容については、いつまでもどこにいても責任を持ちますので、卒業してからでも何か問題に行き当たったら是非とも質問に来て下さい。お約束どおり万全のアフター・サービス体制で臨むつもりです。

古稀を迎えて意気盛ん

木村　敏男　先生

同窓生の皆さん、元気に暮らしていますか。私は古稀を迎えましたが、お陰様で相変わらずです。大学では『古稀記念論文集』を刊行して祝福して下さいました。

今年のゼミ旅行もまた信州の野尻湖へ、乗用車に分乗して行きました。しかし、現地での遊び方は年によって違います。これまで、車や船で野尻湖を周遊したり、黒姫山麓でテニスをやったり、あちこちの温泉につかったり、千曲川で釣を楽しんだり、小布施へ葛飾北斎の絵を見に行ったり、斑尾山（ペンション村）へ登ったり、長野市まで観光に行ったり、さまざまでした。今年はみんな揃って野尻湖を船で周遊した後、黒姫山麓でソフトボールとテニスを楽しみました。ただし、宿舎で夜遅くまで飲んで騒ぐのは例年どおりで、これが最大の楽しみのようでした。

（産業構造論担当）

理論的発想が大切

重本　直利　先生

本学に赴任して早や3年が過ぎようとしています。ゼミは今年最初の卒業生を送り出すことになります。ゼミ内容は「管理」と「情報」をめぐって様々な角度から取り組んでいます。

「情報化社会」、「管理社会」という用語が現代を特徴づけるものとしてよく使われるわけですが、「管理」と「情報」概念を通して現代経済・社会を新しくとらえ直すことが今日必要となってきています。〝学生の理論離れ〟と言われ出したのはかなり前になりますが、不透明さを増している現代経済・社会のなかにあって、社会科学的アプローチが一層重要になってきています。卒業後は日常の仕事におわれることが多くなるわけですが、理論的に時代を見通すことがこれからますます重要になってきています。すなわち今日、理論的にものごとをとらえることが最も実践的であると言える時代を迎えつつあります。それは時代の要請だとも言えます。是非この要請に応じられんことを願っています。

（情報管理論担当）

ゼミ生の移り変わりに、時の流れを感じる

末永　隆甫　先生

私が本学に「特任教授」として着任し、ゼミを開くようになってから7年目になる。時の流れの早さに驚くばかりであるが、ゼミ生の状況にも少しずつ変化が生じているように思われる。本学に着任して早々のゼミ生は、数も10名以内でゼミ指導には理想的な人数であったが、私自身が着任間もなく、なじみが少なかった故か、ゼミ志望の学生も余り物も言わず、連絡もなしに平気で欠席を重ねる者が多く、大学におけるゼミの役割をほとんど理解しないものが多かった。ところが最近では、ゼミ志望者が満杯の20名に近く、賑やかになってきた。私は眼が見えにくいので、ゼミ開催の度に出席をとって、一人一人の顔を覚えようとするのだが、いつまで経っても、顔と名前とが一致しないのが悩みの種である。

（経済原論担当）

授業内容を盛りこんだ『教育の名言』を発刊

滝内　大三　先生

皆さんお元気ですか。

本年4月に出した『教育の名言』（黎明書房・堀真一郎氏と共編）が、教育書ベストセラー第4位に入り（旭屋書店調べ）、すぐに増刷しました。従来の「名言」の枠を越えたカテゴリーで選んだのと、それにつけた解説が評価されたようです（日本教育新聞の書評）。一般教養の教育学の授業で話した内容を多く取り入れましたので、受講生諸君のおかげと喜んでおります。

ゼミOBの皆様、是非ご連絡下さい。OBG会通信紙「新しい仲間」を差し上げます。

信州のゼミ旅行を楽しむ

竹林　祐吉　先生

一、最近の私のゼミ応募者は急減傾向にあり、今年などは一次募集でゼロ。二次募集で13名（内2名はすでに出席皆無につき除籍）という状況です。3年位前にレポートを頬繁に要求したのがたたったようです。それともロートル敬遠の現れでしょうか。

二、最近ゼミ旅行は、黒姫高原のペンションを借り切って二泊三日でやっています。北海道まで行く元気がありませんので、信州でがまんしてもらっていますが、結構楽しくやっています。

三、今年7月に『石仏有情』という石仏のモノクロ写真集を自費出版しました。B5判箱入り、写真145点、作文、詩、俳句など。500部限定。京都新聞、朝日（京都版）、読売（夕刊）、奈良新聞、熊本日日新聞などで取り上げられ掲載され、比較的好評のようでした。

「いきしちにひみいりゐ」

徳永　光俊　先生

阪急電車で河原町と上新庄を往復するようになって5年がたった。大山崎を過ぎたあたりは桜が山一面に咲いており、1年を通じて一番好きな風景だ。おまけでウィスキーの工場も目に入って、つい帰りがけに一杯となってしまうが……。

学内では、夏の夕方、授業をしていて西の空が真っ赤に燃えてるのが好きだ。夕日に見とれて、授業の方はちゃらんぽらん。

反対にいやなのは、日が短くなった帰りの電車で、窓に映る自分の顔だ。ショボクレてフケこんで。これがオレか！　そんな時は、美人の前に座って想像力で若返るしかない。

卒論の追い込み時期になると、405の研究室はイノダコーヒーの香りで一杯だ。ある時ゼミ生が、「センセイは〝いきしちにひみいりゐ〟の発音に難があるなあ」と、のたまいおった。アッ！ナールホド。僕に「けいざいし」の講義が出来へんのは、その音のせいなんやなぁと、一人で合点してしまった。今まで僕の講義を聞かされてきたみんな、ごめん。

では、また会う日まで。（日本経済史担当）

〝ある演習の中間報告〟

藤本　周一　先生

「西洋人と大阪」というテーマのもとに教養演習を今年で3年続けています。西洋人とわが国との出会いといえば、まず平戸、長崎が、ついで下田、横浜、江戸が開国の舞台として登場します。だからといって、西洋人が南蛮人や紅毛人と呼ばれていた時代から、大阪が彼らと全く無縁だったわけではないですから、大阪にある大学という立場から、その辺に改めて探りを入れてみようと思ったのです。

日本でのキリスト教の開教者であるスペイン人、フランシスコ・ザビエルは、1551年に鹿児島から京都への途中に堺へ立ち寄り、土地の豪商日比屋了珪宅に投宿しています。幕末にはやはり堺の浜で土佐藩士とフランス兵との一大衝突事件がありました。明治時代に入ってからは西洋人によって川口居留地に教会、学校、商会などが、そしてやや遅れて病院が設立されましたし、大阪造幣局庁舎は西洋人の設計によって建造されたものです。

学生諸君とともに、関係資料から大阪に関

係ある西洋人の抽出作業をほぼ終え、今年度中に何らかのかたちでまとめられればと思っています。（英語担当）

4年生16人体制のゼミ充実を

松村　文武　先生

ゼミOBの皆さんお元気ですか。私は4月から学部長をやらされていますが、予想以上に多忙です。一昔前なら体力的に無理だったかもしれませんが、今は何とかこなしています。

さて今年のゼミはI部のみで3年20人（女子1人）、4年16人の計36人です。4年の16人定員はゼミ改革の目玉でしたが、ここ2年、入学者が増え、一時的にまた20人に戻らざるをえませんでした。教員を充実して、いつでも16人体制がとれるようにする必要があります。

4年生の就職はやはり好調のようです。ただ大企業に尻込みするところが多少あります。また女子学生が急増しています。やはり、世の中が変わっていっている証拠でしょうか。

皆さんの御多幸と御健闘を祈ります。ときには、大学にお立ち寄り下さい。（89・8・1記）

（国際経済論担当）

ゼミ合宿で俳句を

松本　剛　先生

一、昨年と同じく、今年も琵琶湖リゾートクラブで、ゼミ合宿をやりました。学習、テニス、カラオケ、卓球等のほか、一人一句ずつ俳句を作りました。いくつかを紹介します。

剣の道しばし忘れる琵琶湖水　野田泰弘

太陽の光をあびて遊びけり　三谷全良

夏の陽に焼かれた背中いててて　廣坂　進

野郎ども琵琶湖に群れて色気なし　蔵澄祐介

日焼けした体が痛い夜や寝れず　定永幸治

二、脾、胆、肝等にいろいろ病気がありますが、寝込むような重病ではありません。がんばって勉強しています。ゼミ生の方から、進んで名を名乗ってくれると親しみも増すし、顔も覚えられるのだが、年寄りには近づき難いのか、なかなか私の希望するようにはならない。ゼミをレジャーの場にするのは嫌だし、何かよい考えはないものかと気にすることしきりである。（8月12日）

（会計学担当）

新学科増設に励む

渡辺　泉　先生

卒業生の皆さん、元気でやっていますか。私も人生に全力投球しています。1991年開設を目標に、経営学部に新しい学科を作ろうと教職員全員が一緒になって頑張っています。経大は、われわれの大学であると同時に、卒業生諸君たちのものだと思っています。少しずつでも良くしていきたいものです。もちろん、研究も我張（ガンバ）っています。遅くとも来年には、2冊目を上梓する予定にしています。住所が変わりました。便りを待っています。

（簿記論担当）

倉辻平治『想い出のなかから』

倉春会　平成元年七月発行　¥2、000

名誉教授　倉辻平治先生は、特任期間・非常勤期間を無事クリアされ、'89年3月、母校を去っていかれました。1949年に本学へ着任されて以来、先生のお人柄を慕う多くのゼミOBたち（倉春会）は、先生のインテリジェンスあふれる風貌を、ぜひ1冊の本として形あるものに止めておきたいと、先生に原稿を乞いこの度刊行されました。

「一期一会」を座右の銘とされる先生が出会った多くの人々のこと、名竿話しなど小人数で伺う軽妙なお話を、既発表も交えながら、小冊子にまとめられました。

7月8日、倉春会の席上で出席者に配布、今後は、『同窓会事務局気付　倉春会』で希望者に販売される予定です。（広報部　M）

竹林　祐吉『石仏有情』（写真集）

母校の経営学部教授竹林祐吉先生が、このたび写真集『石仏有情』を自費出版されました。

洋画家を目指したこともある先生の絵は、50周年記念館ロビーや、本の表紙・絵葉書等で目にされた方も多いと思います。

今回の写真集は、先生が20年余にわたり、関西・信州・九州等で撮り続けた数千点の石仏写真を、ご本人が145点厳選されたものです。

B5判154頁（500部限定、平成元年7月刊）の同写真集には、石仏雑感と題した随筆、詩、俳句（奥様のも）も収録され、装丁もなかなかのものです。

朝日・京都・熊本日日新聞等にも大きく報道されましたが、入手されたい方は先生にご連絡いただければ、実費（7、500円＋送料）とのことです。（57頁　参照）

玉置先生を偲ぶ

経済学部教授　浜田　幸策

故　玉置先生

ことしの夏のさなか玉置先生が亡くなられた。先生とは近畿大法学部時代からの同僚で、思い出も多い。いま思えばあの頃が先生にとって一番充実した時期だったかもしれない。

名城大から近畿大にみえたのであったが、大変気配りの細かいやさしい方であった。あの頃は滋賀県の労働委員に就任されて日も浅く、やる気満々であったし、また京都大のO先生の教え子であるUさんもいたので、O先生と昵懇であった玉置先生としては、学究としてもよいムードではなかったかと思う。またあの頃は、未だ元気盛りで、飲む方も若輩たちを連れてはしごを重ねた時代でもあった。京都がその主道場であり、若輩たちは、最終的には一～二のアジトに連れ込まれたものだ。今考えてみると、それはまた京都大の先生方のアジトでもあったから、玉置先生は京都大の先生方の飲み歩きの最後の系譜に位置づけられうる。何しろ先生の学生の頃は時々大先生のお伴で祇園の甲に参禅した経験をおもちの方であった。満洲時代を別にすれば、先生は、大先生方のアジトをアジトとして、みずからもまたそのアジトで先の大徳にしたがって参禅したように思われる。約二十年ほど前、私は先生と共に大経大に御厄介になったわけだが、本学に来てからは孤独で一層物静かになられたようであった。私も所属学部がちがうこともあって、近畿大の頃ほど力を込めてお話を伺うこともなくなっていた。それでも学内の一角でお会いしたりすると、「どうですか」「やぁ」といった三十秒ほどの対面の中で、いつもやさしい笑顔を絶やさなかった方である。私にしてみれば、故郷の人々にも似て、それよりももっと心に滲みる笑顔であった。保（たもつ）ちゃんというのが、少年時代からの愛称だったようだが、その柔和な笑顔に、私は時として少年期の保ちゃんを想い見ることがあった。もはやあの笑顔にも接することができないのは何とも寂しいことだ。ご冥福を祈りながら……。

同窓会支部役員

東京支部	支部長	井阪 健一	尼崎支部
東海支部	支部長	加藤 正秋	西宮支部
岐阜支部	支部長	坪内 敏男	神戸支部
滋賀支部			東播磨支部
京都支部	支部長	深田 稔	姫路支部
北摂支部	支部長	石川 裕	岡山支部
豊中支部	支部長	筒井 英夫	備後支部
大阪市支部	支部長	南部 俊一	広島支部
大阪市役所支部	支部長	倉田秀太郎	山口支部
			高知支部

尼崎支部	支部長	小谷 芳男	北九州支部
西宮支部	支部長	中山 隆	南九州支部
神戸支部	支部長	桐月 正邦	福井支部
東播磨支部	支部長	永井 宏	石川支部
姫路支部	支部長	永川 仁一	富山支部
岡山支部	支部長	村上 一夫	香川支部
備後支部	支部長	守屋 毅	愛媛支部
広島支部	支部長	佐々木一義	徳島支部
山口支部	支部長	江村 育己	高知支部

北九州支部	支部長	嶋原 正孝	丹有支部
南九州支部	支部長	宮田順一郎	奈良支部
福井支部	支部長	内田 甫	三重支部
石川支部	支部長	柚木 繁	泉南支部
富山支部	支部長	重松 尚	和歌山支部
香川支部	支部長	和田 憲明	鳥取支部
愛媛支部	支部長	小野 茂樹	島根支部
徳島支部	支部長	河野 昭夫	北海道支部
高知支部	支部長	横田 憲介	

丹有支部	支部長	梶村 文弥	
奈良支部	支部長	野尻 忠正	
三重支部	支部長	水上 敏夫	
泉南支部	支部長	中川 克己	
和歌山支部	支部長	松本 旬弘	
鳥取支部	支部長	亀井 寛	
島根支部	支部長	渡部弘一郎	
北海道支部	支部長	田中喜三郎	

OB 同期生クラブ 会

呼友会の動静

第26回呼友会(平成元年6月)

第1～3回卒業生

我々1、2、3回の卒業生は母校の草創期に入学し、設立の際、理事者が架空の預金証明を文部省に出し認可をうけていたことがわかり、昭和9年2月に河内長野の寺でストライキを行った。学校再建に黒正校長が立ち上がられ今日の学究的経大の基礎が確立された。卒業後19年、京都で第1回のクラス会がもたれ、今年で26回目を数える。夫人同伴ということで東は箱根下田等中部近畿宮島淡路島四国で会合し、一泊二日で親善を深めあった。戦死者も出たり50歳を越すと死亡者も出るので、クラス物故者慰霊祭を宇治の万福寺高野山四国霊山寺で行い、卒業50年祭は瑞光寺で行った。

また、学校再建の黒正先生墓前にも詣でる会をも催した。呼友会は39年の本館建増の時、同窓会ホール設置のための寄付、創立50周年記念建築等にも母校発展の為に有志をつのり、応分の寄付をすることが出来たのもクラス会団結26回の歴史の中から発生した。

(文責　福井)

昭寿会　第4期生会

平成元年度の昭寿会(第4回卒同期生会)は、1902年生まれの恩師、武田長太郎先生の米寿の祝いを兼ねて、例年より5カ月も早く、5月26日、湯郷簡易保険保養センターで挙行。

岡山市から先生と同行の学友内田君の話を聞くまでもなく、現実に接する先生は、全くといっていい程年齢を感じさせない壮健そのもの。故障者続出の同期の連中より羨望の声と共に、先生を囲んでの和やかな時を過ごした。

宴会に移るやカラオケ奏でる中、先生自らも歌とダンスを披露。そして卒業以来消息不明のままだった同期の一人、岡山出の周藤秀夫君を、雀友今戸君が宿の電話帳から探しあて、感極まって周藤本人が宵の道を自ら車を駆っての参会、全くの奇遇でした。

宴始まる前に教え子から先生に米寿の記念品として彫金額(高嶺)を奉呈、一同写真に納まる。後日

先生から、当時贈られた額を早速床に掲げ、朝夕眺めて感無量なりとのお便りに接し、師弟としての光栄之に過ぎるものなしと万感胸に至るの思いです。

当日の参会者

（写真前列右より）三木薫、佐々木聡、武田先生、宮平盛助、山本富郎、（後列右より）平野多賀司、桜井秀雄、内田辰四、今戸国廣、原秀夫、…中途より周藤秀夫参加

…

以上の他に記念品目録に名を列ねたのは、木幡孝三、服部博、志田尾輝雄

（宮平　盛助　記）

昭寿会（平成元年5月26日）

昭和63年度「澱友会」開催

第5期生会

昭和63年10月26日、大阪市北区「柴苑」にて、止むをえず参会出来なかった方もありましたが、多数の同期生にお集まりいただき澱友会を盛大に開催致しました。

在校中の思い出話、世間話、なかには孫の自慢話も飛び出るほど和気あいあいの内に秋の半日を楽しく過ごしました。同日藤原先生、同窓会事務局長陰下氏をお招きし、それぞれにお話を聞かせて頂きました。

一期一会と言う言葉がありますが、年に一度の澱友会こそ、この言葉にぴったりだと思います。毎年来た人が今年は来ないので逢いたかったと思いを残す事もあります。年に一度の会、同期一同が集まる事が出来る日がありますようにと、毎年企画しますから、皆様の御声援をお願いします。

（当日参会者）

伊吹義雄、伊吹雷乗、奥田　博、木村清太郎、菊地新太郎、倉垣一郎、重本月水、芝田礼二、内藤直哉、村上静雄、西村　司、堀　平八郎、安田光雄、柳内　明、和田稔、下川舜三、（幹事）坂本克己、長岡辰生

（長岡　記）

昭六会を岡山で

第6期生会

昨年の同期会で誰言うとなく「毎年集まろう」ということになり、今年は岡山で観光を兼ねた一泊二日の会を開くことになった。

5月15日午後5時、東は埼玉の越谷から西は九州延岡まで同期生28名が駅前郵便貯金会館に参集。来賓として武田長太郎先生、同窓会からは陰下事務局長をお招きした。会に先だち一同記念撮影、武田先生86歳とは思えぬ若々しさ、白髪薄髪それぞれ昭和の苦労を刻んだ面々、大きなカメラを首に現われた宍戸君、今と昔の面影がオーバーラップしてお互いに感無量。会は大森幹事の司会で進行。物故者への黙禱、昔の交通論を思い出す武田先生の祝辞、陰下局長からは大学の現況報告があり、各自の自己紹介が始まると宴も酣、古稀を過ぎ、往年の酒量は減ったが、その分懐旧談や人生論に話がはずむ。最後は音楽部、戸田君のリーダーによる校歌斉唱でしめくくり閉会。後は深夜まで個人相互の歓談に花が咲く。

翌16日は10時、駅前から観光バスに乗車、名画で有名な大原美術館と堀割と白壁、柳並木の美しい倉敷市を見学、朝食後水島港から高速遊覧船で約1時間、海上から雄大な瀬戸大橋の景観を満喫して四国丸亀に上陸、高さ158㍍の日本一マリンタワーに上がり瀬戸内の美を展望。帰途は瀬戸大橋の釣り橋、トラス橋、斜張橋を渡り、左右に展開する島嶼美を堪能して、無事16時間、岡山駅に到着、お互いに2日間の名残を惜しみつつ再会を約して東西に袂を分かった。

尚、この会を正式に昭六会と決定、来年は神戸在住者の世話で舞子ビラで開催することになった。

（大森　侃二　記）

昭六会（平成元年5月、岡山にて）

澱友会（昭和63年10月26日）

倉敷で意気上がった七生会

第7回同期生会

七生会は現在141名が健在、それぞれ古稀を迎える年齢になり第一線から退き、年金で余生を送っているようである。いや今尚現役で活躍している者も多くいる。

同期会は毎年開催され、出席の友は入れ替わりがあるが、皆、上新庄・大隅・瑞光通りを懐かしく思い集まっている。集まれば誰にも遠慮することなく腕白時代を語り合い、お互いの健在を祝福感謝しあっている。

今年は岡山県在住者（高木肇・宇野孫三郎・林　彪・高尾勝郎・内藤喜一）のお世話により、倉敷市下津井の国民年金保養センター「しもつい」で開催されました。当日（4月18日㈫）は岡山駅前で集合、富山から参加の早川由次君を最後に迎えてバスで倉敷へ。ホテルは新築されたばかりで、山上にあり眼下に瀬戸大橋が展望でき快適なところでした。

早速、庭で記念写真を撮り（別載の写真）、名前と顔が仲々オーバーラップしない同級生も懇親会に入れば昔の学生時代に戻り、「おい」「こら」が出てくる。上新電機の社長も証券会社の重役も学校の先生もない。夜おそくまで部屋に帰ってからも風発談論、実に70歳の老人とは思えないほど元気だ。

翌日も快晴。ホテルのバスで世紀の瀬戸大橋を渡り与島へ。瀬戸大橋遊覧船威臨丸で下から眺める大橋、日本人の技術に驚異と誇りを感じて忘れられない思い出をつくり、来年の再会を約して解散しました。

参加人員25名（内夫人1）、遠くは横浜から永光寿夫君、富山から早川由次君、福井から高嶋暁美君、長野から若い美しい夫人同伴の伊東六雄君、広島から原田寿男君と武田一信君、四国から松原範幸君、徳山から河内近雄君、大阪方面から斉藤忠実・前田寿弘・真鍋　弘・丸石　正・熊谷義直・村岡英二・吉田軍之・細見（平田）信夫・松本孝之・古賀省三・岡田好正の諸氏と前記岡山の世話人でした。

平成2年度は花の万博の大阪に決定です、多数ご参加下さい。

尚、案内状の回収率は77％でした。これは50年も過ぎた同期生としてはすばらしい記録です。一層向上させ、90％に各位のご協力を切にお願いします。

（丸石　正　記）

七生会（平成元年4月18日、倉敷にて）

第9回ぼたん会

第8期生阪神部会

平成元年1月21日（土）13：00～15：00 於・神戸タワーサイドホテル〝竹亭〟

ここからは神戸港の全景が見晴らせる素敵な場所である。

久々の神戸での集まり、同窓会からは、忙しいスケジュールをやりくりして陰下事務局長が出席、母校の近況をいろいろと話して下さった。

この会も9回を数える。御馳走の神戸鍋を囲みながらワイワイガヤガヤとあいも変わらぬ昔話を種におしゃべりを楽しむ。年齢からくるのだろう、一番関心を集めるのは何と言っても健康の問題。会の常連で特にヨーガだ太極拳だといろいろと健康に気を配っていた友の死などが話題になると、次から次へと、各人から各様の健康談が飛びだす。

おしまいには、「老いて益々盛んに」とか「一生青春」とかお互いを励ましあう言葉が出て、今年も集まる種をつくって出来るだけ数多く集まろうではないかという話になる。

港では外航の大きなコンテナー船や水すましのように小さな舟が行き交い、相変わらず船、船、船で賑わっているようだが、冬の午後3時、さすがに港の風景は寒々としているし、日も大分西に傾いてきた。解散の時間である。再会を約しての握手を交わしながら三々五々東西に散っていった。

参加者　伊藤、市川、石垣、林、大橋、田中、丹家、長尾、琴野、浅野、足立、沢田、柴田(真)、以上13名。

（柴田　真典(金造)記）

ぼたん会(平成元年1月21日)

長崎で九友会の集い

第9期生会

第9期生会の平成元年度第15回大会は関門海峡を渡り、九州の西端、我が国文化発祥の地であり、未だに異国情緒があちこちに残る長崎はホテル清風で3月12日開催した。

昭和17年10月繰り上げ卒業してから早や47年!!　同窓の皆さんとは大半の方々がそれ以来の再会であり、懐かしい顔、顔、早春の一夜を心ゆくまで歓談し、旧交を温めることが出来ました。

開会に先立ち今日までの物故者並びに昨年他界された堀江秀二郎、足立健の両君に黙禱を捧げ冥福を祈る。

同窓会から事務局長陰下嘉典氏を迎え、同氏より大学の近況と同窓会の状況を聞き、次に自己紹介と近況報告で一段と盛り上がり、長崎名物しっぽく料理で杯を交わし夜のふけるのを忘れて談笑した。

参加者は同窓生21名御夫人同伴者9名計30名でした。また、来年は名古屋地区で開催することに決まりました。来年の再会を楽しみに、諸兄の益々の御健勝と御多幸を祈念します。

小生が世話人として御指名を受けてからあれこれ計画はしましたが、微力であり何かと不行き届きの事が多々あったと思慮します。何卒御容赦の程お願いします。

（世話人　貞方孝夫　記）

九友会(平成元年3月12日)

第11期生会(大阪レストランパレスにて)

雰囲気をガラリと一変して開催

第11期生会

昭和19年9月に卒業して、平成元年は丁度45年目になる。同期生の皆様の会への関心とご協力も年々高まり、昨年の案内状に対する回答数105枚は70％になり、このことでも一端が窺える。

昭和63年度の第11期生会は、10月21日（金）午後6時から、新阪急ビルのレストラン「パレス」において、藤原・大槻両先生と磯野同窓会会長を来賓にお迎えして開催しました。これまでの御座敷からレストランでの洋風懐石へと雰囲気がガラリと一変しました。質・量ともに適合し、大阪駅前という足場の良さもあって18人の同期生が参加して、会は自然と盛り上がり好評でした。

第11期生の皆様は、世間では老齢者であるが、同期生会に集まると40余年前の青春時代に戻り、目を輝かせ、若々しく談笑がとび交い、時の経過を忘れ勝ちであった。今回は珍しい人の出席がありました。大垣から谷修自君が卒業以来初めて顔を出し、懐かしそうに全出席者の顔を見渡していた。会の締めくくりは、河津君の音頭で「商都の東北澱江に」を合唱して閉会となる。家族へのおみやげを片手に、来年の再会を約して家路についた。

余生が年々短くなります。遠方の同期生の皆様には、奥様同伴で、母校及び大阪見物を兼ね是非この会に出席してみませんか。案内は申し出により積極的に引き受けます。今後の参加をお待ちしております。

ひとみ会(平成元年9月9日・50周年記念館ホールにて)

ひとみ会例会―母校で

第13回同期会

13回卒業生のひとみ会は卒業以来、年1回の会を開き、伊豆に、又、鎌倉方面にと東京在住の人達を中心に親睦を重ね、昨年は小浜方面一泊旅行を楽しんで参りました。

平成元年度のひとみ会は、まだまだ暑さの残る9月9日、母校五十周年記念館ホールに於いて、32名の出席を得て開催いたしました。

卒業以来母校を見るのは初めてという人も多く、すばらしい会館や校舎に目を見張り、なつかしさの中に浸りました。

昼食後、母校変遷のビデオを視聴覚教室で見せて頂き、過ぎし日を思い返すと共に、大学の発展に心から拍手を送りました。

そして『青春の記録』の発刊にまつわる話題が飛び交い、感想をのべ合い、ひとみ会の誰もが豊か

出席者、赤坂、岩谷、井上(豊)、伊東、大島、乾、河津、坂上、坂田、榊原、谷、土屋、林(光)、北條、宮脇、桑津、筒井。

（筒井　記）

な個性を持ち、華やかさの中に会の盛り上がること3時間余り。まだまだ別れ難い気持ちながら、来年の再会を約束して散会いたしました。

最後になりましたが、このような有意義な会を持つ事の出来ましたひとみ会の為に、陰ながら何かとお力添えを頂きました同窓会事務局関係者の方々に、紙上をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。

（ひとみ会幹事）

いつまでも若々しい23期生

第23期生会

「23期生の集い」をはじめたのが昭和60年2月11日の建国記念日である。爾来毎年この2月11日に集まることにしている。幸い同期生が大阪南で旅館を経営しているので集いの場所もそこに決めている。今年で5回目であるが、初回は38名、途中20名に減少したこともあったが、今年は28名の参加があり、毎回母校の恩師と同窓会本部の方々をお迎えして、時間を忘れて歓談がつづいております。

卒業後30有余年の歳月の実感もなく、みんなの顔にもさほど老化はみられない。今年は翌日が日曜ということで引き続き宝塚でゴルフコンペという企画を入れ盛大であった。シングルプレーヤーもおり、まだまだ意気軒昂である。そういうこともあって、ついつい話がエスカレートしてしまい、ついに今年は8月19日盛夏の中、番外のゴルフコンペを島ヶ原ゴルフクラブでやることになり、20名が参加して腕を競った。23期生の皆様にはご健勝でご活躍の事とお察しいたしますが、次回の集いには是非多数ご参加下さる様世話役一同お待ちしています。

（坂口（前田）良三　記）

23期生会ゴルフコンペ

16組同級会報告

第43期生

昭和48年入学の16組の有志が8月27日（日）・大阪ガーデンパレスにおいて同級会を開催しました。当日は台風直撃にもかかわらず、12名の参加がありました。

午後2時に開会され、まず最初に一六新聞の自己紹介「ゴメンアソバセ」を振り返りながら、各自が近況報告をしました。そして在学中のクラス会活動を思い出しながら、話がはずみました。

また、福引きやカラオケもあって大変盛り上がり、時間のたつのも忘れるほどでした。最後は時間延長をして、「学歌」・「今日の日はさようなら」の合唱と写真撮影をしました。

4時半に閉会しましたが、このままでは去りがたく、ほとんどが二次会に参加しました。話がつきないのですが、主婦の参加もあり再会を誓って、6時頃二次会を散会しました。この後、三・四次会もあったようです。

当日、台風や病気や急用等のために参加できなかった人達は本当に残念に思います。いつか必ず会いたいと思います。

最後に、このような同級会に御理解を賜りました同窓会本部の方々に厚く御礼申し上げます。

（世話人　西尾三治（43）記）

43期生同級会（大阪ガーデンパレスにて）

話題の同窓生

我々の時代が来た

福井支部　増永五郎兵衛氏（38）

7月酷暑の一日、税務会計、社会保険業務全般、経営診断指導、各種セミナーの開催、企業財務・管理会計システム開発指導という社会的重要業務を課されている鯖江市唯一の川中経営研究所を訪ねた。

同所は、我が福井支部にとって最も貴重な存在である大淀会幹事の一人として常に活躍していただいておる、第38回（昭和46年）卒の増永五郎兵衛氏の勤務場所である。

氏は語る「戦後のベビーブームの世代が社会の中で壮年期に入り、今や、各分野で実戦部隊として、第一戦で奮闘する時代の主役になってきておる。」

即ち、「同時代の40％が、『我々の時代が来た』と自覚している中で、仲間意識を中心として、社会のあちこちで台頭してきた同世代と情報交換しながら、生まれながらの宿命である競争社会を生き抜いてきている現実を踏まえて、それぞれの分野での地盤を相互に認め合い、あと10年間はパワフルに、世代全体で時代の中に躍進せんと願っております。私もその一人として、24時間体制で日夜ふんばっている現況であります。」

また、「我々の世代の強みは、競争社会を走り続けてきた歴史と、ヨコの仲間意識であり、旧世代と新人類のはざまにあり、複眼的思考を持ち合せていることかとも思います。」とのこと。

因に、氏の趣味はスキー、夏山登山（在学中は「落研」所属）。モットーはと聞けば、誠実。協和。明快。と一言一句、誠に歯切よい鮮かな言葉で返ってきました。今後益々のご活躍を期待しご健闘を祈念する次第です。

福井支部長　（内田　甫）

"幸福大樟会" 第2回定例総会
幸福銀行大樟会

今年の5月は雨が多かった。定例総会をその5月23日、レストラン「パレス」で開催した。当日の午後にはめずらしく青い空が見えた。

年に一度の総会とあって、参加者も70名を数える盛況であった。同窓会から磯野会長、陰下事務局長がご多忙の中出席下さり、激励のご挨拶を頂いた。安田会長が5月に定年退職され、後任会長を含む役員の改選、会計監査報告等、所定の議事が会員の総意で承認された。

安田会長退任の挨拶、坂口新会長の就任挨拶があり、陰下事務局長の乾杯音頭で午後7時宴が始まった。

幸福大樟会フレッシュマン

今年は7人の新入行員が加わり、会員総数106名となった。新入行員には記念として〝金融証券用語辞典〟が贈られた。7人のフレッシュマンは一人一人力強い抱負を述べ、歌が始まった。同窓会会長にこの盛況健在ぶりを見てもらった事が大変うれしい。

「我々は、もはや地球を考える時代に生きている。銀行員が〝金〟だけ売り買いする時代は過ぎた。お客様にも銀行にもアイデアを売る新企業が必要となっている。目先の事にとらわれないで、5年、10年後に役に立つ事を考える様に」とは、新会長の言葉である。大きく強く平和に生きて行きたいものである。

最後に母校の学歌、幸福銀行の行歌を斉唱して、9時30分レストラン「パレス」をあとに家路についた。（幹事　森上　八郎(30)　記）

新役員
会　長　坂口良三
副会長　岡本晴之　垣田啓太郎
相談役　赤井彰　大橋克彦
幹　事　松本敏幸　森上八郎
　　多田修
監　査　光本有作　阪口勲

※ボトルキープ店の紹介
既設店　レストランパレス ラクール
大阪北区梅田1-12-39
（新阪急ビル12階）
TEL 345-4840

新設店　スナック茶茶
大阪南区宗右ヱ門町5-11
（日宝宗右ヱ門町ビル6階）
TEL 213-1472
大樟会の皆様御利用下さい。

役職を忘れて〝思い〟を馳せる
川西市役所大樟会

兵庫県川西市役所関係職員で構成している同窓グループ「大樟会」は、昭和48年に結成して以来、少しずつではあるが会員の堀り起しをすすめ、現在は総勢33名となっています。

大きな集まりといえば年初めに開く新年会ですが、みんな忙しい仕事の合間をぬって参加いただいています。この集まり以外には、有志でゴルフ大会を開くなど親睦を深めています。

新年会では、常にご出席いただいています陰下同窓会事務局長から聞かせていただく大学の近況で大学に思いを馳せ、各々が大阪経済大学の一卒業生に戻り、役職を忘れてワイワイガヤガヤと学生時代の話に花を咲かせ楽しいひとときを過ごします。

川西市役所大樟会

発足以来9年目
商業建築研究懇話会

発足以来9年目を迎えた当会もますます会員相互の融和と親睦をはかっております。本年も3月、大阪市内北浜割烹「久ま田」に於いて同窓会本部より陰下事務局長を迎えて総会を開催しました。

新会員として次の方が入会されました。

志水利通氏(23)　日本触媒化学工業㈱

今回の情報としては、㈱泉佐野コスモポリス開発調整部長　南澤正広氏(21)より、「関西新空港関連プロジェクト工事の展望について」と題して有意義なお話を賜りました。

また、本年は会員の強い希望で、7月7日兵庫県鳳鳴（ホウメイ）カントリークラブでゴルフコンペが行われ、会員相互の親睦をはかりました。

優勝　菅原正雄(28)、2位　大塚章介(30)、3位　美安亥一(23)、BB　逸見　学(26)、ニアピン美安氏、ドラコン菅原氏

情報その他当会への問い合わせは、この大樟会をさらに高めていこうと全員願っています。

（幹事　川田　孝之(36)　記）

商業建築研究懇話会

（前田　耕作(24)　記）

ハンドボール部連続優勝！
ハンドボール部OB会

OB諸兄姉、喜んで下さい。現役チームは、関西学生1部リーグにおいて、昨年秋に引き続き全勝優勝することが出来ました。誠に嬉しい限りであり、上野監督・福井部長・高尾コーチの指導に感謝すると共に、多田主将以下の努力に最大の敬意を表します。

その優勝祝賀会を、7月9日(日)同窓会ホールで開催しましたところ、大学からは高城学生部長・田所事務局長他、同窓会からは磯野会長・比企副会長、体育会からは山本副本部長他、さらには後援会からも多田会長に御出席頂き、誠にありがとうございました。

もう一つ特筆すべきことは、現役部員の父兄に多数出席して頂いたことであります。OB会の催しに父兄が出席されたのは、創部以来始めてのことであり、OB・現役一同は二重の喜びを味わい、祝賀会は非常に盛り上がったものになりました。順不同ではありますが、森岡様・今村様御夫妻、福島様・山田様・平山様・有田様に御礼申し上げますと共に、今後の御支援をお願い申し上げます。

ハンドボール部優勝祝賀会（平成元年7月9日）

一方OB会では、辻村(21回)・高早（30回）両副会長が、田々美(30回)・住本（31回会計兼務）両氏と交代致しました。辻村・高早両氏には、永い間頑張って頂き本

当に御苦労様でした。常に陰の力として尽力願っている大畠氏（17回）共々、今後も御協力の程お願い致します。

最後になりましたが、全国のOB諸兄姉には、OB会の発展・現役チームのレベルアップの為、何卒倍旧の御支援・御協力を賜りますす様、よろしくお願い申し上げます。

（OB会長　鮫島　圭(18)）

積極的に活性化を図る
サッカー部OB会

サッカー部OB会も、本年度卒業生の新会員9名を迎え、総勢407名となり、400人の大台を越えました。年齢層も20歳代から70歳代と各年代に幅広く、更に住所も関西を中心に西日本各地や東京など広範囲な地域に在住しております。

現役の一部復帰を機会に、OB会も活性化を図り、現役への指導と積極的な支援活動を重点課題として取り組んでいる所です。

昭和63年度のOB会総会は、去る3月25日（土）大阪長堀橋のアークホテルで開催されました。今回の総会は、OB会役員の改選が主たる議題で、執行部も人事を一新し若返りを図って、OB会の組織の強化、活性化に取り組んでいくことになりました。

その他現役に対する支援活動を強化するため後援会の発足も承認され、関西学生サッカー界における名門大経大サッカーの復活に向けて学生、OB一丸となって頑張っていく決意を新たにしました。

なお、OB会の新しい役員は下記の通り決まりました。

会　長　小原友行（36年卒）
副会長　福田弘暢（44年卒）
理事長　山本　保（44年卒）
常任理事　14名
監　事　2名
相談役　3名

（福田　克己(21)　記）

創部30周年記念祝賀会を挙行
アイススケート部OB会

9月10日(日)、そびえ立つ母校50周年記念館の威容を見上げ、なぜか自分も大きくなったような気がし、正直な気持ち今まで感じもしなかった母校の存在感をこれほど強く感じたことはありませんでした。この思いはここに集まったOBに共通するものと思います。母校・同窓会本部の並々ならぬご尽力がうかがえ、深く感謝する次第です。

その記念館の荘厳なロビーを抜け、最上階の同窓会ホールで創部30周年を祝うことができました。喜びもひとしおで、二重奏といえましょう。

創部・発展にご協力いただきご来臨願いました総監督、学連、府連、他大学OBなど、スケート関係者の皆様もご満足いただけたものと自負しております。

また、磯野同窓会長をはじめ来賓の方々から力強いご挨拶を賜り、出席66名のOB・現役とも30年の苦楽をひもとき、かみしめながら学歌・逍遥歌・選手壮歌の大合唱で強い絆と明日への活力を養いました。

やむなく欠席となった各界各地で活躍のOB76名共々、この最上の舞台記念館と『澱江』誌上でのごあいさつの機会をご提供くださいました同窓会本部に重ねて厚くお礼申し上げます。

（アイススケート部創部30周年記念実行委員長　西岡興治(29)）

アイススケート部創部30周年記念祝賀会

寄多郎会深緑の嵐山　嵐峡館に集う
柔道部OB会

去る6月17日（土）、18日（日）の両日、寄多郎会のメンバーが、一年振りに元気な顔を揃えた。嵐山は学生時代、新入生歓迎会で良く訪れた思い出の場所である。今年は、大道、生田、的埜(25)、及び西(27)の各氏が多忙の為欠席されたのは少々淋しい感があった。母校の現役柔道部員が、今年も良く頑張り、関西の代表として、天理大、近大、京産大、同大等と共に東京武道館で行われる全日本学生柔道大会の出場が決まっており、話題はもっぱらこの事に集中した。

また、孫が出来た人も三人になり、良きおじいさん振りの話に一同大笑いをした。ここ嵐峡館本館は渡月橋の東側橋詰から、船で大堰川を逆登ること15分程の所にあり、窓の下を保津川下りの船が通り、アユ釣りを楽しむ釣人の姿等々、まるで墨絵を見ている様な美しい所である。一同昨夜の話ではまだ語りたりぬのか、朝風呂までワイワイ、ガヤガヤと話はつきぬ様であった。渡月橋の前で記念写真を撮り、天竜寺、常寂光寺、落柿舎、二尊院、祇王寺、化野念佛寺、寂庵、大覚寺と嵯峨の初夏を満喫した。来年は岐阜県長良川の鵜飼で再会する事を約して、小雨の嵯峨野路を後に散会した。

（吉田文雄(24)　記）

寄多郎会嵐山にて

傘寿を迎えた古久保先生を囲んで
ワンダーフォーゲル部OB会

昭和63年12月11日、ワンダーフォーゲル部創部以来、活動や私生活に至るまで御尽力頂いた恩師、古久保五郎先生の「傘寿ならびに創部三十周年記念式典」が現役、OB50名の参加により盛大にとり行われました。

当日は、私達が勉学・クラブにと思い出の多い、母校の50周年記念館7階ホールにて、神田会長による傘寿のお祝いの言葉に始まり、多数の方々の先生、現役へのお祝い・思い出話と続きました。

古久保先生も80歳とは思えぬ御元気さで楽しまれ、わが部の歴史を刻む歩みと共にさらに長寿の道を歩まれる事と確信しました。そして、わが部のさらなる発展を祈り、エールを組み、記念写真を撮影し、無事解散する事ができました。

さらに、平成に改まって初めてのOB総会が7月2日、箕面スパーガーデンにて行われました。各界で御活躍の諸氏20名の参加でしたが、会も盛り上がり、OB会のあるべき活動に対し、活発な意見が飛び交い、懇親会では旧交を暖め、実りある総会となりました。

（高橋　浩行(49)　記）

ワンダーフォーゲル部ＯＢ総会

創部三十周年記念総会を終えて
簿記会計研究部OB会

簿記研30周年記念総会（平成元年9月23日）

去る9月23日、大阪南森町の「ホテルくれべ梅田」におき、簿記会計研究部創部三十周年記念OB総会が盛大に行われました。

現在、我が簿記研OB会も会員数380余名にも達し、なかなか全員が顔を合わせる機会がございませんが、総会には泉谷、渡辺（大）両先生もお忙しい中をご参加頂き、クラブOB会の現状報告、会則改正について審議しました。

総会後の懇親会では、先生方との楽しい会話や、すっかり学生時代に戻っての旧交を暖め、新旧交えての楽しいひとときを過ごしました。

今回、三十周年記念行事を無事終えることが出来ましたのも、実行委員の方々をはじめ、いろいろとご指導、ご協力を頂いた同窓会本部事務局の皆様、そしてOBの皆様方のお陰と誌上をお借りし、心から厚くお礼を申し上げます。

（今津　豊(22)　記）

全国から駆けつけ創立20周年のOB総会
法学（律）研究部OB会

法学（律）研究部ＯＢ会（平成元年6月3日）

本年6月3日（土）午後7時「新大阪シティプラザ」にてOB会創立20周年記念総会が開催されました。当日は多忙の中全国から15名のOBが参集しました。遠くは九州八代より浜(35)、広島・福山より初参加の笹山(40)、岡山・津山より大家(36)、笠岡より10年ぶりに定平(39)、金沢より安江(38)、愛知・半田より初参加の前田(38)、関西からは角野(35)、大谷(36)、奥(36)、太川(37)、8年ぶりに牧本(37)、馬場(40)（敬称略）が駆けつけた。

長島世話役(39)が力強く開会宣言をした後、星加会長(26)の祝辞、続いて多賀顧問(24)の音頭による乾杯で始まった懇親会のムードは最高に盛り上がり、久し振りの再会に感動の声が会場に満ちあふれた。個性豊かなOBの近況報告もあっという間に時間が過ぎ、全員の記念撮影、時間の都合で第二会場で恒例の「逍遥歌」を全員力強く肩を組んで合唱し、次回の再会を約束して散会しました。

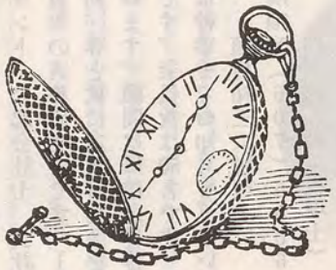
なお当日出席の予定の浜田会員(38)は仕事の都合で、また、篠崎会員(39)は病気退院の翌日のため欠席になり残念でした。翌日は5名にて母校のキャンパスへ行き、50周年記念館を背景に記念撮影をして解散しました。

今回の記念会に兵庫の西村(38)より祝電、兵庫の立花(24)、横浜の土屋(27)、金沢の神田橋(30)、福岡の高橋(33)、姫路の八木(33)、大阪の中島(33)、春日井の池田(39)等（敬称略）多くの会員の方からメッセージ、会費及び寄付をいただきありがとうございました。

最後に母校の門坂教授は当日学会のため出席いただけませんでしたが、メッセージをいただきありがとうございました。そして、今回も母校の同窓会本部事務局の皆様には、記念品等大変お世話になりました。この紙面をお借りして厚く御礼を申し上げます。

なお、今回出席できなかったOB会員の皆様には次回は是非とも多数御出席されますようお願いする次第です。

（奥　正信(36)　記）



創立30周年記念パーティー開催
独立総部ゼミナール協議会

ゼミ協創立30周年記念パーティ（学館にて）

平成元年6月25日（日）、学生会館生協喫茶部に於いて、ゼミ協『創立30周年記念パーティー』を開催致しました。当日は御多忙中にもかかわらず多数のOB、現役部員の参加を頂き、学内関係より、顧問の浜本先生をはじめ、ゼミ協OBでもいらっしゃる同窓会広報部長の波根伸俊様など多数の方々に御出席、御祝辞を賜わり、盛大な宴に重みと華を添えて頂きました。

宴進む中、OBの自己紹介やゼミ協時代の思い出話に大いに盛り上がり、顧問先生の熱い激励にOB、現役共に、今一度、部の存在理由を問い直す大変貴重な時間となりました。

創立30周年を記念して作製された部旗が、出席OB一同より現役部員へ記念色紙と共に寄贈され、浜本先生へも記念品と色紙が贈られ、逍遥歌、学歌斉唱の後、ゼミ協活動と経大の新たなる飛躍を願いつつ終宴となりました。

最後になりましたが、本宴開催に際し、名簿の作成その他、多方面に於いて御協力、御支援賜わりました同窓会様に対しまして誌面をお借りして厚く御礼申し上げます。

（創立30周年記念実行委員会）

税務・経営問題の専門研究に熱意
法税研究会

1989年度も、税理士を中心とする会計人の研究会が盛大に開かれた。

第5回研究会　4月23日（日）、午後1時

内容(1)講演　商法改正と税理士業務

—会計調査人を中心に—

講師　大阪経大助教授　伊豫田　隆俊氏

(2)会員報告　企業内教育のすすめ方とその事例

報告者　エデュース代表取締役　原　清氏

出席者　20名

会場は大阪経大本館3階特別会議室（第6回も同会議室）。

第6回研究会　12月9日（土）、午後1時

内容(1)講演　商法改正試案と中小企業財務問題

講師　大阪経大教授　浜本　泰氏

(2)会員報告　決算報告会について

—会計事務所ができるマス事例の紹介—

報告者　橋爪会計事務所　松本　邦夫氏

OB 同期生クラブ 会

法税研究会は税理士、経営コンサルタント、公認会計士、会計事務所員等の実務研究会です。1年に2回、春と秋に定例研究会を開いています。顧問は母校泉谷勝美教授です。会員数は50名です。入会者は幹事までお知らせ下さい。

幹事　西川恭三郎（税理士）

幹事　小林幸一（税理士）

監督紹介

勝負に勝つために

ハンドボール部
上野洋一(32)

私がハンドボール部に入部したのは昭和41年で、まだ11人制のハンドボールでした。その当時我がハンドボール部は、関西学生リーグの二部でした。その年の秋季リーグに於いて二部優勝し、大阪の鞍公園で一部最下位の立命館大学と入替戦を行いましたが、前日から降り続く雨のためグラウンドコンディションは最悪で、まるでたんぼの中で試合をしている状態でした。60分間死闘の得点は両チーム合わせ、たったの1点しか入らなかった。これまで数多くの試合をしてきましたが、後にも先にもこの試合一度限りでした。試合は残念ながら0対1で負け、一部昇格はなりませんでした。この試合が11人制ハンドボールの最後の試合でありました。よく年（昭和42年）からは現在の7人制ハンドボールの初まりでした。その年の秋のリーグ戦に二部優勝し、念願の一部に復帰することが出来ました。

現在ハンドボール部の監督を引き受け、早や11年が過ぎました。何分にも時間に余裕がなく十分な指導及び管理が出来ず、昭和58年にチーム内のトラブルが原因で、関西学生リーグの一部から二部に転落し、不名誉な記録を残してしまいました。一時は部員不足で、部活動が出来ない最悪の状態においこまれましたが、当時の1年生部員5名の強い結束と頑張りで何とか危機を乗りきることが出来、その後は順調にチーム力も回復し、昭和60年には一部リーグに復帰することが出来ました。現役達と復帰後、まず第一目標の関西学生リーグ優勝を目指し練習に励んで来ました。そのかいあって昭和63年秋季リーグに於いて6戦全勝で昭和46年以来17年ぶりに優勝することが出来ました。又、本年平成元年春季リーグにも優勝することが出来ました。現役達も目標をさらに上におき、練習に励み目標達成に努力し大いに頑張って行きたいと思っています。

指導方針としては、技術的、精神的な指導はもちろんするが、あくまでも学生自身の自主性を尊重し、選手個人がやる気を起こし、厳しい中にも楽しい部にしたい。しかし運動部である以上勝負に勝つことが目標であり、そのためにも、自分自身が創意工夫をしながら、毎日の練習に努力し、その練習の成果が試合に発揮でき、さらに勝つことにより、大きな自信となり、ひいては将来社会に出ても、運動で培ったその強い精神力と頑張りで、社会の一員として活躍出来るよう部員達の指導にあたって来ました。

卒業生直撃インタビュー

燃える若き全日本監督

ハンドボール全日本監督
津川　昭氏(40)

小学生のころ、豊中五中のグラウンドでハンドボールの存在を識り、中学より始める。経大から同期の穂積氏（現在北国銀行女子ハンドボール部監督）と共に実業団の湧永製薬㈱へ入社、同時にナショナルチーム入りする。幻のモスクワ五輪ではキャプテンとして出場権を得ていた。25年間ハンドボール漬けの生活にまったく変わらぬ情熱を燃やし続け、現在全日本監督をしている。

「ハンドボールは車の運転とか危険予知訓練等と同じで、その場面の中にどのような危険因子が含まれているかを察知する能力を要し、その為には当然回りに対する気配りとか集中力とかが必要になってくる。皮肉なことに身体が動かなくなる（引退する）頃に、大学時代の練習には気配りの練習がたくさんはいっていたと気づく。しかし当時はなかなかそれに気づかず、何のためにこんな練習をするのだろうとしか思っていなかったが…」と津川氏は語ってくれた。

大学では「自分たちで考え、話合い、行動する能力を身につけられた事が社会人となって役立った」という強気の氏が、反面、同期の穂積氏の話になると語調が丸くなる。氏とは未だに良き友人であり宿命のライバルである。湧永製薬㈱、ナショナルチームを通じて彼の存在は重大な意味を持った。いつか、穂積氏が女子の全日本監督になり全日本の男女監督を経大ＯＢで飾りたいと氏はいう。

今後の抱負は、身体の芯から突き上げる情熱と、「心」＝気配りがあるチームをつくりバルセロナへの出場権を得ることだと津川氏は語ってくれた。

趣味はドライブ。これまでランドクルーザー・アルファロメオ・ＢＭＷ（アルピナ）・マークⅡとうまく（お金をかけず?）乗り継いできたメカ好き。

昭和26年8月3日生まれ／大阪府出身／昭和49年・40回卒／高城ゼミ出身／妻　子供2人4人家族／湧永製薬㈱ハンドボール部部長。

（広報部　F）

晴耕雨読の日々

下川　舜二(5)

月日のたつのは早いもので卒業して50年になる。昔は人生七十古来稀なりと言われお祝いをしたものです。

振り返って見ると本当に波乱万丈の生涯で、よく今日まで生きてこられたものと思う。

多くの学友は戦火に倒れ、今日の日本の繁栄の人柱となられた感慨の切なるものを禁ずることができません。3年間澱江河畔のあの細長い小道を通りながら人生を語り、青春を謳歌したあのよき時代の事々が過ぎし日こえ、忘却の彼方から蘇ってくる思い出はいつも美しく懐かしい。

私も32年間の地方議員を息子に託し、現在は晴耕雨読の気ままな生活です。

母校の限りない発展と繁栄をお祈りします。

友の大切さを感ずる

伊藤　勝(8)

私たち8回生。特にその前後の卒業生は戦争の火中に飛び込んで行った関係上、生と死に関し格別の関心があります。年に大小2・3回の会が開かれますが何時も仲々の盛況です。微笑の中にお互いの生の喜びを感じ合う固い握手が交わされます。かつて机を共にした同士、何年会わなくても敬語を必要としない懐かしさ、それが同窓生です。

年をとると今更の様に友が居る事と友の大切さを感ずる様になります。どうか卒業生の皆様も良き友を得られますように。

日常生活の信条

春日　幸大(18)

学校卒業後35年間勤続した会社を健康上の事で昭和62年春退社、現在自営業をしながら、特に健康であることの喜び、有難さを身をもって体験した私。次のような健康法、ストレス解消法を励行いたしております。

1、歩く事、昭和一桁生まれの私、そろそろ足腰の衰えが気になる年齢。毎日早朝約1時間、夕方約30分1万歩以上歩くことを励行。

2、趣味の園芸に熱中、僅かな土地ではあるが四季の野菜、花類の栽培に精励。

3、地域社会のボランティア活動、現在、保護司、社会福祉委員、自治会役員、神社総代並びに奉賛会役員等を引き受け、出来るだけ多くの人と接し心からのお世話、心の交わりを大事にして常に明るい生活をするよう心掛けております。

皆さんにお答えいただいた設問項目

- 今、私が熱中していること
- 今、私の会いたい人
- 私の健康法・ストレス解消法
- 経大及び同窓会にまつわるあなたの町の情報（タウントピックス）
- その他

『女たちの戦後史』

柴田　悦子　編集(14)

戦後の女性たちの戦いは、「それまでの柔順な女からの脱出」という事から始まった。そこには、ひとりの働く女性として、母、妻としての様々な証言があった。そして、その証言は当時の女性が社会に出ることの難しさも私たちに訴えかけてくる。そこには〝女である〟という、とてつもなく大きな障害があった。

また、取り上げられた問題の中には、「マドンナブーム」と言われる現代にも通じるものがある。仕事・家庭等に精一杯頑張っている女性に（男性にも）是非読んで欲しい一冊。

（A）

知りたい知らせたい
女たちの戦後史―大阪からのレポート
創元社　1989年4月発行
定価¥1、300（税とも）

以上のようなことを私の日常生活の信条として励行し、お陰様にて私の体力も回復し、又、一家（母82歳、妻、長男夫婦、孫2人計7人）全員身心共に健全で、明るく楽しい毎日を過ごしている現状です。

最後になりましたが、母校の益々のご発展と、同窓会の皆々様のますますのご健康とご多幸を祈念して終わらせていただきます。

黒正イズムで社業に貢献

飯谷　秀継(23)

現在、岸和田製鋼㈱に勤務しています。

本年8月より久須美昊さん（昭和31年卒）を業務部長として迎えました。黒正イズムを発揮され、社業発展のために貢献されることを期待しています。

木村保重先生のゼミの皆さんお元気でご活躍のことと存じます。

一度お会いしたいものです。

自宅　河内長野市千代田台15-24

勤先　岸和田製鋼㈱

サッカー部OBとして

小原　友行(27)

私は、今年春からサッカー部OB会長の重責をあずかっております。

学生諸君も念願の一部への昇格を果たし、また、その地位の確保は当然ながら、二部への入れ替え戦のない上位入賞へと日々努力いたしており、私達OBも何かと援助の手を今まで以上に差しのべて、学生諸君とOBとが身心一体となり、その責務を果たしていく考えでおります。

サッカー部員であった諸先輩はもち論の事、大経大の卒業生各位もご声援の程よろしくお願い申し上げます。

毎日が業務多忙

石堂　勝康(28)

私が今熱中していること。書道・精神修養の為。

今、私の会いたい人。昭和35年度卒田中勇氏。ESSの先輩で、入部当時大変お世話になりましたので……。

私の健康法。ストレス解消法。青竹踏み（毎日15分位行っています）

その他、経大卒業後早や27年が経過しました。この間、幾多の紆余曲折がありましたが、現在では、㈱三重重機運輸にて経理を担当しております。好況に支えられて、毎日業務多忙な日を送っています。

母校の発展には驚くばかりです。

『身近な日本経済』

西村　暠夫　編著
加藤　正秋(10)　著

スマートさでおなじみの東海支部長加藤正秋氏が、本年4月、共著の書籍を出版されました。

同氏は、母校卒業後、中日新聞記者として三十数年活躍され、現在名古屋文理短期大学において教鞭をとっておられます。

今回、「机上の理論だけでなく、現実にそくした日本経済の本を書こう」と、名古屋学院大学の西村教授と意気投合され、刊行の運びとなりました。

氏の担当は、日本経済の国際化、金融政策と自由化、税金、農業問題を考える、の4項目です。全巻を通じて平易に、そして資料も豊富に駆使してあります。

生涯学習の時代、みなさまの講読をお進めいたします。

（A5判、139頁、晃洋書房刊、1、600円）。（H）

『澱江』が唯一の情報

高橋　和男(29)

経大卒業の年に島根県の教員に採用となり、今年で27年目となります。昨年より県の人事異動ルールに従い、現任校で単身赴任で頑張っています。

在学中は北岡宗造先生のゼミで楽しい思い出も沢山ありましたが、先生が40年代の学園紛争の際なくなられ、それを境に経大とは遠くなり『澱江』が唯一の情報収集の場になっており、楽しく拝見しています。

島根県の高校には現在商業科教員として10名が商業教育の中核として頑張っており、年末には有志で同窓会もしています。後輩で教員希望者があれば何か手伝いできるかと思いますが、新採の中にいないのが残念です。

いつの日か下宿をしていた江口や豊里の方を訪ねて見たいと思っている今日この頃です。

今、私が熱中していること

前島（大川）武子(33)

たおやかな風情で、温室に咲く蘭も美しい花ですが、日陰で、ふみつぶされても、かれんな花をつける雑草も美しい花です。

現在、私は教育に熱中していますが、子供は雑草の如く、たくましく育ってほしいと願っています。

来るべき21世紀に向けて、出会いや体験のなかで、自分自身に真剣に向き合い、人間としての問い直しをしてほしいと思います。

マスメディアの影響と価値観の多様化のなかで「自分」のイメージをつくりあげ、自分らしい自然な生き方を探求してほしいと思います。

親も、子供との本来の心のつながり、コミュニケーションを大切にしたいと思います。

パチンコでストレス解消

山城　幸一(37)

卒業して18年が過ぎましたが、同窓生の皆様には、益々ご健勝にご活躍のことと存じます。

先日『澱江』への投稿依頼のハガキが届きました。くじ運はあまりよくないのですが、無作為抽出で当たったのこと。喜びとはうらはらに文章を書くのが苦手な為、困っております。

私は、勤務終了後、帰宅の途中よくパチンコに行きます。勤務中のイライラなどのストレス解消にと思っておりますが、実際のところ「ストレスを解消しているのか、溜めているのか」が難しいところです。

ただ、何も考えずに黙々とパチンコ台に向かって、玉のあるかぎり打ち続ける。たかがパチンコ、されどパチンコ……。

関西学生会館の仲間は今どうしているか?

山本　冨夫(37)

大学生活といえば吹田山手町の関西学生会館での4年間の寮生活を思い出します。四畳の洋室、100から120名の寮生、まずい飯、歓送迎等コンパでの武勇伝等沢山の思い出があります。大経大、関西大、大阪大の三大学の学生が寝食を共にし、私設の寮でありながら自由奔放な時間を過ごしました。4年間に約400名の寮生と縁があったわけですが、すでに40歳以上、就職、家業等中堅として活躍していることと思います。

いつの日か会って、当時の思い出を語り合いたいものです。

パソコンに熱中

砂本　正次(39)

私は、現在勤務先において電算室長を拝命致しております。

不器用な私は、プライベートになってもその世界から抜けきれず、最近は年甲斐もなく、パソコンに熱中致しております。子供とゲームに興じたり「太郎」やら「1・2・3」やらを実行しては良く出来ているものだと感心させられたりしております。そろそろパソコン通信もやってみようかと思っています。

この小さな機械の持つ無限の可能性に期待するもの大で、汎用コンピュータとはまた違った味があります。

母校に、コンピュータおよび関連のカリキュラムが設置されたと聞き及びうれしく思いました。

学生に戻って講義を受けてみたいものだと思っておりますし、担当の先生方ともお会いしたいものだと思っている昨今です。

小松熟年時代

沼田　修(39)

経大を卒業して早や17年が過ぎ、当時のクラブ仲間（美研）連とも音信が途絶えてずいぶん久しい……。四国香川から出てきて大阪市内あちこち転居して、何の縁があってか古巣の小松通りにまいもどってきた。あの当時は学生運動の盛んな頃で、それ幸いにマージャン・バイト・酒に明けくれる毎日、今や子供2人、妻1人「がんじがらめ」の小松熟年時代である。下宿・アパートが並ぶ風景からマンション林立する風景へと様変わりである。

今年娘の小学校入学を機会にPTA活動に足を踏みいれ、何とかこの地（上新庄）に根をはろうと、地元の人たちと親交をあたためて、少しでも子供達のため、地元のためにと日夜頑張ってます。

サウナと釣

正岡　昭三郎(43)

私は肥満体T174W83の為、又年齢的（40歳）にも運動するのが億劫で、腰痛、足の筋肉切断の経験がありますので、「サウナ入浴」で汗1kg分発汗させて健康法としています。

また、ストレス解消法としては、丸一日の完全休養日がない為に空時間を利用して、近くの防波堤でチヌ釣りをしています。海は広くていいですヨ。

中庸・竹ふみ・ゴルフ

中井　俊之(44)

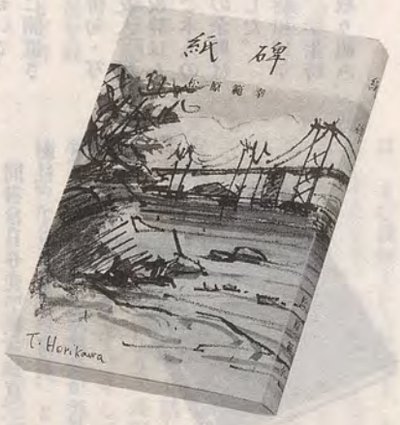
先ず第一に何事もほどほどにすること、これが肝心です。中庸というやつです。あとは、毎晩玄米黒酢をのみ、竹ふみをすることです。

ストレスの解消法ならゴルフの練習で汗を流す、これにかぎります。

毎日、一日を有意義に、かつ楽しく過ごす。これが、理想であり、かつ望みです。

『紙　碑』

松原　範幸(7)著



いつも本を読むときは、体調の良いときと決めている。その本に対して失礼だし、今回もそのつもりだった。けれど仕事が多忙で、体調も最悪。読み終えるのに相当かかるだろうと当初思っていた。しかし、松原氏の『紙碑』は、一気に読破できた。たいてい本を読むときは、数日かかってしまうのにである。私が思うに、それは松原氏のあたたかさではないかと感じた。人生に対する真摯な態度、家族に対する深い愛情、他の人達に対する細やかな情があるからだろう。こういう文章を読んでいると嬉しくなってくる。何か、遠くに置き忘れてきた心の寄り所を取り戻した気になった。松原氏は、軍隊生活、高松市役所、高松医師会、保護士等々、様々な人生体験を通して、このようなすばらしい自分史が作れたのだろう。きっとさわやかな読後感を味わえると思うので、ぜひ読んでいただきたい一冊だ。

（B6判、261頁、昭和63年10月刊、2,000円（送料200円）本人まで）　（D）

昔の友に会って思うこと

八木　敏洋(44)

経大を卒業して、早いものでもう10年が経ってしまいました。今、思えば経大の4年間の方が長く感じられます。

私も入社して、すぐ広島の方へ転勤してしまい、学生時代の友との交流もまったくなくなっていましたが、今年友人の結婚式で久しぶりに再会して、やはり経大の友はいいもんだと痛感しました。これからは年に1回ぐらいは会いたいものだとみんなで話してきた次第です。

みなさんも、何か機会を作って会われてみてはどうですか、いいもんですよ。

医食同源

酒谷（森）礼子(45)

私は妊娠中、病院よりできるだけ添加物の入っていない食事をとるようにとの指導をうけました。それ以来、化学調味料と名のつくものはいっさい家に置いていません。しょう油などの調味料も、昔ながらの製法を守り続けているものを使うようにしています。

野菜や果物は無農薬、有機栽培のものをできるだけとり入れました。すると、どうでしょう。砂糖などほとんど使わなくても十分甘いことに気づき、濃いダシ、淡泊で微妙な味づかいを心掛けています。

医食同源に少しでも近づきたいと考えている今日この頃です。

オリジナリティーにこだわる

木下　伸一郎(47)

「今、私が熱中していること」それは大阪に新しい文化創造地帯をつくろうとしている「近未来大学」の活動である。

内容は、大学といっても、これは比喩的なもので、個々人がこだわり、興味を持つ「妖怪、UFO、客体学ヒーロー学」といった、今日では「不必要」とされるものばかり。

しかし、既成の枠から一歩踏みこんだところから近未来への出発点があるように思える。

オリジナリティーにひたすらこだわりたい。

島田一葉子句集『巴里祭』出版記念祝賀会

祝賀会での俳句朗読

平成元年4月30日(日)、京都センチュリーホテルにおいて、標記記念祝賀会が盛大に開催されました。

100名を越す出席者（俳句・写真仲間、報道関係者、友人、親族）に囲まれ、挨拶、祝辞はもちろんのことですが、ご本人の俳句朗読とシャンソンの余興は、殊の外印象深いものでした。

島田氏は本名恭亮、昭和17年の昭和高商卒業生です。学生時代は文学青年で演劇に取り組み、中学校教諭の後、学習塾を経営、現在も塾長とのこと。

同氏の句作は四十数年のキャリアがあり、「青玄」京都支部長を努め、無鑑査同人でもあります。また、俳句現代派として、俳句文体変革、写俳、俳句朗読等、ユニークな異色俳人としてのリーダー的存在です。

満を持しての処女句集『巴里祭』には、392句が収められ、俳句のみならず本の装丁にも大正ロマンと都会的粋が感じられます。

同書はB6変型判、250頁、鳥影社、1988年11月刊、3,800円。

（H）

スポーツクラブで運動

西原　秀典(49)

男も40歳を過ぎれば体の老化が出てくると言われています。そこで私が昨年から始めたのが、スポーツクラブに通うこと。

今、流行のフィットネスクラブですが、週2～3回のペースでウエイトトレーニングやエアロビックスダンスに励んでいます。

文書を書くのが仕事ですからどうしても肩のこりが激しく、肩のこりを少しでもやわらげたい、と思ったのが動機。

ストレス解消になり、仕事の能率もあがっています。運動することが疲労回復となり、リフレッシュすることになるのですから。

さあ、あなたも根気よくチャレンジしましょう。続けることが肝心ですよ。

リゾートブームとわが町

他谷　秀樹(51)

私の住んでいる町は、西に比良の山々、東に琵琶湖と大自然に恵まれた風光明びな所である。昔から夏は水泳、冬はスキーと京阪神の人々のレジャー基地となっている。1987年に制定された総合保養地域整備法（リゾート法）と、近年の労働時間短縮による余暇時間の増加、地方自治体の「村おこし」ブーム等により、リゾート開発がブームになっている。

わが町も、大企業の進出によるゴルフ場の建設、長期滞在型のリゾート地の開発が行われようとしている。

しかし、全国のリゾートブームにのり、開発を進めるのもよいが、どことも同じようなリゾート地になってはいけない。

マンネリ化せず、他にない魅力あるリゾート地として開発されるべきである。そして、リゾート開発も、基本は「恵まれた大自然」を守り、生かさなくてはならない事であることを忘れてはならない。

今後も、大阪経済大学の御発展を祈ります。

今、教師に熱中

住野　易之(52)

卒業後1年間の民間企業生活を経て、転職、教師になって早や3年目になりました。

昨年より担任を持ち、授業・各種行事やクラブ活動に生徒といっしょに走りまわっている毎日です。

一概に生徒といっても45人いれば色々な生徒がいます。年は近いようでも考え方に相違があり、改めて教師という能動的立場のむずかしさを痛感させられました。今は、自分の思うまま試行錯誤し、悪戦苦闘の毎日です。

好きなことでストレス解消

大橋　隆(52)

私の健康法はストレスを貯めない事であり、パチンコ・麻雀などしてストレスを解消しております。あまり良い解消法ともいえませんが、自分の好きなことを一日中熱中してやる事が大事です。

また、農業もやっているので、暑い日でも汗を流して仕事をすると体はつかれるけれど、さっぱりしていいです。

安定という満足感

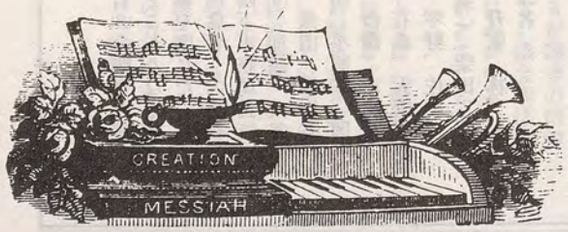
村上　剛(53)

私は教職という仕事について今年で3年目となります。

そして、私が今最も熱中し楽しくてしかたがないというときは、生徒と対話しているときです。昨年までは、まだ講師という立場上、身分的にも不安定で、来年はどうなるのだろうかという不安がありました。その不安の中での生徒との対話は、なにかしっくりしませんでした。

ところが本年度からは正式採用となり、その不安が少ない分だけ、生徒とも腰をすえてじっくり話し合うことができるようになり、表現しえない満足感で一杯です。そして今年卒業させる生徒の就職先が気になりはじめた今日この頃です。

やはりこれも、身分の安定がなしうる魔術なのでしょうか？



長尾 晃(8)著書『月曜日に、微笑みを。』の出版記念パーティーに出席して

出版記念パーティ風景

平成元年6月3日（土）
13：30～15：30
於　レストラン・パレス
（梅田新阪急ビル）

出席者はせいぜい40～50人くらいだろうと思って出かけてみたら、なんと約130名、多くの税理士先生やいろいろな会社の幹部の方々、経大の内海教授や先輩、後輩と多士済々である。彼の顔の広さ、人脈の強さに、先ず驚嘆。

会場は花で飾られ祝宴に相応しい見事なアレンジである。定刻、10期生でサッカー部の後輩にあたる加頭興治君の司会で会は始まった。発起人を代表して8期生の伊藤勝君の祝辞に続いて、長尾君が世界的に有名なアメリカの話し方教室デール・カーネギー・コース公認のインストラクターだった頃の教え子の一人、関西オートメーション㈱宮坂松央社長の心温まる祝辞、著者の長尾晃君の挨拶、その後串田一君(8)の乾杯の音頭で全員が杯を高く挙げて「オメデトウ」の乾杯、更に柴田秀一君(8)が8期生よりの記念品を贈呈、祝宴に入った。

宴半ばにして、出版元「ぱるす出版」の地主浩侍社長が立って「本は好評で出版後、日ならずして重版をする運びになり大変嬉しい。更に第二の著作をお願いしたいと考えている」旨の挨拶があり会場は拍手喝采大いに盛り上がった。

大橋秀男君(8)の閉会の辞で祝宴はとどこおりなく盛会のうちに幕を閉じた。

経大関係出席者　内海教授、同窓会陰下事務局長(19)、木口、南部(9)、加頭、大谷(10)、玉岡(12)、黒田、松川(15)、小林(26)、多田、小原(27)、岡本(33)、浅野、伊藤、市川、石垣、石井、石森、大橋、河田、串田、琴野、佐藤、沢田、柴田(秀)、柴田(真)、関田、田中、丹家、林、宮武(8)、以上32名。

（B6判、203頁、ぱるす出版、平成元年4月刊、1、200円）

（S記）

卒業生直撃インタビュー

過疎化対策に生命（いのち）をかける同窓生

島根県温泉津（ゆのつ）町長
宮原史郎氏(21)

「町を二分の激戦」に勝ち抜き、「活性化を通して、町の発展」にかける同窓生町長を、島根県は温泉津町へお訪ねした。（温泉津町はほぼ島根県の中央に位置し、その名の示すとおり温泉と港を中心とし、その昔石見銀山の外港として栄えたところ）

初秋の日曜日早朝、2年前に完成した新庁舎の町長室において、まず選挙戦についておたずねした。

「本年4月9日が選挙投票日、投票率は92パーセントと町史上最高でした。忘れもしない292票差で勝ちました。良きライバル（教育長）との対決でしたが、立候補した以上負けるわけにはいけません」と力強く語る氏は、豪快な笑いの中に鋭い目付き、背広を着た戦国武将の風格であった。

経歴については、「昭和7年当地で生まれ、中学校では水泳、高校では野球、竹馬の友がたくさんいます。経大では昭和26年復活した柔道部に入り、キャプテンでした。ゼミは竹林庄太郎先生。昭和30年卒業と同時に山陰合同銀行に入行、61年退職まで支店長や江津信用金庫の常務を勤め、以後当町の助役でした」とのこと。

学生時代の思い出は、「在学中は下宿で、昨年の澱江座談会に出ておられた井阪先輩と同じ下宿でした。柔道とアルバイトが印象深いですが、当時のアルバイトはお金でなく、食事など現物支給が魅力でした。先生では西島弥太郎先生が懐かしく思い起こされます」

「母校への要望としては、後輩に荒削りでよいから逞しさを培ってほしい。最近の若者にはファイトが少なく、上役を掻き回すような人材が乏しい。このままでは将来が危ぶまれます」と真剣な眼差しで訴えられた。

行政面では、「昭和29年に4カ町村が合併し、人口が11、000人でしたが、現在5、000人前後に減少しています。魅力ある町を創出し、一人でも町民が増えるよう日夜努力しております。中国横断道の開設により、広島とは107キロ2時間圏となります。明日も広島での物産展に行ってきます。また、議場にビデオを導入しました。職員はじめ誰でもが議事の内容を知ることができ、議会関係者も責任ある発言に心がけるであろうと期待しています」とのこと。

ご自身のモットーは「聴病であっても卑怯になるな。火中の人となれ」で、苦難を乗り越えた人を登用しているとのこと。趣味の囲碁は3段の腕前。

好きな言葉は
「憂（うれ）きことの尚この上に
積（つも）れかし
限りある身の力ためさん」

（広報部　H）

学友松原四郎君の逝去を悼む

山上　善彦(2)

貴君の突然の訃音に接し全く痛哭の極みです。今更ながらお互い誰もが等しく絶対避けて通れぬ諸行無常の道を静かに思い巡らして居ります。それにつけ、すぎし日の学徒の頃の制服姿が走馬燈の様に浮かんできます。

実に貴君との深いきずなは、丁度今を去る昭和8年4月私達が旧制大阪府立岸和田中学校より、貴君を筆頭に尾食宇一郎・川端清次・梶本武雄・村田秀雄の諸君及び私の6名が打ち揃って入学の栄誉を与えられ、幸い1年先輩の宇野善四郎氏が学んでおられ計7名で高商岸中会を結成し3カ年の勉学の基礎を固めたものでしたね。今貴君を偲んで在学中の行事の数々を思い出しましょう。

先ず第一番の行事は、1年生夏のアサヒビルでの映画アーベントの夕のこと。宇野先輩と共にご熱心に来客の勧誘に努められ大入り満員だったと思います。又、体育関係では陸上競技部の結成にも努力されましたね。語学の勉学には、英語は当時の高商教育には最重要学科でこれを除いては、全くの役立たずであったので、毎日一般商業専門英語及び一般文学英語両立で学習がありました。今でいう国際交流の教育がその当時から施行せられていたのです。何も今になって国際交流教育と特にやかましくいうことはないと考えていると申せばいいすぎでしょうか。君もとっくに我が経大の一員として国際交流教育の一端を修められたことに誇りをもって下さい。特に独乙語は担任の米津先生から課外特訓も受けましたね。本当に意欲的にがんばられました。忘れもしません。丁度卒業試験（独乙語）に米津先生が監督に来られた時、突然地震があり、貴兄と隣り同士に並んで座っておりましたね。他の生徒達は一寸あわてた様子であったが、貴兄はよく落ちつかれておられたことを覚えております。又、米津先生も大人格者で事なくその試験を終了させておられたのです。

特に一番の在学中の思い出は、高商2年の学園の更正で黒正先生をお迎えした時のことです。貴兄も常に冷静な判断のもと学生としての行動を取り、勉学をすることを決意したのも忘れ得ぬ一大事でしたね。その甲斐あり、昭和10年9月に我等学園の一層の躍進の基礎が固められたものでした。

かくて昭和11年3月夫々の目標に向かわれ、社会の荒波に向かって羽ばたいて行かれました。が、貴君も今次大戦により尾食宇一郎君と同じく中支戦線に召され、武漢三鎮に転戦されました。戦友尾食君は、武運にめぐまれず遂に名誉の戦死と報道されました。貴君は武運長久を再にさずけられましたが、敵弾による手の負傷を受けられ、後方送還を受け、後、和歌山日赤病院にて治療されました。

此の時も貴君と面会よりも再会出来得た瞬間の感想、今も心の奥深くきざみ込まれております。やがて昭和20年の8月15日の終戦の大詔をいただき、平和の御代をむかえることになりました。川端清次君（戦死）・梶本武雄君・村田秀雄君の両名は、退役後病没されたことは残念です。幸い貴君は、武運長久の加護により、唯今に至るまで数ある功績を残されて参りました。

特に母校法人・同窓会役員に就任せられ、経大発展のため日夜努力されてきました。又、公職として地元岸和田市の人権擁護委員協議会会長に就任、更に大阪府人権擁護委員連合会副会長として大いに活躍中のことでした。又、唯今まで2度の受賞の栄誉を拝授せられておられます。

今この悲報筆舌に尽くし得ぬものがありますが、君の生前の数々の功績は永く生き生きとして不滅の光を投げかけて下さることを確信致します。ここに静かに思いをこめて貴君のご家族ご一同様はじめ、我が大阪経済大学諸先生、学友の方々、一般友人、知人の方々の心のきずなは限りなく深まってゆく事を念じております。何卒、此の上共ご平安におやすみ下さい。

連絡先（自宅）
〒596岸和田市並松町21―30
松原宏成氏

『道理貫天地』購読のおすすめ

同窓会の記念事業として昭和62年11月3日に発刊されたもので、先生のご生涯を知るだけではなく、本学園の歴史を知るうえでも貴重な読みものです。既に多くの方が購読しておられますが、今少し残部があります。是非ご一読下さい。

（A5サイズ、282頁）
◇頒価　一冊　2、000円（送料込）

◆「黒正巖先生の遺稿集」◆

この書籍は、黒正家から先生の戦後のご活躍ぶりの一端をうかがうことのできる資料をご提供いただき、黒正先生のご高弟で、黒正先生が京都大学農学部に創設された農史講座を継承された三橋時雄先生（京都大学名誉教授）のお力添えを得て、日本経済史研究所から発刊されました。

その内容は、戦後から逝去されるまでの短い期間のものですが、研究に、青年の教育に情熱を傾けられた先生の面影を偲ぶことのできる貴重なものだと思います。

（A5サイズ、177頁）
◇頒価　一冊　1、500円（送料込）

◆水性ボールペン◆

平成元年度総会の記念品として水性ボールペン（ネーム入）を作製しました。在庫が若干ありますのでご希望の方は同窓会事務局までお申し込み下さい。

◇頒価　一本　1、000円
（送料込）

◆オリジナル・テレホンカード◆

50周年記念館をデザインしたもので好評です。ご希望の方は1枚800円でお分けします。（10枚で1枚進呈いたします。）

昭和61年度版『同窓会名簿』購入ご希望の方は同窓会事務局まで「郵便振込」「銀行振込」又は「現金書留」でお申し込みください。

◇頒価　一冊　6、000円
（送料込）

◇記念品・図書購入方法

郵便振込。銀行振込。
いずれの場合も同封払込用紙をご利用下さい（郵便局または三和銀行本支店をご利用になれば払込手数料はいりません）。

現金書留の場合の送金宛先
〒533大阪市東淀川区大隅2・2・8
大阪経済大学同窓会事務局

◇問い合わせ先
大阪経済大学同窓会事務局
電話06・328・2431㈹

稲原先生退職記念講演会のお知らせ

母校の半世紀の歴史と共に歩んでこられた稲原先生が、来る平成2年3月をもって定年を迎えられます。これまで「交通論」及び体育会自動車部顧問として、幾多の人材の輩出に多大なる貢献をしてこられました。

そこで、これまで大変御世話になった経大稲原ゼミ及び体育会自動車部の各OB会において感謝の意を示す為に稲原先生の退職記念講演会を、来る平成2年4月1日(日)に、同窓会ホールにおいてとり行ないたいと思いますのでOBの皆様の多数の御参加をお待ちしています。

尚、詳細につきましては、OB会事務局の方から御連絡申し上げます。

稲原ゼミOB会
体育会自動車部OB会

異動のあったときはただちにご連絡ください。
◆住所変更　◆呼称変更
◆勤務先変更　◆所属部課
◆役職異動　◆電話番号変更
などの場合は、同封してあります「名簿作成調査票」をご利用のうえ、本部へお届けください。

とくに、官公庁、金融機関、損保関係、国公立学校にご勤務の会員のご協力をお願い申しあげます。

コンピュータシステムの名簿をご利用ください。

同窓会会員名簿は、現在、同窓会独自でシステム化したコンピュータによる管理体制を採用しておりますので、

1、郵便番号による都道府県市町村別会員名簿作成
2、ゼミ別会員名簿作成
3、卒業回数別会員名簿作成
4、クラブ別会員名簿作成
5、業種別会員名簿作成
6、封筒用漢字ラベル作成

などのアウトプットが可能です。会員の皆さん、大いにご利用ください。

学　歌

作詞　秋本吉郎（元本学教授）
作曲　柴田南雄（放送大学教授）

1．大淀の　水は春ゆく　ゆたかな春だ
芽立つ葦原　緑が泌みる　この若さ
希望は明るい　蒼穹かけて
永遠の青春　みなぎる学園
大阪　大阪経済大学

2．大樟の　蔭は裕々　夏風そよぐ
学徒師弟が　幹負いもちて　諸汗に
確かと植えた　融和の象徴
繁れ自由の　花さく学園
大阪　大阪経済大学

学園歌

作詞　黒正　巖（昭和高商初代校長）
作曲　水野康孝（元本学教授）

1．商都の東北澱江に　臨みて高く聳り立つ　我等が昭和学園は
産業日本を双肩に　担うて進む若人の　力の糧の広野原

逍遥歌

作詞　中村行男（16回卒）
作曲　松川圭一（15回卒）

1．此処　城北に迎えたる
紺碧淀の春の夢
惜春の賦のただよえば
薫風静かに流れ来て
逝きし苦節の十余年
歴史は吾等に教うなり

2．水や濁れる人の世に
真理求めて遊ぶ子の
友愛久遠に変るまじ
汝が悲しみに我は泣き
吾が喜びに君や舞う
惜しみて励め我が青春を

3．踏めば小草も柔き
弥生の庭に集い来し
我が学舎の乙女子は
生命新たな此の曲に
花咲く野山花の下
声美しく歌うかな

澱江
1989

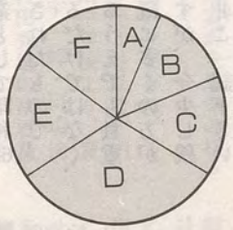
■発行日　1989年12月５日
■編　集　広報部
■発行所　大阪経済大学同窓会
〒533大阪市東淀川区大隅2-2-8
電話(06)328-2431
■印　刷　凸版印刷株式会社
〒553大阪市福島区海老江3-22-61
電話(06)454-3256

編集部だより

『澱江』愛読者アンケートの結果報告

『'88澱江』で愛読者の皆さまにお願いしましたハガキによるアンケートの結果が、このほどまとまりましたので報告いたします。

① 回答者の構成（卒業回数別構成比）



（単位：人数）

A—１～９回	11	(6.3%)
B—10～19回	23	(13.1%)
C—20～29回	27	(15.3%)
D—30～39回	55	(31.3%)
E—40～49回	36	(20.5%)
F—50～	24	(13.6%)
合計	176	

② 澱江でよく読む記事

※各年代層とも特集座談会「心の故郷わが母校」および母校の近況に興味を示していた。

A—心の故郷わが母校	42	(25.3%)
B—学園の近況	31	(18.7%)
C—同窓会支部だより	27	(16.3%)
D—北から南から	23	(13.9%)
E—キャンパスだより	13	(7.8%)
F—ゼミ短信	9	(5.4%)
G—同期生クラブOB	9	(5.4%)
H—卒業生直撃インタビュー	5	(3.0%)
I—先生の近況	4	(2.4%)
J—話題の同窓生	3	(1.8%)
合計	166	

③ 澱江に対する要望

※主として、大学に対する要望が多かった。様々なアイデア要望が寄せられた。

- ●PRをもっとうまくやって欲しい。
- ●マスコミを使って有名になって欲しい。
- ●総合大学になって欲しい。
- ●体育系クラブの情報を詳細にして欲しい。
- ●現在の大学の様子を詳細に書いて欲しい。
- ●何年卒が何回卒かの表をつけて欲しい。
- ●広告掲載等をして企業協賛の形で進めては。
- ●現役学生の意見も取り入れては。
- ●業種別又は、専門知識家のコーナーを取り入れては。

編集後記

▼「会いましょう!!話しましょう!!」を合言葉に、母校で開催された今年の総会、参加者が急増し熱気であふれんばかりでした。▼支部総会、クラブOB・同期会も活発、ただし、今年は「支部だより」に代え『同窓会のしおり』を同封しました。ご活用下さい。▼皆様のおかげで澱江購読料収入も増加しています。今後ともご協力のほど切にお願いします。▼本年度の『澱江』いかがでしょうか。編集スタッフが強化されての第一作、ご感想をお聞かせ下さい。▼表紙も、しばらくは同窓生の作品で飾りたいと思っています。自薦他薦をお待ちします。▼数々のご投稿、特集記事・インタビュー等にご協力いただいた方々に感謝し、やむなく割愛した方には心から深謝します。

経